

十勝川水系河川整備基本方針

十勝川水系の流域及び河川の概要

令和４年９月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

1. 流域の自然状況	1
1-1. 河川・流域の概要	1
1-2. 地形	4
1-3. 地質	5
1-4. 気候・気象	6
2. 流域及び河川の自然環境	8
2-1. 流域の自然環境	8
2-2. 河川及びその周辺の自然環境	16
2-3. 特徴的な河川景観や文化財等	25
2-4. 河川環境を取り巻く背景	38
2-5. 自然公園等の指定状況	40
3. 流域の社会状況	46
3-1. 人口	46
3-2. 土地利用	47
3-3. 産業・経済	52
3-4. 交通	54
3-5. 関係ある法令の指定状況	55
4. 水害と治水事業の沿革	59
4-1. 既往洪水の概要	59
4-2. 主な洪水の概要	60
4-3. 治水事業の沿革	65
5. 河川空間の現状	71
5-1. 河川敷等の利用の現状	71
5-2. 河川の利用状況	73
6. 河道特性	76
6-1. 十勝川の河道特性	77

6-2. 利別川の河道特性	78
6-3. 札内川の河道特性	79
6-4. 音更川の河道特性	79
6-5. 浦幌十勝川の河道特性	80
7. 河川管理	81
7-1. 河川管理区間	81
7-2. 河川管理施設	82
7-3. 砂利採取	83
7-4. 水防体制	83
7-5. 危機管理への取組	85
8. 地域との連携	86

1. 流域の自然状況

1-1. 河川・流域の概要

十勝川は、その源を大雪山系の十勝岳(標高 2,077m)に発し、山間峡谷を流れて十勝平野に入り、佐幌川、芽室川、美生川、然別川等の多くの支川を合わせて帯広市に入り、音更川、札内川、利別川等を合わせ、豊頃町において太平洋に注ぐ、幹川流路延長 156km、流域面積 9,010km² の一級河川である。

また、河口部には、十勝川本川より河口閉塞対策を目的として浦幌十勝導水路(昭和 57 年度(1982 年)完成)を通じて利水導水をうける浦幌十勝川(かつての十勝川河口)流域も有している。(昭和 58 年度(1983 年)に十勝川水系に編入。)

その流域は、帯広市をはじめとする 1 市 14 町 2 村からなり、流域の関係市町村の人口は、昭和 55 年(1980 年)と令和 2 年(2020 年)を比較すると約 32 万人と大きな変化はないものの、高齢化率約 8%から約 31%と大きく変化している。流域の土地利用は、山林が約 63%、畑地や牧草地等の農地が約 29%、宅地等の市街地が約 1%となっている。

伝統的なアイヌ文化では、川(ペツ、ナイ)は、水や食べ物をとる場所であり、大切な「道」でもあった。そのため、内陸のコタン(集落)は川の近くにつくられ、川は暮らしを支えてくれる存在であり、生きていくためにはなくてはならないものであった。

十勝川と人との繋がりには旧石器時代からあったことが知られており、その後、いくつかの時代を経て、13 世紀頃からはアイヌ文化が広がっていった。

また、流域には広大な十勝平野が広がり、帯広市周辺では小麦、甜菜、馬鈴薯、小豆、いんげん等の畑作主体の大規模な農業が営まれるとともに、酪農、畜産も盛んであり、それらを加工する食料品製造業なども多数存在して日本有数の食料供給地となっている。その礎は、北海道の開拓が官主導で進められる中、民間の開拓民によって築かれたものであり、北海道に占める農業生産額の割合は約 26%(2018 年)と最も大きい。

沿川には、JR根室本線、国道 38 号、236 号、241 号、242 号等の基幹交通施設に加え、国土開発幹線道路等の北海道横断自動車道や帯広・広尾自動車道の整備も進められるなど、交通の要衝ともなっており、北海道東部の社会・経済・文化の基盤を成している。

十勝川流域は、大雪山国立公園、阿寒国立公園、日高山脈襟裳国立公園をはじめとする雄大で変化に富んだ自然景観、針葉樹林や針広混交林、カシワ等の広葉樹林、氷河期の遺存種として知られているケショウヤナギ林、湿原群落等の植物相、サケ、シシヤモ等の遡上、産卵や、タンチョウの営巣地や採餌場、ガン・カモ・ハクチョウ類等渡り鳥の中継地として重要な位置を占める等、豊かな自然環境に恵まれている。また、河川水の利用としては、開拓農民による農業用水の利用(取水)に始まり、発電用水などへの利用とともに、サケ、マス等のふ化養魚用水にも利用されている。

さらには、河川空間を利用した人と川とのふれあいの場や、環境学習、自然観

察、イベントなど、多様な利活用及び様々な生物の生息・生育・繁殖環境であり、自然環境・河川景観に優れている。

このように、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



項目	諸元	備考
流路延長	156km	全国 17 位
流域面積	9,010km ²	全国 6 位
流域市町村	1 市 14 町 2 村	帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、中札内村、更別村
流域内人口	約 32 万人	令和 2 年国勢調査
河川数	208	
想定氾濫区域面積	617.7 km ²	第 10 回河川現況調査
想定氾濫区域内人口	約 15.8 万人	第 10 回河川現況調査

図 1-1 十勝川水系流域図



◀ 十勝川上流部
(十勝ダム(新得町)付近)



十勝川上流部 ▶
(清水町付近)



◀ 十勝川中流部
(音更町・幕別町付近)



十勝川下流部 ▶
(豊頃町付近)

(令和2年10月撮影)

写真 1-1 十勝川の状況

1-2. 地形

流域の地形は、^{ひだか}日高山脈、^{あかん}大雪山系、^{しらぬか}阿寒山系、白糠丘陵地に囲まれた十勝平野が展開し、十勝河口、南十勝の海岸平野を除けば、帯広市を中心とする盆地状の平野である。十勝平野には各種の扇状地、段丘が広がり、東部から南にかけては標高 200～800m の白糠丘陵、豊頃丘陵が分布し、各河川に沿って新旧の数段からなる河岸段丘が形成されている。

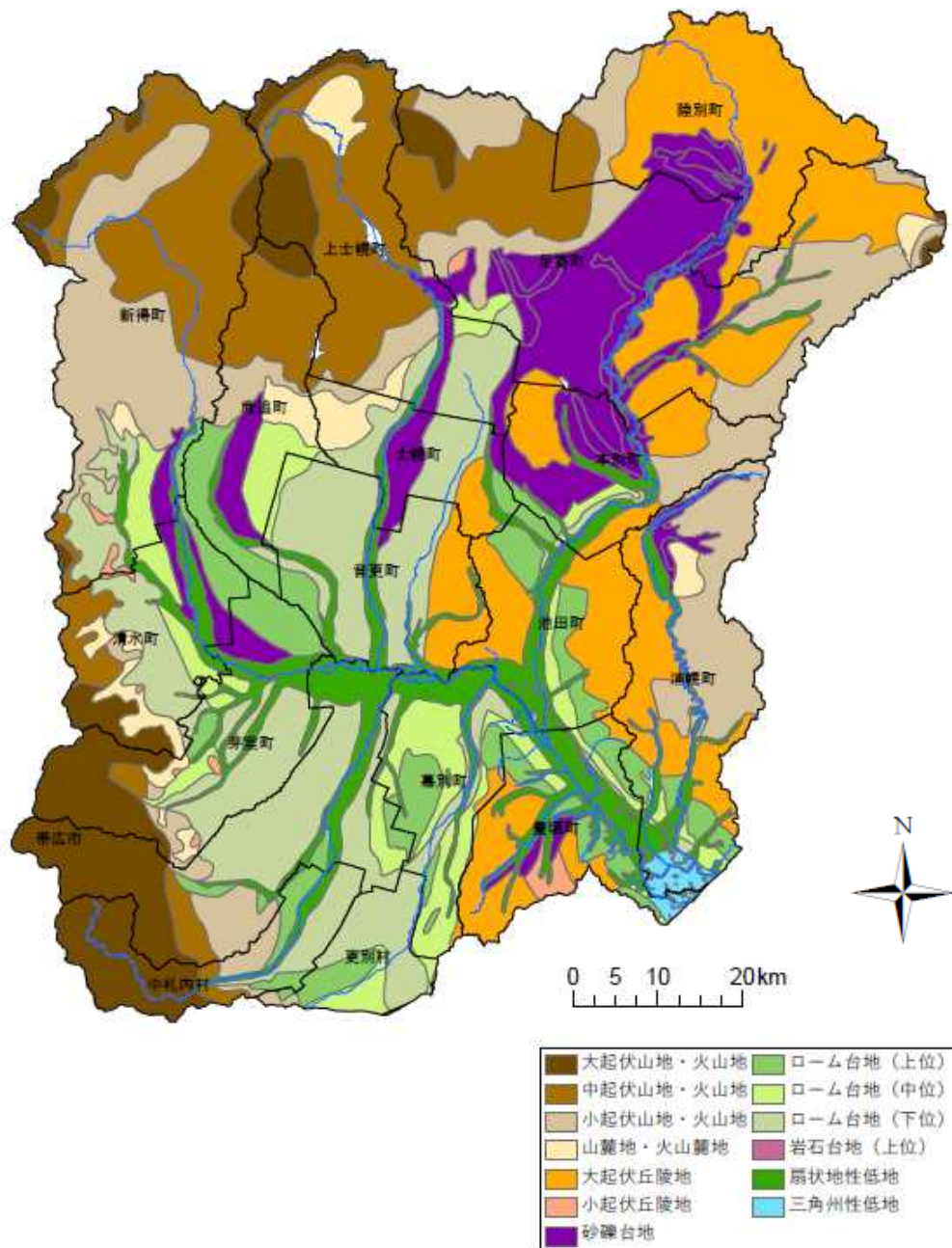


図 1-2 十勝川流域の地形

「国土数値情報（20 万分の 1 土地分類基本調査）」（国土交通省）

(https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_20-1.html) を加工して作成

1-3. 地質

流域の地質は、上流部では熔結凝灰岩をはじめとした火成岩が分布し、中・下流部には広く洪積層、沖積層が分布している。また、下流部には数メートルの厚さで泥炭層が広がっている。中・下流部に広がる十勝平野には、扇状地や段丘、台地が広がっており、東部から南にかけては、標高 200m～800m の白糠丘陵、豊頃丘陵が分布している。

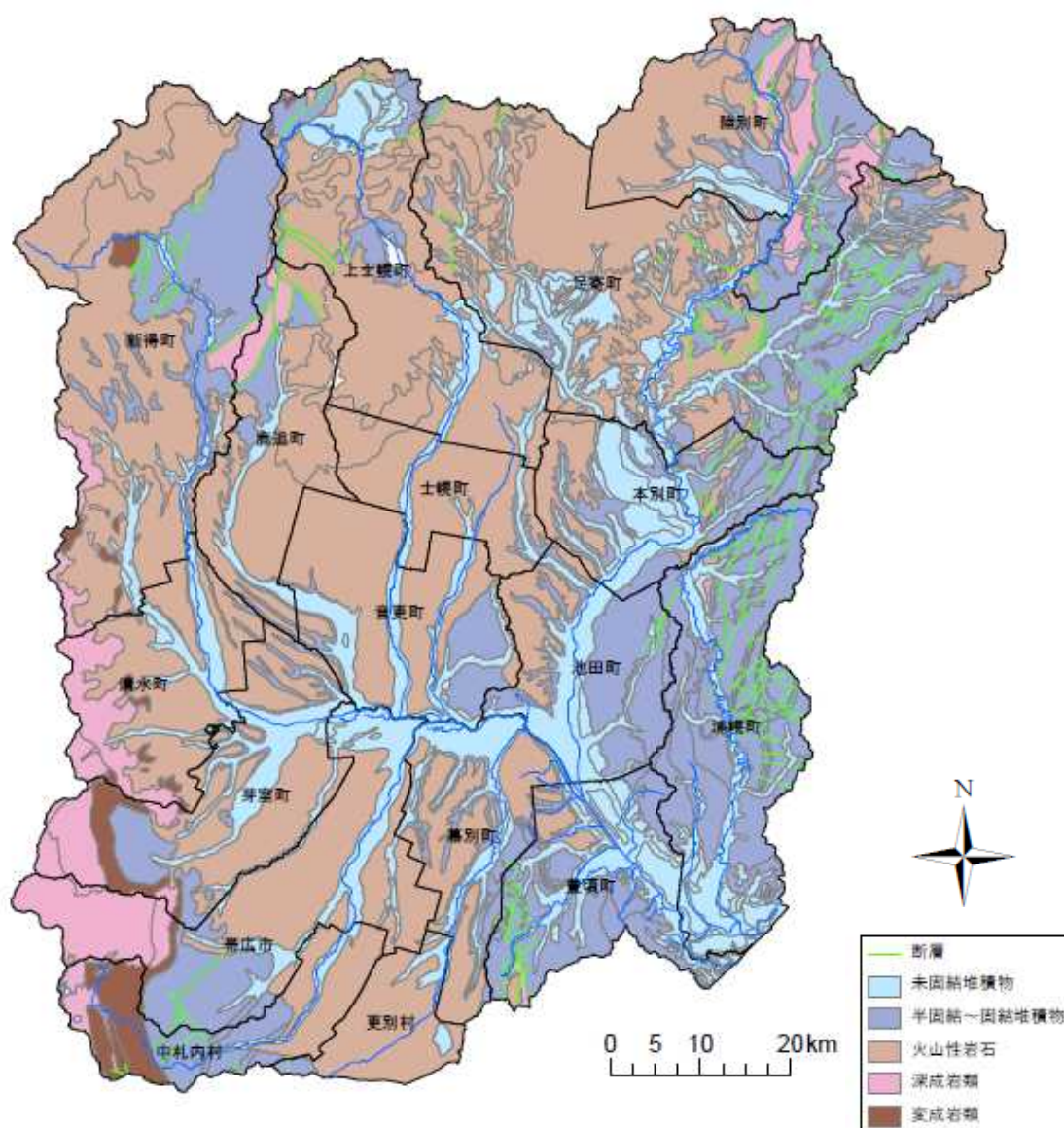


圖 1-3 表層地質圖

「国土数値情報（20 万分の 1 土地分類基本調査）」（国土交通省）

(https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_20-1.html) を加工して作成

1-4. 気候・気象

北海道の気候は、太平洋側西部気候区、太平洋側東部気候区、日本海側気候区、オホーツク海側気候区の4つの気候区に区分されている。その特徴としては、梅雨期がなく、春期の気温上昇と降雨により融雪洪水が起こりやすく、大雨は夏季末期から秋季の台風と前線の影響によってもたらされることである。

平均年降水量は、北海道で1136.1mmとなっており、全国平均の1676.4mmと比較すれば雨の少ない地域に分類される。日照時間は北海道で1698.8時間と全国平均の1915.4時間よりも短いものとなっている。風は北海道で平均風速4.0m/sとなっており、全国平均の2.9m/sよりも大きいものとなっている。降水量は8～9月に最も多いことが特徴的である。

上流域では、新得の年間平均気温で6.9℃、平均風速1.7m/s、日照時間1632.8時間、降水量1176.8mmとなっている。全道平均に比べ年間平均気温がやや低く、日照時間が短いものとなっている。十勝川流域のほかの地域と比較すると、日照時間が短く、降水量が多いのが特徴である。

十勝平野の広がる中流域では、帯広の年間平均気温で7.2℃、平均風速2.1m/s、日照時間2020.1時間、降水量919.7mmとなっている。全道平均に比べ年間平均気温がやや低いものとなっているが、日照時間は長く、また降水量は少ないものとなっている。十勝川流域のほかの地域と比較しても同様に、日照時間は長く、降水量は少ないものとなっている。

下流域では、大津^{おおつ}の年間平均気温で5.7℃、平均風速2.3m/s、日照時間1894.0時間、降水量1076.0mmとなっている。全道平均に比べ年間平均気温が低いが、日照時間は長く、また降水量は少ないものとなっている。十勝川流域のほかの地域と比較すると、平均気温が低いのが特徴である。



図 1-4 気候区分図

※「北海道の気候」を基に作成

表 1-1 主な気象観測値

項目	帯広	新得	大津	全道平均	全国平均
平均気温 (°C)	7.2	6.9	5.7	7.9	15.5
最高気温 (°C)	34.2	32.9	30.2	34.2	38.6
最低気温 (°C)	-21.7	-21.3	-21.9	-19.0	-6.2
平均風速 (m/s)	2.1	1.7	2.3	4.0	2.9
最大風速 (m/s)	13.3	8.8	14.2	25.0	24.3
日照時間 (時間)	2020.1	1632.8	1894.0	1698.8	1915.4
降水量 (mm)	919.7	1176.8	1076.0	1136.1	1676.4

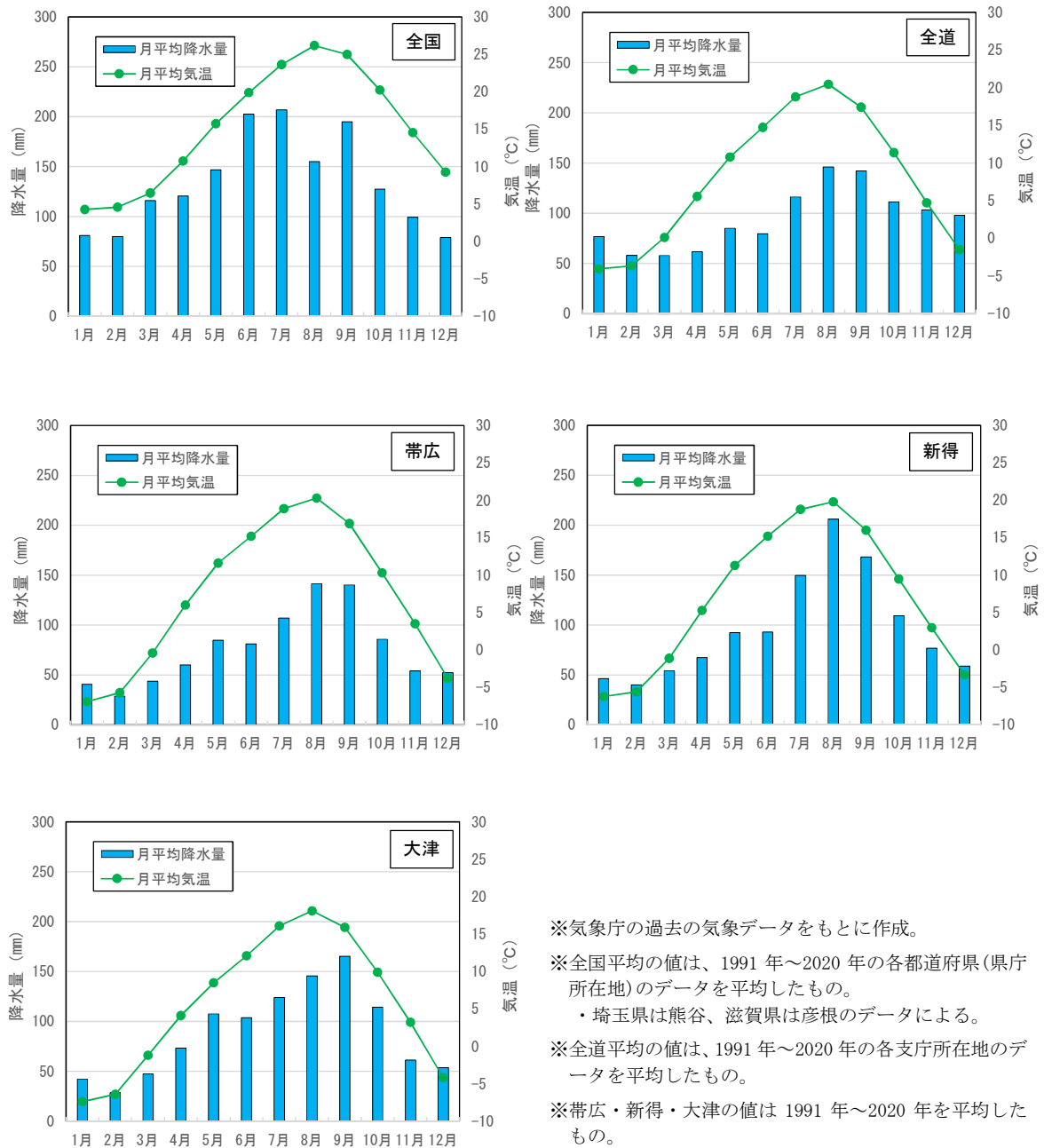


図 1-5 月別降水量

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

広い流域を持ち、上下流にわたって様々に環境が変化する十勝川水系では、多種多様な生物の生息・生育が確認されている。

上流域においては、森林環境と清流に恵まれ、それを好むアオジやコアカゲラなどの鳥類や、イトウをはじめサクラマスやハナカジカ、エゾウグイなどの魚類が確認されている。また、北海道レッドデータブックで希少種に指定されているケショウヤナギが広く分布している。

中流域では、十勝地方の中核都市である帯広市街地を流下し、支流の音更川や札内川が合流する。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林や草原等の多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。

河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落がある。ヨシ群落等の湿生草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡は、国の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、カモ類、カモメ類といった渡り鳥の越冬地および中継地となっている。また、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシャモが遡上・産卵しているほか、十勝川では、サケの増殖事業も行われている。



タンチョウ



ケショウヤナギ



(令和2年9月撮影)

十勝川の河口付近の状況



トイトッキ浜

写真 2-1 流域の自然環境

(植生)

流域の源流部に位置する大雪山系では、源流部ではハイマツやエゾマツ、トドマツを主とする針葉樹林や針広混交林が広がる。十勝川の上流域や支流札内川、音更川ではケショウヤナギの群落が見られる。乾性の立地ではミズナラ、やや湿性な立地ではハルニレ、ヤチダモなどが見られる。

河畔林はオノエヤナギが多くみられる。低湿地などではヨシ群落等の湿生草原が分布しており、大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が北海道指定の天然記念物となっている。



写真 2-2 十勝川源流部の植生

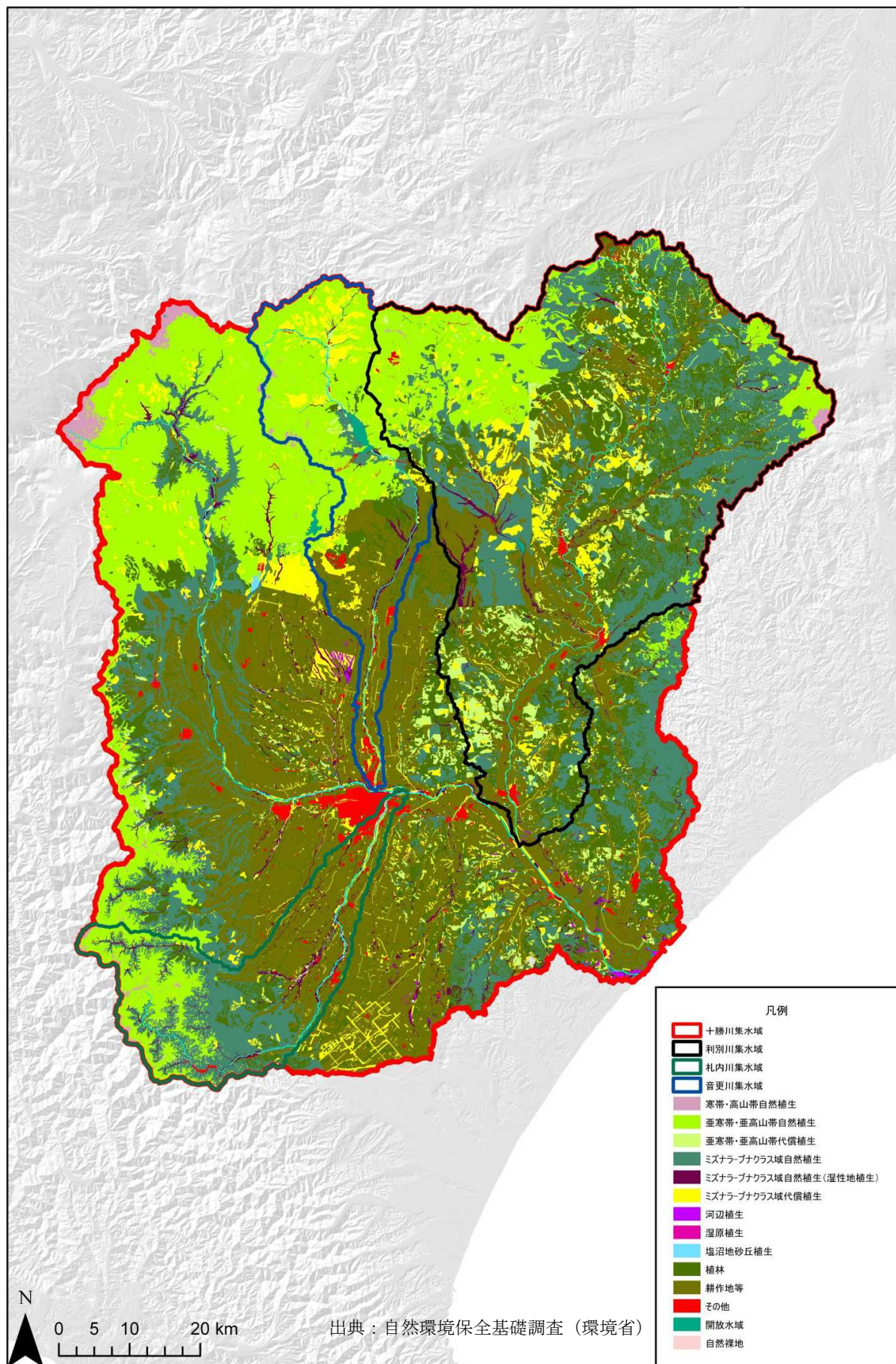


図 2-1 十勝川流域植生図

(哺乳類)

哺乳類ではエゾヤチネズミ、エゾリスなどが挙げられる。



エゾリス

写真 2-3 哺乳類

(鳥類)

河口部ではカモメ類、下流部ではヒバリなどの草原性鳥類、上流部ではアオジやコアカゲラなどの森林性鳥類が多く確認されており、水辺ではイソシギやコチドリなどのシギ・チドリ類、オオハクチョウ、ヒシクイなどの水辺性の鳥類が生息している。繁殖期には河川敷に生息するオオジシギなどの草原性鳥類やセンダイムシクイなどの森林性鳥類、砂礫地を利用するイカルチドリなどのチドリ類、河岸部で集団営巣するショウドウツバメなど多くの鳥類が確認されており、越冬期や渡り期においても十勝川水系が鳥類にとって重要な生息地になっている。また、十勝川の下流域には国の特別天然記念物であるタンチョウも生息しているほか、オジロワシやオオワシなども確認されている。



オジロワシ



アオジ

写真 2-4 鳥類

(両生類)

両生類ではエゾサンショウウオなどが確認されている。

(魚類)

十勝川は北海道の河川の中では魚類相が豊富な川として知られている。十勝川の河口域では、ヌマガレイやシラウオといった汽水性・回遊性の種類が多い。千代田堰堤から下流域ではエゾウグイなどのウグイ類が多くを占める。また、十勝川は、サケ・マスの遡上河川でもあり、河口より 7～11km 上流の地点付近はシシャモの主要な産卵場として知られている。また、支流である然別川しかりべつの上流では「然別湖のオショロコマ生息地」が北海道指定の天然記念物となっている。



遡上するサケ
写真 2-5 魚類

(昆虫類)

十勝川は、源流部から河口にかけて、多様な環境が存在している。そのため、環境に応じてオクエゾトラカミキリといった河畔の樹木・森林等に生息するものなど多種多様な昆虫類が生息している。

表 2-1 十勝川水系の重要種-1

区分	No.	種名	指定区分				その他
			文化財保護法	種の保存法	環境省 レッドリスト	北海道レッド データブック	
植物	1	ヤチスギナ			VU	Vu	
	2	チシマヒメドクサ			CR	R	
	3	ネムロコウホネ			VU	Vu	
	4	ヒメカイウ			NT		
	5	イトモ			NT		
	6	イヌイトモ			CR	En	
	7	リュウノヒゲモ			NT		
	8	イトクズモ			VU	Vu	
	9	シラオイエンレイソウ			VU		
	10	クロユリ				R	
	11	ヒロハトンボソウ			VU		
	12	ミクリ			NT	R	
	13	エゾミクリ				R	
	14	タマミクリ			NT		
	15	セイトカヌカボシソウ			EN		
	16	カヤツリスゲ			EN	R	
	17	ネムロスゲ			NT		
	18	ホソバオゼヌマスゲ			NT		
	19	イトヒキスゲ			VU		
	20	シオクグ				Vu	
	21	アカンカサスゲ				R	
	22	エゾハリスゲ			EN		
	23	ウキガヤ				R	
	24	ホソバナソモソモ				R	
	25	ホソバドジョウツナギ			CR		
	26	マツモ				R	
	27	チドリケマン			VU		
	28	フクジュソウ				Vu	
	29	コキツネノボタン			VU		
	30	バイカモ				R	
	31	シコタンキンボウゲ			NT		
	32	チトセバイカモ			EN	R	
	33	ハルカラマツ			VU		
	34	トカチスグリ			VU		
	35	ムラサキベンケイソウ			VU		
	36	アズマツメクサ			NT	R	
	37	モメンヅル				R	
	38	カラフトモメンヅル			EN	R	
	39	ヒロハノカワラサイコ			VU		
	40	カラフトイバラ				R	
	41	ヤエガワカンバ			NT		
	42	ケショウヤナギ				R	
	43	ヤマタニタデ			VU		
	44	クロビイタヤ			VU		
	45	エゾノミズタデ				Vu	
	46	ヤナギヌカボ			VU	R	
	47	サデクサ				R	
	48	ノダイオウ			VU		
	49	オオハコベ			VU		
	50	エゾノハナシノブ			VU	R	
	51	クリンソウ				Vu	
	52	エゾオオサクラソウ				R	
	53	エゾムラサキツツジ			VU		
	54	エゾキヌタソウ			VU		
	55	ホソバノツルリンドウ			VU		
	56	ヒシモドキ			EN		
	57	キタミソウ			VU	Cr	
	58	エゾナミキ			VU		
	59	タヌキモ			NT	R	
	60	アサザ			NT		

(出典：河川水辺の国勢調査)

表 2-2 十勝川水系の重要種-2

区分	No.	種名	指定区分				その他
			文化財保護法	種の保存法	環境省 レッドリスト	北海道レッド データブック	
植物	61	キタノコギリソウ			VU		
	62	イワヨモギ			VU		
	63	ヌマゼリ			VU		
	64	ネムロブシダマ			VU		
両生類	1	エゾサンショウウオ			DD	N/LP	
哺乳類	1	カグヤコウモリ				Nt	
	2	ドーベントンコウモリ				N	
	3	ヤマコウモリ			VU	Nt	
	4	コテングコウモリ				N	
	5	テングコウモリ				Nt	
	6	エゾシマリス			DD	Dd	
	7	カラフトアカネズミ				N	
鳥類	1	ヒシクイ	天		VU	N	
	2	マガン	天		NT	N	
	3	オシドリ			DD	Nt	
	4	タンチョウ	特天	国内	VU	Vu	
	5	イカルチドリ				Dd	
	6	ヤマシギ				N	
	7	オオジシギ			NT	Nt	
	8	ホウロクシギ			VU	Vu	
	9	ツルシギ			VU	Vu	
	10	ウミネコ				Nt	
	11	オオセグロカモメ			NT	Nt	
	12	コアジサシ			VU		
	13	ミサゴ			NT	Nt	
	14	オジロワシ	天	国内	VU	Vu	
	15	オオワシ	天	国内	VU	Vu	
	16	ハイタカ			NT	Nt	
	17	オオタカ			NT	Nt	
	18	ヤマセミ				N	
	19	コアカゲラ				Dd	
	20	ハヤブサ		国内	VU	Vu	
	21	マキノセンニュウ			NT	Nt	
	22	ホオアカ				Nt	
魚類	1	カワヤツメ			VU	Nt	
	2	ヤチウグイ			NT	Nt	
	3	マルタ				N	
	4	エゾウグイ				N	
	5	ドジョウ			NT		
	6	エゾホトケドジョウ			EN	En	
	7	シラウオ				Vu	
	8	イトウ			EN	En	
	9	サクラマス（ヤマメ）			NT	N	
	10	イトヨ				N	
	11	ニホンイトヨ				N	
	12	エゾトミヨ			VU	Nt	
	13	ハナカジカ				N	
	14	エゾハナカジカ				Nt	
	15	ジュズカケハゼ			NT		
陸上昆虫	1	マダラヤンマ			NT	R	
	2	エゾカオジロトンボ			NT	Vu	
	3	ヒメリスアカネ				R	
	4	サッポロウンカ				R	
	5	マルツノゼミ				R	
	6	クロスジコアカカミメ				R	
	7	モンクサカゲロウ				R	
	8	セボシクサカゲロウ				R	
	9	タイリクウンモントビケラ				R	
	10	ギンイチモンジセセリ			NT		Dd
	11	カバイロシジミ			NT		

(出典：河川水辺の国勢調査)

表 2-3 十勝川水系の重要種-3

区分	No.	種名	指定区分				その他
			文化財保護法	種の保存法	環境省 レッドリスト	北海道レッド データブック	
陸上昆虫	12	ゴマシジミ北海道・東北亜種			NT		N
	13	ウラギンスジヒョウモン			VU		
	14	ヒョウモンチョウ東北以北亜種			NT		Dd
	15	スゲドクガ			NT		
	16	エゾヘリグロヨトウ					Nt
	17	ガマヨトウ			VU		
	18	ノコスジモンヤガ					Nt
	19	マガリスジコヤガ			VU		
	20	エゾクロバエ				R	
	21	チビクロニクバエ				R	
	22	シロガネニクバエ				R	
	23	セアカオサムシ			NT		
	24	エゾアオゴミムシ					Nt
	25	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		
	26	キベリマメゲンゴロウ			NT		
	27	コミズスマシ			EN		Dd
	28	ミズスマシ			VU		Nt
	29	クビボソコガシラミズムシ			DD		
	30	エゾガムシ			NT		Dd
	31	シジミガムシ			EN		Dd
	32	クロモンマグソコガネ			NT		
	33	オクエゾトラカミキリ					Nt
	34	ツノアカヤマアリ			DD		
	35	ツヤクシケアリ				R	
	36	ニッポンホオナガスズメバチ			DD		
	37	モンスズメバチ			DD		
	38	チャイロスズメバチ				R	
底生動物	1	マルタニシ			VU		
	2	モノアラガイ			NT		
	3	ケシゲンゴロウ			NT		
	4	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		
	5	キボシツブゲンゴロウ			NT	Nt	
	6	キベリマメゲンゴロウ			NT		
	7	エゾコオナガミズスマシ			NT	Nt	
	8	ハセガワドロムシ				Nt	

(出典：河川水辺の国勢調査)

● 重要種の選定基準

文化；文化財保護法

天：天然記念物 特天：特別天然記念物

絶滅；絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律

国内：国内希少野生動植物 特定：特定国内希少野生動植物 緊急：緊急指定種

NRL；環境省レッドリスト2020（環境省，2020）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

HRDB；北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック（北海道，2001）

Ex：絶滅種 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種 R：希少種

N：留意種 Lp：地域個体群

HRL；北海道レッドリスト【昆虫＞コウチュウ目編】改訂版（2019年）（北海道，2019）

Ex：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

N：留意 Dd：情報不足 Lp：絶滅のおそれのある地域個体群

● 出典

各分類群について、最新2回分の河川水辺の国勢調査により作成した。

植物：H21・H26／哺乳類・は虫類・両生類：H20・H30／鳥類：H16、H25

魚類・底生動物：H24・H29／陸上昆虫類：H15・H25

2-2. 河川及びその周辺の自然環境

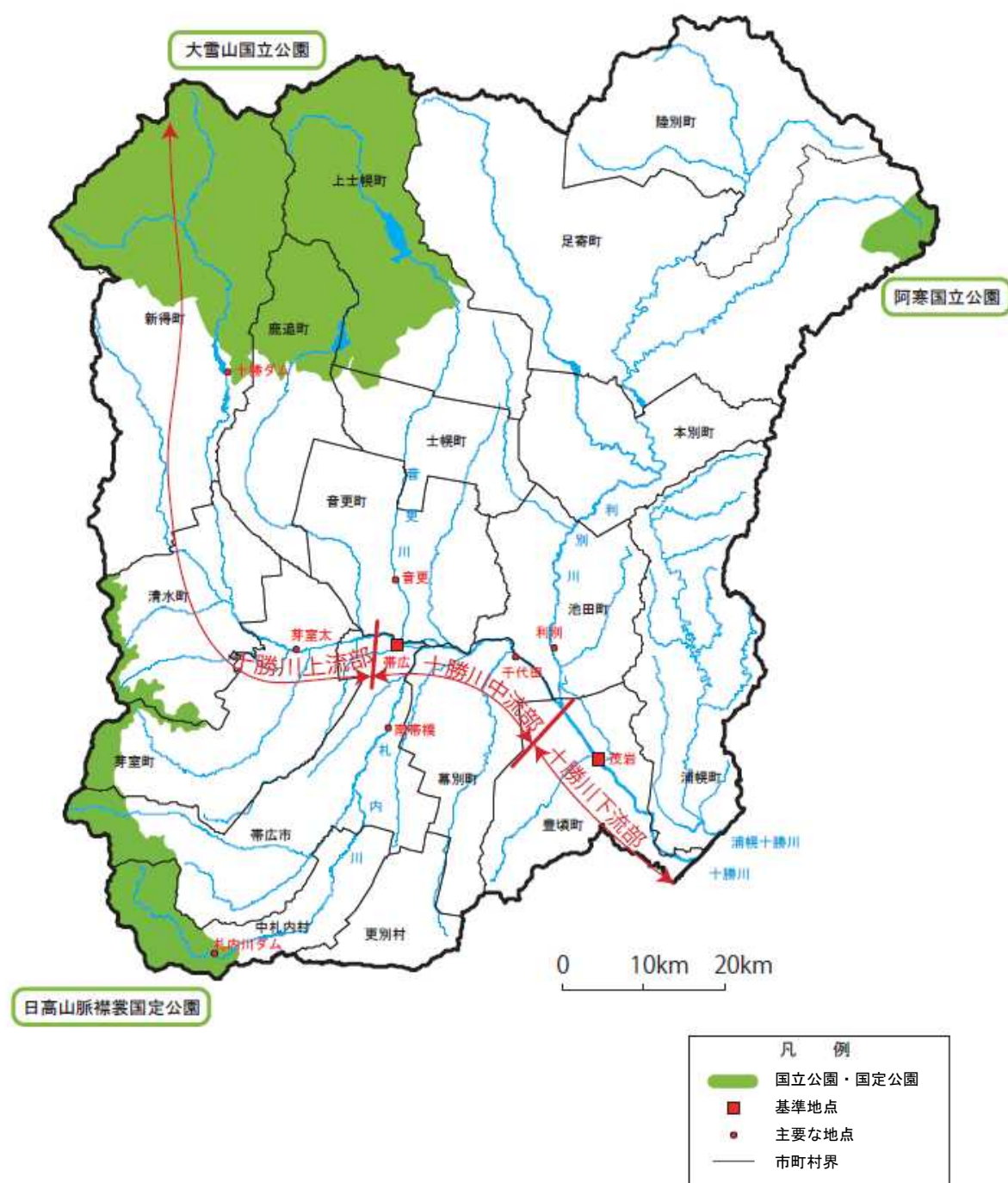


図 2-2 十勝川流域図

① 源流域

源流から十勝平野に至るまでの十勝川は、十勝ダムを経由して、自然豊かな溪谷を縫流している。この地域は、大部分が大雪山国立公園に指定されており、ハイマツ、エゾマツ、トドマツ林等の針葉樹林や針広混交林が広がっており、四季折々で様相を変える雄大な景勝地となっている。



写真 2-6 十勝川源流

② 上流域

札内川合流点付近までの上流部は、河床勾配が約 1/200～1/600 であり、河道は砂礫の複列砂州を形成している。高水敷等には、オノエヤナギ、ハルニレのほか、氷河期の遺存種のケショウヤナギが広く分布しており、国内最大の淡水魚であるイトウをはじめ、エゾウグイ、サクラマス、ハナカジカ等が生息している。さらに、河畔林には、アオジやコアカゲラ、センダイムシクイ等、砂礫の河原には、イカルチドリ、コチドリ、イソシギ等が生息している。



写真 2-7 十勝川上流 KP92 付近 (令和 2 年(2020 年)10 月撮影)



写真 2-8 センダイムシクイ



写真 2-9 ハナカジカ
(北海道レッドリスト：留意種)

③ 中流域

札内川合流点から利別川合流点^{としべつ}に至る中流部は、河床勾配が約 $1/800 \sim 1/1,200$ であり、やや大きく蛇行しながら流れる。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林や草原等の多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。ヤナギ高木林やハルニレ林を中心とした河畔林が見られる。河原にはオクエゾトラカミキリ等の昆虫類も確認されている。鳥類はヒシクイなどの渡り鳥の越冬地及び中継地となっている。また、魚類では、エゾウグイやフクドジョウ、イトヨ、ハナカジカ、カワヤツメ等が生息しているほか、千代田堰堤^{よだえんてい}ではサケの遡上が見られる。



写真 2-10 十勝川中流 KP51 付近 (令和 2 年(2020 年)10 月撮影)

④ 下流域

利別川合流点から河口までの下流部では、河床勾配が約 1/3,000～1/4,500 であり、沖積平野を緩やかに蛇行して河口に至っている。広い高水敷は、その多くが採草放牧地として利用されている。河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が分布している。ヨシ群落等の湿性草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡地は、ホソバドジョウツナギ、ヒシモドキ等の貴重な植物の生育地であるとともに、国指定の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、穏やかな水辺はヒシクイ等のカモ類、カモメ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地になっているほか、オジロワシやオオワシ、ミサゴの採餌場になっている。また、シラウオやヌマガレイ、ボラ等の汽水性の魚類が生息しているほか、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシヤモが遡上、産卵している。



写真 2-11 十勝川下流 河口付近 (令和 2 年(2020 年)9 月撮影)



特別天然記念物
国内希少野生動植物
環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類
北海道レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類

写真 2-12 タンチョウ

⑤ 支川

支川の音更川は、その源を音更山付近に発し、途中に糠平ダム、元小屋ダム等を経由して、上士幌町、士幌町、音更町を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。高水敷等は、砂礫地を好み、北海道と上高地のみに生育する氷河期の依存種であるケショウヤナギの群落や大径木のハルニレが繁茂しているほか、一部が採草放牧地として利用されており、オオジシギ、ヒバリ等の草地性の鳥類が生息している。その他、オジロワシやハイタカなどの猛禽類や樹林性のコアカゲラやショウドウツバメが生息し、イワツバメの集団営巣地も確認されている。また、エゾサンショウウオなども確認されている。



写真 2-13 音更川 KP19 付近 (令和 2 年(2020 年)10 月撮影)



写真 2-14 ハイタカ
(北海道レッドリスト：準絶滅危惧)

支川の札内川は、上流部に日高山脈襟裳^{えりも}国定公園があり、札内川ダムを經由して、中札内村を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。また、清流日本一になるなど良好な水質が保たれている。河川は蛇行し、砂礫の複列砂州が多く見られ、河畔等には、ケショウヤナギ林が広がり、札内川特有の河川景観を呈している。なお、これらのケショウヤナギ林の一部は、北海道指定の天然記念物となっており、札内川ダムによる中規模フラッシュ放流の実施による保全等も図っている。また、カシワ、ハルニレ、ヤチダモなどの大径木の多い樹林がみられ、樹林環境に依存する動物の生息環境となっており、哺乳類ではカラフトアカネズミ等、両生類ではエゾサンショウウオ等の生息が確認されている。鳥類では、礫河原で営巣するイカルチドリ等が確認されている。

魚類では、エゾウグイ、サクラマス（ヤマメ）、ハナカジカ等の希少な魚類が生息するほか、下流部には湧水地がみられサケの産卵床が確認されている。



写真 2-15 札内川 KP42 付近 (令和 2 年(2020 年)10 月撮影)



写真 2-16 ケショウヤナギ
(北海道レッドリスト：希少種)



写真 2-17 サクラマス(ヤマメ)
〔環境省レッドリスト：準絶滅危惧
北海道レッドリスト：留意種〕

十勝川水系最大の支川である利別川は、支川の足寄川の上流部に阿寒^{あかん}国立公園があり、陸別町から足寄町、本別町を通過し、ワインの製造が盛んな池田町を経て、十勝平野の東部で十勝川に合流する。高水敷等は市街地周辺を除き採草放牧地等に多く利用されているが、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモなどの大径木の多い河畔林が残り、シジュウカラ、アカゲラ、エゾヤチネズミ、エゾリス等樹林性の動物の生息も確認されている。また、河岸の土の崖では、ショウドウツバメの集団営巣地が多く見られる。

魚類では、カワヤツメやエゾウグイ、エゾハナカジカ、イトヨ等も生息している。

なお、本川や支川には、ウチダザリガニやオオハンゴンソウ等の外来種の生息・生育が確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念されている。



写真 2-18 利別川 KP28 付近 (令和2年(2020年)9月撮影)



写真 2-19 ショウドウツバメ集団営巣地



写真 2-20 エゾウグイ
(北海道レッドリスト：留意種)

浦幌十勝川は、旧十勝川の河口であったが、トイトッキ締切堤の完成によって浦幌十勝川となった。支流の下頃辺川^{したころべがわ}、浦幌川、十勝静内川^{しずないがわ}をあわせて太平洋に流れる。下流域は緩やかに流れ、感潮域が広がっている。上流の下頃辺川は、人工的に掘り込まれた河道内を河川が流れており砂礫堆の面積は小さい。

河口付近ではテンキグサ等の砂丘植生が発達しており独特の景観を呈している。また、高水敷上はヨシ群落やクサヨシ群落が発達しており、エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ等のヤナギ林が繁茂している。鳥類では、国の特別天然記念物であるタンチョウ等がみられる。魚類では、ヌマガレイ等の汽水性の種が見られるほか、ジュウサンウグイやイトヨ、エゾハナカジカ等の回遊魚が生息している。



写真 2-21 浦幌十勝川 河口付近 (令和2年(2020年)9月撮影)



写真 2-22 エゾハナカジカ

北海道レッドデータブック：留意種

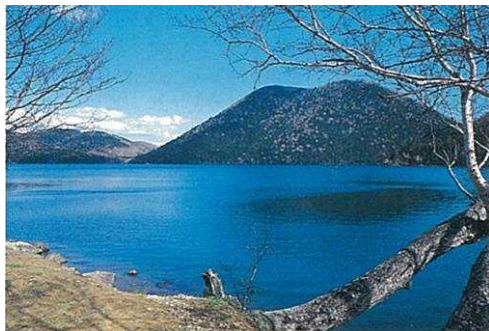
2-3. 特徴的な河川景観や文化財等

① 観光・景勝地

十勝川の源流部は、大雪山国立公園に指定され、亜寒帯特有の針広混交林の森林景観が広がっている。支流の利別川は長流枝内丘陵に、札内川は、日高山脈に、音更川は然別火山群にそれぞれ水源を有している。支流である然別川の上流では「然別湖のオショロコマ生息地」が北海道指定の天然記念物となっている。

中流部には日本でも珍しいモール（植物性）温泉である十勝川温泉があり、その下流に位置する千代田堰堤では、毎年10月頃にはサケの遡上・捕獲を見物することができる場所となっており、毎年、多くの観光客が訪れている。

下流部では、十勝川の高水敷に生育する推定樹齢150年のハルニレが豊頃町指定文化財となっている。また、河口部で見られる十勝川を覆い尽くす氷が流れ出し、大津海岸に打ち上げられた氷の塊が太陽の光を受けて輝く自然現象「ジュエリーアイス」は新たな観光資源となっている。



然別湖



千代田堰堤



ジュエリーアイス



ハルニレ



十勝川の雲龍

写真 2-23 観光・景勝地

表 2-4 主な観光対象（1）

項目	市町村名	名称	内 容
自然	鹿追町	然別湖	広大な大雪山国立公園の南に位置し、周りが1000m級の山々に囲まれた、手つかずの自然が残る山間の湖。湖自体も標高約810mと北海道でもっとも高地に位置するため、湖に向かう途中は雲の中なのに、たどり着いたら“雲の上の楽園”となっていることも。雲ひとつない晴天と青い湖面、周囲の緑が一体となった、青と緑の世界が広がります。新緑から夏はアウトドアスポーツを楽しむ人でにぎわい、秋は紅葉が格別な美しさです。冬は氷点下の氷の別世界が体験できます。然別湖は、北海道一標高の高い場所にある原生林に囲まれた自然湖で、四季を通じて様々な表情を見せる人気のスポット。深く生い茂ったダケカンバやナナカマドが色づく紅葉シーズンには観光客や地元の人々が集まり、その美しさに魅了されます。湖を一周する遊覧船も運航しているので、湖畔からは見られない水際の紅葉を楽しむのもオススメです。
	豊頃町	豊頃のハルニレ	豊頃町のカントリーサインにも使われているハルニレは、十勝川の河川敷に立つ推定樹齢150年という大木。2本の木が成長過程で一体化したもので、町の文化財にも指定されています。横に大きく枝を広げた美しい姿が特徴的で、幹の周囲は約3.6m、高さは約18m、枝の幅は23mにも及びます。自然の中で長い年月をかけて寄り添った姿は永遠の愛を誓う恋人にたとえられ、この木を見に訪れるカップルも少なくないそうです。
	足寄町	オンネトー	阿寒摩周国立公園の深い森にたたずむ文字通りの秘湖。太陽の角度によって刻々と色を変える湖面は、神秘的というほかありません。また、湖畔から見る雌阿寒岳、阿寒富士の端正な姿はまさに絶景。湖畔には湖を一周する散策路が設けられているので、森林浴を楽しみながらのんびり散策するのがおすすめです。湖の北側にある雌阿寒岳温泉は情緒たっぷり、温泉らしい硫黄臭が漂います。ここで湯船につかってから帰途につくのもいいでしょう。「阿寒摩周国立公園」にあるオンネトーは、見る時間や季節によって湖面の色が変化する周囲3km程の湖。9月下旬からアカエゾマツやナナカマドなどの湖畔の木々が色づき始め、ブルーの湖面に鮮やかに映されて幻想的な雰囲気演出します。周辺には遊歩道が整備されているので、散策しながら湖畔のどこからでも紅葉を見ることができるほか、近くの雌阿寒温泉では日帰り入浴も楽しめます。
	中札内村	ビョウタンの滝	昭和30年、小さな発電所が洪水によって埋没した際にできた滝。日高山脈をバックに、札内川の美しい水が豪快に流れ落ち、すぐ下流にかかる橋から見学することができます。隣接する札内川園地内にはテニスコートやキャンプ場もあり、家族で楽しめます。また園地内には日高山脈の自然や歴史を学べる「日高山脈山岳センター」があり、自由に見学できます。札内川上流にある「ビョウタンの滝」は、昭和30年、小水力発電所の貯水池を目的とした「農協ダム」が洪水によって埋没したことで出来た滝です。札内川の清流を集めて10メートルの落差で流れ落ちる迫力の景観は見ごたえ十分。周囲の木々が赤・黄に色づく紅葉時期は、滝とのコントラストが鮮やかです。また、札内川園地には「日高山脈山岳センター」があり、日高山脈の自然や日高登山の歴史を伝える記録を展示しています。
	上士幌町	糠平湖（ビュースポット）	人造湖としては道内第4位の規模で、周囲33kmの大きさをもつ糠平湖。湖畔には静かな温泉街があり、糠平ダムの上からはウベバサンケ山、ニベソツ山といった東大雪連峰の山々を望むことができます。また近年人気急上昇中のスポットが、湖の北部にあるタウシュベツ川橋梁。旧国鉄士幌線の橋で、湖面に映るアーチの様子から「めがね橋」とも呼ばれています。湖の周辺ではキャンプや登山、冬にはワカサギ釣りなども楽しむことができます。
	上士幌町	ひがし大雪自然ガイドセンター	『ひがし大雪自然ガイドセンター』では、ぬかびら源泉郷周辺の自然を楽しむ各種ツアーを開催しています。その中でも特に人気が高いのが、旧国鉄士幌線のアーチ橋や駅の跡地を巡る『旧国鉄士幌線アーチ橋見学ツアー』。ツアーを通じて十勝最北部の自然景観の素晴らしさと、森林開拓の歴史を学ぶことも、人気の理由のひとつです。
	上士幌	三国峠	国道273号の上川町と上士幌町の境界にある峠で、「三国」の名は旧地名の石狩国、十勝国、北見国の境界に位置することから付いたと言われています。峠の標高は、自動車が行ける峠としては北海道で最も高い1139m。十勝側を見下ろす頂上部には、土産屋やトイレ、駐車場があり、巨大なすり鉢のような大樹海を一望することができます。頂上から十勝側の下りでは、大きくカーブを描く道そのものが一枚の絵のような美しさです。三国峠は上士幌から層雲峡温泉方面へ抜ける標高1,139mの北海道で最も高いところにある国道です。峠から眼下に広がる原生林の大樹海がカラフルに色づく紅葉シーズンは圧巻で、絶景のドライブルートとしても有名。峠の休憩所には展望台もあり、鮮やかな樹海のパノラマと雄大な山々を眺めることもできます。また、売店では自家焙煎ハンドドリップコーヒーやソフトクリーム、軽食が楽しめます。
	足寄町	ラワンブキ（北海道遺産）	地表からの高さ3m、茎の直径が10cmにもなる日本最大のフキ。ラワンとは、このフキが多く自生していた足寄町内の地名「螺湾（らわん）」に由来します。普通のフキに比べると、よりみずみずしくて甘みも強いと言われており「ラワンぶき」の名はJAあしよの登録商標となっています。収穫時期は6月中旬。地元では佃煮などさまざまな加工品が売られるほか、生育の様子を見学できる「ラワンブキの里観賞ほ場」という施設もあります。
観光施設	上士幌町	旧国鉄士幌線 コンクリートアーチ橋梁群 （北海道遺産）	糠平、十勝三股の山岳森林地帯を南北に貫く国道273号線に並行して所々に見かける、大小60ものコンクリート造りの古いアーチ橋。これらは、かつての旧国鉄士幌線で使われた鉄道高架橋です。その姿はまるで古代ローマ時代の水道橋のよう。四季折々の大自然にとけ込んだ美しい姿を見せてくれるこれらの橋は、北海道遺産に選定されました。その中でも、タウシュベツ川橋梁はダム湖である糠平湖が季節により水位が変化するため、湖の中へ橋全体が沈み込む時期もあり、幻の橋として人気があります。
	清水町	十勝千年の森	大自然を体感できる北海道ガーデンでは、草原をイメージした「メドウガーデン/野の花の庭」や、波打つ芝の「アースガーデン/大地の庭」、「フォレストガーデン/森の庭」に「ファームガーデン/農の庭」と、テーマの異なる4つのガーデンが展開。さまざまな動植物が生きる森や、ヤギや羊がのんびりと草を食む草原の広がりを感じることができます。緑を感じたあとは、電気で動く乗り物「セグウェイ」やチーズ作り体験などのアクティビティを楽しんでみるのもおすすめ。
	帯広市	紫竹ガーデン （ガーデン&レストラン）	春から秋まで途切れることなく次々と咲き続ける2500種類以上もの花々。約1万8000坪という広大な敷地には、テーマを持った22のゾーンがあり、訪れる季節によって見どころが移り変わっていきます。行きたび、歩きたびに違った表情が楽しめ、新しい発見が待っています。園内のショップでは、花の苗や種、珍しいガーデングッズなどを販売。また、庭園で採れたハーブや果物、十勝産の食材をふんだんに使った食事やスイーツ、ドリンクなどが味わえるカフェやレストランもあります。

表 2-5 主な観光対象 (2)

項目	市町村名	名称	内 容
観 光 施 設	帯広市	北海道立帯広美術館	帯広市緑ヶ丘公園内の一角にある北海道立帯広美術館は、平成3年9月に5館目の道立美術館として開館しました。木立に囲まれたモダンな建物の入口には、高さ3.72mのモニュメント彫刻ブールデル「勝利」像が立っています。館内では、神田日勝など道東地域にゆかりのある作家の作品や、近現代の版画、ポスターなどのプリントアート作品、田園や農村風景を主題とした西洋絵画など、幅広い分野の芸術作品を鑑賞することができます。
	帯広市	幸福駅 (幸福交通公園)	1970年代「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズとともに一躍有名になった旧広尾線の幸福駅。現在は幸福交通公園として、当時使用されていた朱色のディーゼルカーのほか、2013年11月にリニューアルした木造の駅舎が公開されています。また4月～11月（水曜日定休、12月～は要問合せ）までの間、思い出づくりのウェディング体験イベント「幸福駅ハッピーセレモニー」を実施。カップルのみならず友人同士、親子でも参加できるので、ぜひお試しを！
	帯広市	愛国駅 (愛国交通記念館)	1987年に廃止された旧国鉄広尾線の愛国駅。現在は、往年をしのぶ交通記念館として当時使用されていた切符や駅名などのパネル、当時広尾線を行っていた蒸気機関車などが展示されています。2008年には、敷地内にハート型の噴水が完成。家族連れやカップルの目を楽しませています。また、定番のおみやげとして「愛国～幸福」間の記念切符も販売されており、発売累計1000万枚突破を記念した記念碑も設置されています。
	足寄町	足寄動物化石博物館	海生哺乳類の化石が多数発掘されている足寄町。この博物館は、足寄で化石が見つかった海生生物の進化を中心に、地球の歴史や化石発掘にまつわるさまざまな資料を展示しています。特に注目すべきは1000万年前に絶滅した謎の動物デスモチルスの骨格標本。その数の多さは世界的にも貴重とされています。化石のミニ発掘体験や、石膏を使っての化石レプリカ作製などの体験メニュー（200円～）も用意。来館の思い出にぜひトライしてみてください！
	音更町	花時計ハナック	かつてはギネスブックにも載ったことがある花時計ハナック。十勝川温泉を見下ろす丘の上にあり、その大きさはなんと直径18m。秒針だけでも10m10cmの長さがあり、約2万株の色彩豊かな花々に囲まれながら静かに時を刻んでいます。花壇はチューリップやパンジーなど、春から秋にかけて1シーズンに5回も花の植栽が行われ、例年6月下旬～7月下旬には「花風景・ハナックと花ロード」というイベントが開催されます。
	音更町	十勝が丘展望台	花時計ハナックがある十勝が丘公園のすぐ上に設けられた展望台。眼下には十勝川温泉のホテル街があり、その向こうに悠々と流れる十勝川、そして広大な十勝平野、はるか遠くに延々と連なる日高山脈を望むことができます。夕刻が近づくと、美しい夕日を撮影しに訪れるアマチュアカメラマンの姿も見られ、ここが撮影スポットとしても人気が高いことがうかがえます。十勝川温泉を訪れる際には、ぜひとも立ち寄ってほしい展望スポットです。
	帯広市	おびひろ動物園	ホッキョクグマの「アイラ」がおもちゃで遊ぶ姿は微笑ましいと大評判！全国から会いにきてくれるファンもいるほどの人気者です。アミメキリンの「メーブル」はお嫁さんの「ユルリ」ととっても仲良し。埋もれタヌキで全国的に人気となったエゾタヌキ。「あん」に仔タヌキ4頭が加わりさらに人気者に！今年も見どころいっぱいのおびひろ動物園から目が離せません！！
	中札内村	六花の森	旭川・富良野・十勝を結ぶ北海道ガーデン街道の南端に位置する六花の森。10万平方メートルの敷地に十勝六花（エゾリンドウ、ハマナシ、オオバノエンレイソウ、カタクリ、エゾリュウキンカ、シラネアオイ）などが季節毎に花開きます。庭の中にはクロアチアの古民家を移築した美術館も点在しており、ぜひ中札内美術館と合わせて訪れてみたいスポットです。
	中札内村	中札内美術村	十勝らしいカシワ林の中にたたずむ中札内美術村。145,000平方メートルの広大な敷地内に、相原求一朗、小泉淳作の美術館をはじめ、レストラン「ボロシリ」、売店「花六花」などで構成された、道内でも他に類を見ない施設です。ちなみにカシワ林の中に伸びる木道は、旧国鉄広尾線で使われていた枕木を再利用したもの。各美術館を巡りながら、屋外の彫刻たちに触れてみたり、木道をゆっくり散歩してみたりと、心身ともにリフレッシュできるスポットです。
	池田町	清見ヶ丘公園	公園の散策路で道路沿いに並ぶエゾヤマザクラ。5月になるとサクラが綺麗に咲き誇り、散策路は花のトンネルになります。その数約600本！エゾヤマザクラの桜並木はまさに圧巻のひとつです。また園内に生い茂るカシワは、樹齢300年以上。このカシワの大樹を見るだけでも価値があります。園内にはバーベキュー施設の青翔亭があり、春になるとサクラを見ながらビールやジンギスカンを楽しむ花見客も多いようです。
	池田町	ワイン城	国内初の自治体ワイナリー、十勝ワインの製造施設です。2020年6月にリニューアルしました。小高い丘の上から十勝平野を一望できる景観は圧巻です。ショッピングエリアでワインを購入したり、レストランで美味しい料理に舌鼓を打ってみたいでしょうか。地元出身・ドリカムの吉田美和さんがプロデュースしたDCTgarden IKEDAも隣接しています。
	池田町	DREAMS COME TRUE (DCT)記念館「DCTgarden IKEDA」	以前から、故郷北海道池田町のために貢献したいとの想いを持っていた吉田美和さん(DREAMS COME TRUE)と、DREAMS COME TRUEに町の施設である「旧物産の館」を利用した何らかの展開を希望していた池田町の想いから2005年に誕生。ステージ衣装など吉田美和さんにまつわるたくさんさんの資料を保管・展示しています。
	帯広市	帯広百年記念館	マンモスのいた時代から本州からの開拓者が入植し、農業・漁業など次第に開拓が進む近代まで。十勝の歩みを様々な資料や模型で学ぶことのできる施設。常設展示や特別展示が行われ、市民の文化活動にも使われています。また、ロビー展示など特別展示、講座や体験教室、ゲームなど多彩なイベントも開催。分館の埋蔵文化財センターでは、遺跡出土品の収蔵と公開などもしています。
	帯広市	真鍋庭園	日本初のコニファー（針葉樹）ガーデンとして知られる真鍋庭園。他のガーデンとは趣が異なり、北ヨーロッパやカナダ等から輸入された数百種もの樹木で構成されています。その広さは25,000坪もあり、中には北海道開拓以前からの古木もあるそう。散策路を歩くと日本庭園、西洋風庭園、風景式庭園と変化があり、エゾリスが顔を出すことも。樹木だけではなく、6～7月はハマナスやエゾアジサイ等の花が咲いて彩りを添えます。1966年から続く真鍋庭園ならではの樹木のコレクションは見応えがあります。

表 2-6 主な観光対象（3）

項目	市町村名	名 称	内 容
観 光 施 設	幕別町	十勝ヒルズ	十勝ヒルズは、雄大な景色を眺めながら約1,000種の草花や樹木を見ることができるイングリッシュガーデン。特に、レストラン前に広がる十勝の広大な空をイメージした「スカイミラー」がおすすめのスポットです。ファームレストラン・ヴィーズでは、自社で飼育している希少種「十勝ロイヤルマンガリツァ豚」を中心としたフルコース料理が味わえます。「食べられる国宝」と称されるハンガリー原産の豚を唯一生体輸入できるここだからこそ特別な味わいをぜひ！自家栽培のオーガニック野菜をレストラン、カフェでもふんだんに使っています。カフェでは十勝産えりも小豆を使用した「オリジナル小豆ソフト」もおすすめ。
	鹿追町	扇ヶ原展望台	然別湖周辺の山々で発生した火砕流や土石流などがつくった扇状の台地「扇が原」。防風林と畑が作りだす十勝らしい雄大な光景が広がり、圧巻の一言です。鹿追町ゆかりの画家で、町内に記念館がある神田日勝氏もよく訪れたといわれており、氏の作品に与えた影響をうかがい知れるかも。太古の自然を今に伝える然別湖へ向かう途中にあるビュースポットです。
	音更町	十勝エコロジーパーク	十勝川温泉に隣接する広大な公園（広さ409ha）。夏季は解説を聞きながら乗用カートで園内を散策する「カートd e公園めぐり」を運行（有料）。屋外の人気施設は、大きなゴム風船の上にいるような感覚を味わえる「フワフワドーム」（無料）。水と霧の遊び場（無料）や、広大な園内を巡るための貸自転車（有料）も用意。ビジターセンターのインドアガーデンでは子供たちに人気の「木のプール」や滑り台、四輪車の乗り物など。9月以降に白サケの遡上の様子を観察できる「ととろ〜ど」も一見の価値あり！カフェ、ギャラリーなどもあって、ゆっくり休憩することもできます。コテージなどを利用して宿泊することも可能です。
	新得町	サホロリゾート ベア・マウンテン	北海道に生息するエゾヒグマを自然に近い環境で観察できるベア・マウンテン。サホロの森の一面をフェンスで囲んだ園内には、高さ5mの「遊歩道」があり高い場所から見学できるほか、鉄格子で守られた「ベアウォッチングバス」でヒグマの目線を体感できます。園内中央の「ベアポイント」では、ガラス越しながら超至近距離でクマと対面できます。池でニジマスを追いかけて無邪気に遊ぶ姿、洞窟で休憩する様子、内股で森の中をのんびり歩く姿など、じっくりヒグマを観察できます。
	中札内村	中札内村豆資料館 ビーンズ邸	「ビーンズ邸」の愛称で親しまれる中札内村豆資料館。古くから豆を中心とした農業が営まれてきた中札内村。豆資料館にはそんな村の歴史と自然、豆づくりに携わってきた人々の暮らしを伝える資料が展示されています。世界の豆を集めた「研究室」や豆の流通に関わる道具や文献が並ぶ資料展示室など見どころもいっぱい。建物全体が豆を愛する架空の人物「ビーンズ氏」の邸宅という設定になっているので、家の中を巡りながら豆に親しみ、豆に関する資料を見学できます。
	音更町	独立行政法人家畜改良センター 十勝牧場 白樺並木	帯広市の北に隣接する音更町にある独立行政法人家畜改良センター十勝牧場は、公的機関によって運営されている牧場です。雄大な風景を楽しめるスポットとしても人気があります。道道133号から場内へ入る道の長さ1.3kmもの白樺並木は、これぞ北海道！という景観で、NHKの朝ドラ「マッサン」の冒頭シーンでも一部使われていたとか。そのほか、場内の最も高い位置にある展望台のパノラマが圧巻。大雪、日高の山々、十勝平野の景観が見事です。※シラカバ並木から展望台までの規定のルート以外は家畜伝染病予防のため立ち入り禁止となっており、場内には売店・ゴミ箱もありませんのでご注意ください。
	上士幌	上士幌町ナイタイ高原牧場 ナイタイテラス	公共の牧場としては日本一の広さを誇るナイタイ高原牧場は、放牧される牛の数が最盛期で2000頭以上、緑の斜面を歩く牛たちがゴマ塩のように見えるほどスケールの大きな景観が広がります。頂上部には新たなカフェ施設「ナイタイテラス」が2019年6月にグランドオープン。ナイタイと牛のローストビーフ丼、上士幌フレッシュミルクを使用したソフトクリームなどが楽しめます。
	鹿追町	福原記念美術館	2007年7月に鹿追町の市街地に建設された、道内でも珍しい個人収蔵品の美術館。所有者は、鹿追ゆかりの実業家であり（株）福原の創業者でもある福原治平氏。長年に渡って集めたコレクションを広く公開したいという同氏の思いが、美術館という形で実現したのです。展示されているおもな作品は、神田日勝の絵画をはじめ、斉藤斎の洋画、藤井範子の日本画など。他にも多くの美術品を展示しており、一度は足を運んでみたい施設です。美術館に併設されているコーヒーサロン「えんじゅ」でひと休みするのもおすすめ。
	鹿追町	神田日勝記念美術館	少年時代に鹿追町に入植し、農業を営みながら創作活動を続け、力強い画風で評価を確立していった画家・神田日勝の功績を称える美術館。昭和20年8月、当時7歳だった日勝少年が両親に連れられて鹿追町に入植してから32歳という若さで亡くなるまでに残した作品を多数収蔵、展示しています。「馬（絶筆・未完）」は、思わず凝視してしまうほど緻密な描写で圧倒されます。
温 泉	足寄町	山の宿 野中温泉	雌阿寒岳の麓、秘湯と呼ぶにふさわしい山間の温泉宿。湯量豊富な源泉と静寂に包まれたロケーションで、湯治場として連泊利用も多い宿です。エゾマツの原生林に囲まれた手造りの露天風呂は、仕切りの付いた半混浴タイプ。内風呂の湯船は、総トドマツ造りでしっとり肌に心地良い感触です。国の天然記念物「オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地」まで車で10分、秘湖「オンネトー」まで車で5分など、北海道の自然を満喫できるスポットが周囲に点在。散策と入浴をゆったりと楽しんで。
	新得町	トムラウシ温泉 国民宿舎東大雪荘	十勝川源流部、山懐深くに建つ一軒宿。山奥にありながら、積雪期には銀世界の中でのんびり過ごす湯治客で賑わい、夏は日本百名山のひとつトムラウシ山の登山基地として全国から登山客が集まります。手つかずの大自然に囲まれた環境は、新緑の春や紅葉の秋も訪れる人を魅了して止みません。天然岩を贅沢に配した大浴場は、まるで日本庭園のよう。天高8mの内湯は、主浴・副浴のほかミストサウナ、打たせ湯も完備。原生林に囲まれた自慢の露天風呂からは清流ユウトムラウシを見下ろし、弱アルカリ性のつるつるのお湯とともに五感で入浴を満喫できます。
	上士幌	中村屋	ぬかびら源泉郷の中心に建ち、昭和6年から続く老舗の温泉宿。内風呂は、昭和30年代にタイル職人が作った花の形の浴槽と、木の香りがやさしく漂う手作り湯の2種類。中村屋自慢の混浴露天風呂「星のさと」もやはり手作りで、すぐ横の斜面には毎日のようにエゾシカが現れて目を楽しませてくれます。お湯は循環濾過を行わない源泉かけ流し。Ph7を超える弱アルカリ性の湯なので、お湯から上がったあとはお肌もつるつるびかびかです。
	上士幌町	ぬかびら源泉郷 湯元館	豊富な湯量を誇り、源泉掛け流しの温泉が楽しめる評判のぬかびら源泉郷。その中で、糠平温泉の始まりとして大正時代に開業したのが「湯元館」です。お肌に良いと評判の透き通った温泉が毎分125リットルも湧出。良質の温泉が楽しめるとして、温泉ファンから高い評価を得ています。温泉の醍醐味といえば露天風呂。こちらの露天風呂は日替わりで男女が入れ替わり、ゆったりとくつろぐことができます。

表 2-7 主な観光対象（4）

項目	市町村名	名 称	内 容
体験施設	鹿追町	然別湖ネイチャーセンター	大雪山の南部に位置する神秘的湖・然別湖。美しいこの湖と周辺の森や川などの大自然を、いろいろな角度から感じられるような体験メニューが用意されています。森の中に張り巡らされたワイヤーケーブルを使用して飛びエア・トリップは、最長コースなんと300m！スリルと爽快感がたっぷりと味わえます。生き物と同じ目線で森や湖の姿を観察する、新感覚の自然散策プログラムメニューです。体験前と後では、景色が違って見えるはず！
	陸別町	りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台)	豊かな自然に囲まれた陸別の森の中にある公開型天文台。大型望遠鏡を使えば、夜には月、惑星、はるか彼方の星雲、星団、銀河などが見られ、昼間でも晴れていれば星を見ることができます。スタッフによる星空解説も興味津々。人工オーロラ発生装置や宇宙やオーロラについて学べるコンピュータ、天体の写真などの見学も飽きることがありません。天体観測のほかに、国際宇宙ステーションの追尾観測を実施することも。土日祝はプラネタリウム上映（15時・17時・20時）もあります。※当面の間プラネタリウムは上映休止。再開時期についてはホームページでご確認ください
	音更町	十勝ネイチャーセンター	音更町の十勝川温泉をベースに、各種のアウトドアツアーを実施している十勝ネイチャーセンター。温泉街の横を流れる十勝川を大型のラフトボートで下るネイチャーツアーや、秋のサーモンウォッチングツアーをはじめ、熱気球体験などが人気です。どのメニューも経験豊富なガイドが丁寧にサポートしてくれるので、まったくの初心者でも安心してアウトドア体験を楽しむことができます。
	新得町	TACとかちアドベンチャークラブ	「TACとかちアドベンチャークラブ」では、ラフティングやカヤックなど季節によって様々なアウトドアツアーを体験できます。施設も充実しており、フィンランド製のクラブハウスには清潔な男女別更衣室やトイレが完備されており、利用者に好評です。おすすめは4歳から体験できる川下り、十勝川スプラッシュ・クルージング。とかち川に住む悪者じゃまーんを倒すたびに出かけよう！
	新得町	TOM十勝アウトドアメイツ	ラフティングやカナディアンカヌー、トレッキングなどなど、十勝の自然を存分に味わう様々な体験メニューを揃える「TOM十勝アウトドアメイツ」。中でもお得なバックメニューは9000円（子供6000円）で、午前中はニジマス・イワナ等を対象とした渓流釣り、午後はゴムボートで急流を漕ぎ下るラフティングと、まる一日、十勝川でのアウトドアを満喫することができます。
	河東郡	MY STABLE (マイ ステープル)	「馬の道」を設けるなど乗馬の町としても知られる鹿追町。市街中心部から然別湖方面へ走ると牧場レストラン「大草原の小さな家」の看板が見えてきます。「マイステープル」があるのは、このレストランの敷地内。乗馬体験がまったく初めての人でも、しっかり調教された馬と、経験豊かなガイドの手ほどきで、すぐにホーストレッキングが楽しめます。馬上から見る景色は何もかもが新鮮で、忘れられない経験となるでしょう。
	陸別町	ふるさと銀河線りくべつ鉄道	ディーゼル列車の乗車体験や運転体験ができる観光鉄道として人気の鉄道保存展示施設です。30分程度の講習後、CR70・75型気動車の運転体験ができるという本格的な「気動車運転体験Lコース」のほか、駅構内を15分程度運転できる「気動車運転体験Sコース」や国内最長（1.6km）の体験距離を誇る「銀河コース」にも注目です。いずれもとても人気なので早めの予約がオススメです。
	新得町	新得そばの館 (手打ちそば)	新得駅から狩勝峠方面へ車を走らせること約7分、国道38号線沿いに咲き乱れるそばの花は通称「そばロード」と呼ばれ、白い可憐な花が訪れる人を喜ばせています。館内では、そば職人が心を込めて打ったそばをレストランで堪能できるほか、売店では期間限定でそばソフトクリームも販売しています。手打ちそば体験道場では、専門講師が丁寧にレクチャーします。
	鹿追町	カントリーファーマーズ藤田牧場	一般社団法人中央酪農会議が認証する「酪農教育ファーム」です。体験の一番人気はやはり「搾乳体験」。38.5℃～39.0℃と人間より少し体温高めめの乳牛から搾り出される生乳は、温かく真っ白！搾乳専用の牛はおとなしく、触っても大丈夫。誰でもすぐにコツが飲み込めますよ！さらに興味のある方にはバターづくり体験を。牛乳と動物性クリームを専用ボトルに入れてシェイクするとやがて黄色味がかった無塩バターが出来上がります。両方体験できるコースもありますので時間に合わせてトライしてみてもいいがですか？
レジャー	帯広市	いただきますカンパニー 農場ピクニック	いただきますカンパニーは、畑ガイドの案内で十勝の畑を歩く農場ピクニックを行っています。7月上旬からスタートするツアーでは、じゃがいも、とうもろこしなど旬の畑を歩きます。普段は入ることの出来ない生産現場である「本物の畑」を、特別に許可を受け専用の長靴に履き替えて体感します。案内役は日本で唯一の畑ガイド。広く美しい畑の中をお散歩したあとは、そこでとれた素材を使ったランチやおやつで、のんびりブレイク。十勝の恵みを畑の中で味わう贅沢な時間を過ごせます。
	更別村	十勝スピードウェイ	全国に7つある国際サーキットの1つで、コースの長さは三重県の鈴鹿サーキットに次いで日本で2番目の5.1km。のどかな農村風景が広がる十勝平野に作られたコースは、国内では珍しく起伏がなくフラットなため、メインスタンドから全貌を見渡せます。また、運転免許証があればライセンスなしで車を走らせることができるのも、国際サーキットではここだけ。冬期間は特設冬期コースが設置され、週末にはイベントも開催。滑る冬道の運転をサーキットで練習して克服してみてもいい？
	帯広市	ばんえい十勝（帯広競馬場）	ばん馬と呼ばれる1トンを超す大型馬が、500kg～最大1トンものソリを曳いてゴールを競うレース。もともとは農耕馬の祭典として、馬の力比べから始まった競馬で、現在は帯広のみで開催されています。ばんえい競馬が開催されている帯広競馬場では、ばん馬たちの迫力を間近で体験でき、ピギナーコーナーでは簡単丁寧に馬券の購入方法を説明してもらえるので、初心者でも安心です。気軽に尋ねてみて！隣接するとかちむらでは、産地直送の野菜や有名店のパンの販売、淹れたてのコーヒーに豚丼、スイーツなど十勝の食を堪能できます。競馬場内にはお土産が購入できるショップや、ラーメン、うどんなどを販売している食堂があります。引退したばん馬やボニー、うさぎ、やぎなどににんじんをあげられるふれあい動物園はおすすめスポットです。
	新得町	サホロリゾートスキー場	標高1060mのサホロ岳山頂から展開するコースは全部で21本。3本の尾根沿いのコースからは、眼下に広がる雄大な十勝平野を眺めながらのクルージングが楽しめます。道東唯一のスケールを誇るゲレンデは、ファミリーから本格スキーヤー・スノーボーダーまで満足できるレイアウトとなっています。圧雪車に乗車して、満天の星を眺めるナイトツアーもロマンチックな体験となるでしょう。
	士幌町	士幌高原ヌブカの里	標高600mに位置し、十勝平野や日高山脈が一望できます。夜には空一面に星が広がり、さらに帯広方面の夜景も眺めることができ感動的です。バス・キッチン・トイレ・寝具など一通りの設備を揃えたコテージや、キャンプ場、最大50名まで宿泊可能な交流・研修室もあります。子ども達に人気の木製トリム遊具や、大雪山系で見られる貴重な植物が見学できる高山植物園も楽しめること間違いなし。

表 2-8 主な観光対象 (5)

項目	市町村名	名称	内 容
レジャー	中札内村	十勝グランピングリゾート (中札内村休暇村フェーリエンドルフ)	北海道・十勝の田園地帯に広がる緑の中に佇む中札内農村休暇村フェーリエンドルフ。アウトドアをリッチでラグジュアリーに楽しむ、注目のグランピングスタイルでの宿泊を楽しめます。森の中におしゃれな三角テントが立ち並び『グランピングテント』や、暖かい暖炉に豪華なシャンデリア、バーベキューや焚き火ができるテラスを完備した『グランピングスタイルコテージ』など、北海道の自然を今まで以上にリッチでラグジュアリーに体感できる新しいリゾートのカタチをぜひ体験してください。※冬季営業(2020年11月1日～2021年3月31日)は休止となりました
	芽室町	新嵐山スカイパーク	緑いっぱいの広大な敷地内に国民宿舎新嵐山荘や、BBQ(要予約)のできるレストラン、スキー場などを備えるレジャースポットです。周辺の散策コースには珍しい野草が群生して咲き乱れ、ときには野生のリスに遭遇することもあるといいます。山頂の展望台からは、芽室遺産にも選定されたパッチワークのような十勝平野、雌阿寒岳や大雪・十勝連山、日高山脈が見渡せます。十勝の大自然をアクティブに満喫しましょう。
道の駅	陸別町	オーロラタウン93りくべつ (道の駅)	ふるさと銀河線が運行していたところは陸別駅も兼ねていた道の駅。現在は、旧陸別駅構内を利用した観光鉄道「りくべつ鉄道」が併設した施設としてリニューアルしています。駅構内では、ふるさと銀河線で活躍していた列車や線路を使った、ほかではできない体験メニューが楽しめます。おすすめは、実際に気動車を運転できる「気動車運転体験コース(中学生以上対象・有料)」。
	中札内村	道の駅なかさつない	とにかく中札内自慢のグルメが豊富な道の駅。メイン施設のカントリープラザには、レストランをはじめ、チーズや加工品などを販売する売店があります。テイクアウトエリアには、地場産素材使用の豚丼やアイスクリーム、チキンカレーなどのショップが立ち並び、目移りするほど。物産販売所にも農家直送の野菜が毎日ズラリと並びます。中札内村の魅力を存分に感じることができるスポットです。
	更別村	道の駅さらべつ	とちか帯広空港、または高規格道路の更別ICから車で約15分。道道更別幕別線と尾田豊頃線の交差点、十勝スピードウェイの入口にある。旬の時期にはグリーンアスパラやジャガイモなどの農産物、豆類をはじめ、更別産小麦のうどん、でんぶん(片栗粉)、チーズといった加工品の他、のむヨーグルトやワイン、ドレッシング、ジャム、地サイダーなどの更別産すももの商品も多数。どんぐりのむらポトチップスは全国のファンに愛される道の駅さらべつの人気商品。
	大樹町	コスモール大樹 (道の駅)	ショッピングセンター「コスモール」には、コープさっぽろやオリーブ薬局、衣料品・100円ショップのすずきなどがあり、日用品のほとんどが揃います。ラーメンハウスMAMOでは、こだわりの『汁なしラーメン』やコスバ最強『醤油ラーメン』が楽しめます。航空宇宙関連の実験が行われている大樹町にちなんで、IST社MOMOロケットのオリジナルグッズをはじめ宇宙関連グッズも揃えています。旅の記念にぜひ。
	土幌町	ピア21しほろ (道の駅)	道の駅「ピア21しほろ」が2017年4月、以前より約1kmほど南の位置に移転オープン。“畑をもっと身近に感じてほしい”をコンセプトに、土幌の魅力をギュッと詰め込んでいます。観光客の方には訪れて楽しく、地域の方には毎日顔を出したくなるような場所を目指しています。新商品もどんどん開発中。お茶請けに、お土産に大人気の「じゃがいも大福」をはじめ、新たな魅力を随時更新しています。「しほろ牛」を堪能できる食堂やこだわり「珈琲」のカフェ、町内の農家さんが新鮮な農産物を出荷する「しほろ農家のおすそわけ野菜市」は夏から秋にかけてが狙い目。土幌町らしい食を存分にお楽しみください。
	足寄町	道の駅 あしよる銀河ホール21	95年もの間活躍してきた鉄道の駅を館内に再現。地場産品ショップ、毎日焼ききたてパンを提供するライブベーカリー、おとしたてコーヒーなどが楽しめるテイクアウトコーナー、和洋中が揃ったレストランなどと食の空間も充実しています。ステージ衣装やギター、レコードジャケットを展示した松山千春ギャラリー、「大空と大地の中で」が流れる歌碑もあり、千春ファンにはたまらないスポット。JAあしよるが運営する「寄って美菜」では地元農家の新鮮な野菜を販売しています。
	音更町	道の駅 おとふけ	2階に本格的な中華料理が楽しめるお店を併設する、ちょっと珍しい道の駅です。夏場には地元の食材を取り入れた料理もあり、土・日・祝日限定の90分食べ放題のテーブルオーダーバイキングでは、席まで届けてくれる熱々出来立ての中華料理をお腹いっぱい食べられます。あっさりとした飽きのこない味付けが評判のお店で、道の駅事態が地元の人にも人気のスポットとなっています。平日は単品、テイクアウトのメニューにてお楽しみいただけます。※道の駅おとふけは2022年4月移転オープン予定です。
	幕別町	忠類 (道の駅)	ここは国道236号線に面し、休憩をとったり地域情報が収集できる道の駅のほかに、温泉ホテル、公園、パークゴルフ場、キャンプ場など、さまざまな施設の集合エリア。温泉は日帰り入浴ができ、レストランでは地元特産のゆり根を使った料理が味わえます。人気商品は、ゆり根を使用した優しい甘さが特徴の「純白ゆり根シュークリーム」と「純白ゆり根大福」。この他に、お弁当やコロッケ、アイスクリームなどのテイクアウトメニューも充実しています。中には、「山わさびソフトクリーム」といった変わり種メニューもあります。
	本別町	ステラ★ほんべつ (道の駅)	明治42年に本別町に鉄道が開通して以来、約100年もの間、地域交通として重要な役割を担っていた旧本別駅を利用した道の駅です。本別町は豆の生産地として有名なだけに、グルメもそれにちなんだものに力を入れています。フランス語で“豆”を意味するパン工房「アリコヴェール」では焼ききたてのパン、「レストラン秀華」では黒豆から作った味噌味のラーメンなど、本別町ならではの味覚を味わえます。
	浦幌町	うらほろ (道の駅)	総面積120ヘクタールもの広大な敷地内にキャンプ場、フィールドアスレチック等のアウトドア施設が整った『うらほろ森林公園』の入り口にある道の駅です。カラマツ材を使った木のぬくもりが心地良い館内には地元新鮮野菜、農産加工品、パンなどが並び特産品販売コーナー、軽食販売コーナー、道路情報等を検索できる情報コーナー等を完備。休憩コーナーがあるので浦幌産の行者にんじく入りホットドックや浦幌産牛乳を使用したクリームがたっぷりのシュークリーム、浦幌産小豆100%使用の「大福」他、浦幌の味を手軽に楽しめます。
	鹿追町	しかおい (道の駅)	陶芸体験を楽しめる陶芸工芸館・神田日勝記念美術館に近接した国道274号沿いの道の駅です。「花と芝生の町」をテーマにした町づくりを行う鹿追町らしく、周囲には様々な花が植えられています。フードコートの人気は当地特産・氷室じゃがいもと豚肉赤身を使った肉じゃがまん。ペーターカロチンが豊富で低カロリー(217カロリー)の逸品です。直売店は農家さんが毎朝届けてくれる野菜、山菜、果物が揃い、然別湖周辺に生息するナキウサギを象った可愛いクッキー、十勝を代表する小豆などの特産品も豊富です。

表 2-9 主な観光対象（6）

項目	市町村名	名 称	内 容
道の駅	音更町	道の駅ガーデンスパ十勝川温泉	十勝川温泉の中心地にある「ガーデンスパ十勝川温泉」。北海道遺産でもあるモール温泉を水着で満喫できるスパ、十勝を味わうレストラン、十勝の特産品や十勝川温泉ならではのお土産が揃うマルシェ、十勝の食材を使用した加工品づくりを体験できる工房からなる複合型施設です。十勝の恵みがもたらす食と温泉が楽しめる新感覚の道の駅です。
	鹿追町	道の駅 うりまく (鹿追町ライディングパーク)	神秘的な湖と言われる然別湖から約20分。道内でも珍しい乗馬のできる道の駅です。乗馬が初めて、という方でも、専門知識のあるインストラクターが丁寧に教えてくれるし、気性の穏やかな種類の馬を導入しているというから安心。各種乗馬メニューは有料ですが、場内に放牧されている馬を見学するのは無料です。また乗馬も良いけど、パークゴルフができるのも、もう一つの魅力。どちらも、大雪山をバックに気分爽快。長居が楽しい道の駅です。
その他	音更町	柳月スイートピア・ガーデン店	柳月各店の中で唯一工場を併設した店舗。敷地面積33,119平方メートルという広大な工場は無料で見学することが可能です。店内喫茶コーナーで味わえる「十勝きなごろもソフト」は、香ばしいきな粉ソフトにきなごろもと黒蜜をトッピング。さらにコーンの中には小豆つぶ餡も入って、一緒に食べると最中のような味わいで、スイートピア・ガーデン店限定メニューとして人気があります。無料のコーヒーサービスもあり、買い物したお菓子を食べながら、ゆっくりと過ごすことができます。
	池田町	ハッピーネスデリー	110余年の歴史を持つ牧場が運営。自家牧場の生乳をアイスやチーズなどに加工・販売しています。12種類のジェラートから2種類組み合わせで味わえる「イタリアンジェラート2種盛（330円）」はお店の人気商品（平日は12種）。また、濃厚な味わいで道外物産展でも話題の「生ソフトクリーム（330円）」や、ビートオリゴ糖の甘さが自然な「牧場のコーヒー（165円）」など、こだわりのメニューが豊富です。
	新得町	共働学会舎新得農場	国際コンクールで金賞を受賞するなど、国内外で高い評価を集めるナチュラルチーズを生産する「共働学会舎新得農場」。農場施設「ミントル」では、農場のチーズや野菜を使ったお料理、ソフトクリーム（5～10月）などが味わえるほか、チーズや手作りの工芸品などを販売しています。ソフトクリームはブラウンスイス牛ミルクの風味を生かし、隠し味にチーズを製造する際に出るホエイ(乳清)に砂糖を加えて煮詰めたホエイジャムを入れ、コクがあるのに爽やかな味わいです。
	帯広市	六花亭 帯広本店	昭和8年の創業以来、十勝・帯広の地で営業を続ける六花亭帯広本店。店内には看板商品のマルセイバターサンドをはじめ種類豊富なお菓子が並び、地元の人のおやつやお祝い物として、北海道のお土産として、変わらず愛され続けています。クリームつめたての「サクサクパイ」や「雪こんチーズ」など店頭でしか食べられないスイーツも用意。サービスコーヒーと共にその場でご賞味を。2階喫茶室では季節感を大切にしたビザやデザートもあります。
	帯広市	エスタ帯広	十勝の厳選ショップが揃う「とかち食物語」からなる西館と、観光・生活を網羅する生活に密着した東館で構成されるショッピングセンターです。帯広といえばスイーツが人気ですが、地元の味をお得にいろいろ楽しみたいなら、東館2F「十勝観光情報センター」で入手できるスイーツめぐり券を使ってみてはいかがでしょうか。「クランベリー」や「ユトリベルグ」など、計5店舗が対象です。
	帯広市	クランベリー 本店	収穫された地域や時期によって味や風味に個性があるサツマイモ。クランベリーのスイートポテト（100g 232円の量り売り）はそんな自然の味を大切に、過剰な手を加えずに作られています。またお土産におすすめなのが焼き菓子のシャンルル。サクサクの口あたりで昔ながらの素朴な味わいが楽しめます。チーズ、チェリー、レーズンの3種類があり、価格も1箱357円とリーズナブルです。
	帯広市	麦音	十勝産小麦100%、その他にも十勝産にこだわったパン作りを続けるベーカリー。地元産の木材ペレットを燃料とするペレット石窯でふっくら焼き上げたピッツァは地元でも大人気です。12000㎡の敷地内には自前の麦畑があり、購入したパンをその場で食べられる「イートインスペース」も。一日500個以上売れる大人気商品「とろりチーズパン」をはじめ道東B級グルメでお馴染みの「白スパサンド」、昔ながらのネジリドーナツなど、およそ100種類以上もの商品が並ぶパンのテーマパークです。
	幕別町	インデアン 札内店	リーズナブルな価格でボリュームもあり、独特な風味で地元民から絶対的な支持を得ているカレー専門店「インデアン」。帯広を旅したらずせないという通もかなりいるとのこと。札内店はインド風外観の店にカウンター席がずらり。シーフード、カツなどのメニューのほかに、チーズなど各種トッピングを選ぶことも。地元のお母さんの中には、夕食のために鍋を持ってルーだけ買いにくる家も多く、すっかり生活に溶け込んでいます。国道38号線沿いと交通の便もいいので、十勝の旅の途中で寄ってみてはいかがでしょうか？
	帯広市	十勝トテッポ工房	店名のトテッポは昔の十勝鉄道のこと。お店がある「とてつぱ通り」はその鉄道跡地です。甘い香りが漂うおしゃれな店内で出されるのは、十勝産の素材を存分に使ったケーキやお菓子などスイーツの数々。購入して持ち帰ることもできますし、美味しいコーヒーや紅茶とともに、店内で味わうこともできます。店の前に広がる庭を眺めながら幸せな気分を味わいませんか。
	帯広市	とかちむら	帯広ばんえい競馬場内にある、北海道十勝産食材とそれらを使用したグルメが集う観光施設。産直市場で新鮮野菜を品定めして、スイーツで休憩、レストランでランチを楽しむなど思い思いに過ごせます。十勝競馬神社では実際使用されたばん馬の蹄鉄がご神体として祀られ、一つ一つに馬のこたわさをあしらった"うまみくじ"も大好評。とかちむら産直市場、スイーツゾーン（紫竹ガーデンカフェ）は年中無休で営業しております。

出典：北海道観光振興機構 HP「Good Day 北海道」(<https://www.visit-hokkaido.jp/>) より

② 文化財

十勝川流域には、依田勉三直筆の書「留別の詩」やランダーの油絵など北海道開拓の歴史を物語る多くの文化財が存在している。また、先住民族であるアイヌ民族に係わるものや、さらにそれ以前の有史以前の文化財・史跡などが数多く存在している。これらは、十勝川流域の歴史的な特性を示す資料であり、流域に古くから人が住み、様々な時代背景を積み重ねながら、歴史を育んできたことを物語っている。

表 2-10 十勝川流域の文化財等指定一覧 (1)

指定区分	名称	所在地 指定年月日	概 要
国	旧双葉幼稚園園舎	帯広市 H29. 7. 31	旧双葉幼稚園園舎は、大正11年に、当時の保育者臼田梅の考案をもとに建てられたとされる木造園舎である。正方形平面の園舎の中央に八角形平面の遊戯室を置き、その四方に保育室を接続する。遊戯室は、周囲に高窓を設けた天井の高い吹き抜け空間とし、ドーム屋根をのせる。旧双葉幼稚園園舎は、近代における幼稚園園舎の基本計画のひとつである遊戯室中心の平面をもち、大正期に建てられた園舎として希少である。またその外観は、球形、四角形、三角形などの基本図形を用いた明快かつ独創的な意匠でまとめており、わが国における幼稚園建築の発展を理解する上で、高い価値を有している。
	北海道八千代A遺跡出土品	帯広市 H30. 10. 31	縄文時代早期の集落跡から出土した、多数の縄文土器と石器で構成される。土器は咲式土器と呼ばれ平底で、底部に帆立貝の圧痕がつく。石器は石刃技法にわるる石刃や、石鏃、擦切技法で作られた磨製石斧などを含む。北海道における、縄文文化の定着期の資料として貴重である。
	オンネトー湯の滝 マンガン酸化物生成地	足寄町 H12. 9. 6	オンネトー湯の滝は、活火山である雌阿寒岳と阿寒富士の西麓に拓がる原生林内に位置する。神秘的な湖として知られるオンネトーから1.5kmの距離にあり、阿寒国立公園の重要な地域となっている。高さ20数メートルの2条の滝からなる。滝上流の泉源では温度40℃ほどの温泉が湧き出し、原生林内の秘湯として利用されてきた。湯の滝でマンガン鉱物が形成されていることは古くから知られ、昭和20年代には、総量およそ3,500トンが採掘された。マンガン鉱物は、現代文明を維持する上で重要な資源である。製鉄の際に不可欠の添加物であり(マンガン鉱物消費量の約9割)、日常生活に欠かせない乾電池の材料(消費量約1割)でもある。原料となるマンガン鉱石は、地質時代に形成された鉱床から採掘され、オーストラリアや南アフリカなどから輸入されている。現在地球上でマンガン鉱床が形成されている場所は、海底(海底火山の噴出物や大洋底のマンガン団塊)に限られる。オンネトー湯の滝は、陸上で観察できる最大のマンガン鉱物生成場所であり、「天然の実験室」として世界的にも注目されている。湯の滝の温泉は、雌阿寒岳や阿寒富士の斜面での降水が地下に浸透し、十数年かけて溶岩の末端から湧出したものである。泉源と滝の斜面には、光合成によって酸素を放出するシアノバクテリア(藍藻類)、この酸素と温泉水中のマンガンイオンを結合するマンガン酸化細菌などの微生物が生息する。こうした微生物の複合作用により、滝斜面に二酸化マンガンを形成され、年間1トン以上の沈殿物が生成する。沈殿物は、肉眼的にはマンガン泥と呼ばれる黒色の泥である。顕微鏡下では、藻類が織りなすマット中に板状の結晶が集まった集合体となっている。さらに、周辺の4,050千年前の地層中から見つかったマンガン鉱物の層は、こうしたマンガン泥が時間をかけて緻密で安定したマンガン鉱床へと熟成してゆくことを示している。オンネトー湯の滝で進行している微生物によるマンガン鉱物の生成は、豊富な酸素のもとに多様な生命の活動を支える地球環境が形成された35億年前の地球上で始まった現象と共通のもので、現在の海洋や大気の形成された過程を再現するものである。地球や生命の歴史を解明する上でもたいへん貴重な現象である。よって湧水・微生物を含む滝全体を天然記念物に指定し保護を図るものである。
	大雪山	新得町 S46. 4. 23	北海道の屋根といわれる火山地帯で、高山植物は全国に類例のない規模を有し、北地性の種類に富み、量も豊富、群落も広大である。氷河時代の遺存動物も少なくない。また十勝川源流の大原生林は全国に比類のないものである。全域を「天然保護区域」とし、立入り禁止区域を設けて厳正な自然保護を期している。
	ピリカノカ 十勝幌尻岳(ボロシリ) 幌尻岳(ボロシリ)	帯広市 H21. 7. 23	アイヌのユカラに謳われた物語・伝承の舞台をはじめ、カムイ(神)に対する祈りの場であるチミシリの伝承地、アイヌ語により命名された独特の地形から成る土地は、いずれも良好な自然の風致景観を成し、アイヌ語で「ピリカノカ(美しい・形)」と総称するに相応しい景勝地群である。
	ユクエピラチャシ跡	陸別町 S62. 9. 8	記載なし
	旧国鉄士幌線勇川橋梁	上士幌町 H11. 8. 23	帯広・ルベシ間を結ぶ予定であった士幌線(上士幌・十勝三股間は音更線として建設され昭和14年開通)のコンクリート造カルバート橋。ひがし大雪鉄道アーチ橋群のひとつで、橋長4mと小規模であるが、バラボラアーチとしている点に特徴がある。
	旧国鉄士幌線音更トンネル	上士幌町 H15. 1. 31	第六音更川橋梁の南方約20kmに位置する。大雪山山麓の凍土に建設された。曲線平面を有す延長165m、単線仕様のコンクリート造隧道で、山腹の傾斜面形状に合わせて坑門前面に三分の法勾配をつけ、線路に対して斜めに構える平面とした特異な形態をもつ。
	旧国鉄士幌線三の沢橋梁	上士幌町 H29. 6. 28	昭和三〇年の旧国鉄士幌線付け替えに伴い、糠平湖に注ぐ三の沢に架設されたコンクリート造三連アーチ橋。橋長五〇メートルで、河川横断部の一五メートルアーチ、前後の一〇メートルアーチからなる。左右対称にアーチを連ね、湖畔の景観に寄与している。
	旧国鉄士幌線十三の沢橋梁	上士幌町 H11. 8. 23	ひがし大雪鉄道アーチ橋群のひとつ。音更線終点の十勝三股駅近くの、十三の沢が音更川に合流する地点の手前に架かる。全長58mで、沢を渡るため長スパンはなく、標準仕様の10mスパン無筋コンクリートアーチ5連から成る。
	旧国鉄士幌線第五音更川橋梁	上士幌町 H11. 8. 23	ひがし大雪鉄道アーチ橋群のひとつ。音更線工事第四工区にあたる旧幌加駅・旧十勝三股間の音更川に架かる。全長109mと大規模で、10mアーチ6連、23mアーチ(河川横断部)1連、10mアーチ1連の8連から成る。
	旧国鉄士幌線第三音更川橋梁	上士幌町 H11. 8. 23	ひがし大雪鉄道アーチ橋群のひとつ。全長71mで、10mアーチ2連、32mアーチ1連、10mアーチ1連から成り、32mアーチはRC造とする。戦前期北海道における鉄道コンクリートアーチ橋としては最大径間をもつ橋梁として知られる。
	旧国鉄士幌線第六音更川橋梁	上士幌町 H15. 1. 31	帯広の北方を縦断する旧国鉄士幌線に建設された7連アーチ式コンクリート造橋梁。径間23mの欠円アーチで音更川を跨ぎ、その北側に径間10mの6連アーチを接続する。充腹式連続アーチという構造形式を採用し、大雪山国立公園の渓谷美との調和を図る。
	旧国鉄士幌線糠平川橋梁	上士幌町 H29. 6. 28	昭和三〇年の旧国鉄士幌線付け替えに伴い、糠平湖に注ぐ糠平川河口に架設されたコンクリート造四連アーチ橋。橋長七四メートルの弓なり平面で、一五メートルアーチ三連、一〇メートルアーチ一連からなる。長大アーチを連ねる構造で、雄大な景観を形成している。
	旧国鉄士幌線 幌加駅プラットホーム	上士幌町 H29. 6. 28	旧幌加駅は昭和一四年の旧国鉄士幌線延伸時に設けられた駅で、山間の平坦地に位置する。プラットホームは延長六メートル、幅二・三メートル、高さ〇・八メートル規模のコンクリート造で、両端を斜路とする。往時の賑わいを伝える鉄道遺構である。
	宮本商産旧本社ビル	帯広市 H29. 6. 28	駅前通りの角地に建つ木造二階建の社屋。東正面は煉瓦タイル貼とし、二層分の柱形を配して花崗岩の帯を廻らす。壁頂にコーニスとデンティルを廻らし、正面中央にペディメントを飾るなど、重厚な趣を見せる。戦前の帯広の繁栄を伝える良質な事務所建築。

表 2-11 十勝川流域の文化財等指定一覧 (2)

指定区分	名称	所在地 指定年月日	概 要
道	浦幌新吉野台細石器遺跡	浦幌町 S26. 9. 6	浦幌新吉野台細石器遺跡は、縄文時代早期にシベリア大陸から北海道に伝播した石刃鎌文化の遺跡で、本邦で最初の発見地です。この遺跡は、昭和9年(1934)に地元の考古学者が発見し、昭和18年(1943)に「細石器遺跡」として学会に報告され大きな反響を呼びました。戦後の昭和25年(1950)に発掘調査が行われ、平底の絡条体圧痕文時と石刃から作られたヤジリやヤリが出土し、土器には「浦幌式」、特徴的なヤジリに「石刃鎌」の名が付けられ、この文化は「石刃鎌文化」と呼ばれるようになりました。この文化の年代については、初め、石器の特徴から縄文時代以前のものという意見が有力でしたが、その後実施された東釧路2遺跡、ニツ山遺跡、共栄B遺跡などの調査結果やロシアの調査が進むと、縄文時代早期のものであることが明らかとなりました。出土した資料は浦幌町博物館で展示しています。
	十勝太遺跡群	浦幌町 S51. 5. 21	十勝太遺跡群は浦幌十勝川の河口近くの北岸河岸段丘上に所在する集落跡、墳墓、チャシ跡などからなり、縄文時代から近世に及ぶ遺跡群で、指定されているのは十勝太大西遺跡、十勝太安栗遺跡、十勝太河岸段丘遺跡、十勝川口チャシ跡の4遺跡です。これらの遺跡のうち、発掘調査されたことのある遺跡は十勝太河岸段丘遺跡のみで、ここからは住居の周囲にプラットホーム状のベンチの付いた珍しい堅穴が発見されました。また、十勝太大西遺跡と十勝太安栗遺跡は縄文時代の集落跡ですが、十勝太安栗遺跡からは縄文時代末頃の遺物も発見されています。十勝川口チャシ跡は、浦幌十勝川河口と太平洋を望む標高約35メートルの段丘上に築かれたチャシ跡で、崖に面して塚が残されています。これらの遺跡の周辺にも多数の遺跡の分布が知られており、遺跡の宝庫として注目されています。出土資料は、浦幌町博物館で展示されています。
	更別湿原のヤチカンバ	更別村 S38. 7. 26	このヤチカンバは、灌木性のカンバでヒメカンバ類ともよばれ、主として北極のツンドラ灌木原が、今から数万年前の氷河期に十勝地方に入り、温暖となった後も、生育条件に適した更別湿原に遺存されたもので、高温多雨の気候条件のもとに、種の固定化が進み、新種となったものと考えられています。ヤチカンバの分布は、現在までのところ、更別村と別海町でしか発見されておらず、氷河期以後の極地植物の隔離と、種の固有化、地質学、地理学、気象学、進化学上きわめて意義があるものとされています。
	然別湖のオシロコマ生息地	鹿追町 上士幌町 S43. 12. 18	然別湖に生息するオシロコマは、ミヤベイワナといわれ、北海道の河川に広く分布する他のオシロコマとは異なる特長をもっています。湖のなかでプランクトンを食べるため、他のものよりえらとげの数が多いことが、もっとも大きな特長です。湖を海に見立て、ヤンベツ川等の然別湖に流入する河川を溯上して産卵し、川から湖に下り成長します。からだには美しい赤い斑点を持ち、成体体長は25～30センチメートル、過去には60センチメートルを超えるものも生息していました。現在は、北岸水域とそこに流入する河川が生息地として天然記念物に指定されています。オシロコマは、現在鹿追町により孵化事業が行われています。
	札内川流域化粧柳自生地	帯広市 S37. 4. 3	ケショウヤナギは、隔離分布で知られる珍しい樹木でバイカル以東の東アジアに分布しています。日本では、長野県の上高地を中心とする地帯と北海道日高の沙流川流域及び十勝西部が主な生育地となっています。指定面積は、50906.34平方メートル、指定当時には、200～300本近くの樹木が生育していましたが、最近の調査では、更に数が減少しています。これは、周りが堤防、畑及び砕石プラントに囲まれているため、幼木が根付くことがむずかしいためと思われる。枝は、斜めに伸びる斜上性で小枝は全く毛が無く、冬期には美しい帯紅色になります。幼樹や若い枝が開花期のころから、枝や葉の裏に厚い白ロウ質を分泌するので白く見えます。これが、化粧柳の名のおこりで、見分けるときの最も特徴的な生態的特徴です。札内川流域上流の河川敷沿いには、まだまだ多くの化粧柳が見られます。
	大正のカシワ林	帯広市 S43. 1. 18	十勝地方には、かつて、いたるところにカシワの群落がみられましたが、開拓が進むにつれ次第に失われて、現在はその名残をとどめる程度になりました。この地域は、平坦な火山灰土の丘地に生育している天然生のカシワ純林で、幅およそ72メートル、東西に長い林帯で、指定面積は4万平方メートルを占めます。このカシワ林は、大正11年(1922)以来、防風保安林としてほとんどが自然状態のままで保存されています。
	帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主	帯広市 S49. 12. 6	十勝坊主は、数千年前の寒冷な時期に氷の圧力で土が変形して形成されたもので、現在まで残存しています。これは、アルプスの氷河周辺(900～2000メートル)、日本アルプス等の高山帯に発見されていますが、台地上での発見は、北海道の道東地方以外での報告はありません。十勝坊主は、直径1～1.5メートル、高さ0.5～1メートルの半球状の化石構造土といわれるもので、100個ほどが分布しています。土の盛り上がり、運動会の玉ころがしの玉を半分に切ったような形状をしているところから十勝坊主と命名されました。これは、地質学、土壌学上、貴重な標本となっています。
	絵馬カムイノミの図	豊頃町 H13. 3. 30	この絵馬は、幕末から明治初期にかけて江戸の日本画壇で活躍した河鍋曉斎(1831～1889)が、アイヌの人々の生活風俗を主題として描いた絵馬で、当時十勝場所の漁場持を努めていた福島屋杉浦嘉七の配下の船頭によって、明治5年に大津稲荷神社に奉納されたものと推測されます。曉斎は、アイヌ絵師として知られる箱館の平沢屏山(1882～1876)の作品をもとに、絵馬を制作したと考えられますが、アイヌの人々を描いた絵画作品が少ない中で、中央の著名な画家によってこうしたアイヌ絵馬が作られた意義は大きいです。また、当時の十勝大津漁場がアイヌの人々により支えられていたことを示す重要な資料で、歴史的資料としても価値があります。
市	大津海岸トイトツキ浜野生植物群落	豊頃町 S38. 1. 24	大津海岸トイトツキ浜は、大津市街から北東約2キロメートル離れた旧十勝川河口付近にあり、太平洋岸に面した幅80メートル、長さ2100メートルにおよぶ標高5～6メートルの砂丘の一角です。喬木のない草原でコケモモ、ガンコウランなど多くの寒地、高山性植物を含み、他にヤナギラン、ウンラン、ハマナス、ハマエンドウ、コウボウムギ、オカヒジキ、クロユリ、スズラン、ムシヤリンドウなどがよく自然の保たれた状態で生育しています。十勝沿岸の草原群落は、後背部に泥炭地、湿地を持つために複合した景観をなすものが多く、トイトツキ浜はその代表的な一例とされます。また、群落の自然状態も極めて良く、北海道太平洋岸の代表的な海岸景観の一つとして学術上からも貴重です。
	十勝監獄石油庫	帯広市 S57. 1. 1	開拓期の帯広のまちづくりに寄与した北海道集治監十勝分監の中で、現在に残る文化財は、本石油庫ほか数点である。本石油庫は、明治33年ごろフランス積み工法により建立された市内で最も古いレンガ造の建造物である。
	依田勉三直筆の書「留別の詩」	帯広市 S57. 1. 1	帯広市の開拓の先駆者である晩成社依田勉三が伊豆を出発する前日の明治16年3月14日、親族知己の前で開拓の決意を詠んだ直筆の書である。
	ランダーの油絵	帯広市 S58. 3. 1	英国人サベージ・ランダーが明治23年8月15日から3日間オベリベリの晩成社開墾地に居住する渡辺勝宅に滞在し、8月16日にスケッチしたものを後日夫妻に油絵として贈ったものである。油絵作品としては十勝で最も古いものであり、帯広の開拓の初期の民家の外観を忠実に写生している。
	晩遺跡出土の遺物	帯広市 S58. 3. 1	旧石器時代から縄文時代の遺跡で、過去の6回にわたる発掘調査で、細石刃文化の石器群(約1万6千年前)や「晩式土器」と呼ばれる約9千年前の土器が出土し、旧石器時代から縄文時代早期の文化解明に多くの示唆を与える。

表 2-12 十勝川流域の文化財等指定一覧 (3)

指定 区分	名称	所在地 指定年月日	概 要
市	八千代A遺跡出土遺物	帯広市 H3. 11. 1	昭和60から平成元年の調査により、縄文早期(約9千年前)の住居跡105軒をはじめ、土坑(貯蔵穴)、野外の炉跡などの遺構や、土器・石器・装身具など約9万点の遺物が出土した。八千代A遺跡は、この時期としては全国的にも例を見ないほど大規模な集落跡であることが判明した。
	十勝鉄道蒸気機関車4号及び客車コハ23号	帯広市 H6. 11. 1	十勝鉄道は、大正9年に開通し、昭和34年に営業を停止するまで旧川西村を中心とした山麓地帯で働く人々の足や、ビート等農産物・木材の輸送に大きな役割を果たした。
	ロープ伝導式手押豆播機	帯広市 H9. 6. 1	全国有数の大規模畑作農業地域を形成するのに役立った、帯広地域で考案・開発・使用された農機具を代表するもので、帯広・十勝の農業開拓の歴史を特徴付けるものである。
	帯広カムイトウウボボ保存会	帯広市 S57. 1. 1	先住民であるアイヌの人々に伝えられてきた歌や踊り、儀式などを伝承保存するために結成された。現在、十勝アイヌ無形文化への理解と後世への伝承のためにさまざまな活動を活発に行なっている。
町	十勝駒踊	音更町 H12. 3. 28	大正5年に青森県の奥羽種畜場から十勝種馬所に転動してきた職員が指導して始まり、洞内南部駒踊を継承している。昭和53年に保存会が設立され、毎年駒場神社秋祭りに奉納されている。
	東士狩獅子舞	音更町 H12. 3. 28	東士狩地区は、明治30年、富山県から江波団体として23戸が入植したことに始まり、郷里で獅子方のメンバーだった者が中心になり、郷里から道具衣装を取り寄せ、明治35年、東士狩神社の春祭りに奉納した。義務的でなく、地域の人たちが参加しやすいようにと工夫しながら保存継承し、毎年東士狩神社の秋祭りに奉納されている。
	矢部獅子舞	音更町 H12. 3. 28	矢部地区は、明治30年に富山県から25戸が集団移住したことに始まり、郷里から衣装道具一式を取り寄せ、郷里での経験者が指導者となって練習を重ね、明治37年4月、住吉神社鎮座祭に奉納したのが始まり。地域の強い結束力で保存継承され、毎年住吉神社の秋祭りに奉納されている。
	十勝坊主	音更町 H12. 3. 28	今から2千～4千年前の寒冷期に生成したこの化石土は、構造土の一種で、加湿性火山灰土壌にでき、日本では十勝で最初に発見されたのでこの名がつけられた。外見は土まんじゅうの形をして群落をなし、ここに331個が確認されている。
	「音更山道」碑	上士幌町 H9. 6. 13	元小屋からメソセツ沢までの車馬道改修工事の竣工を記念して、十勝監獄が建立したものである。
	嶋木遺跡	上士幌町 S60. 8. 1	道内で初めて旧石器の遺跡が出土した。
	三股永久凍土	上士幌町 S60. 8. 1	1972年(昭和47)年10月に発見された。この永久凍土は標高900m付近にあり、特異な永久凍土と考えられている。
	丸山噴泉塔群	上士幌町 S60. 8. 1	1980(昭和55)年8月に発見された。石灰華堆積物で最大のものは基底からの高さが2.76m(H22調査)に達している。現在も活発に活動中。
	清水谷流送遺構	上士幌町 H22. 1. 25	昭和14年に国鉄士幌線が十勝三股まで開通するまでは木材の運搬手段として音更川で流送が行われていた。清水谷は、上流からの木材の集積地となり、集められた木材は、ここで筏組にされ、さらに下流へ流送された。清水谷には、筏組みのためにつくられた堀割が半世紀以上を経た今日も残っており、このような例は、道内ではきわめて珍しい。本遺構は、上士幌町の歴史を振り返る上で、さらに流送の歴史を知る上でも重要な文化財である。
	水神碑	上士幌町 H22. 1. 25	昭和14年に国鉄士幌線が十勝三股まで開通するまでは木材の運搬手段として音更川で流送が行われていた。音更川での流送にあたって、峡谷となる黒石平の屏風岩(アイヌ語名カモイニセ)付近は難所とされ、このため流送従事者は、ここに作業の安全を祈り、大正12年に水神碑を建てた。本石碑は上士幌町の歴史を振り返る重要な文化財である。
	水天宮	上士幌町 H22. 1. 25	音更川における流送は、北海道集治監十勝分監によりはじまり、これを引き継いだ高谷木材株式会社は、流送作業に多くの危険を伴うことから、大正14年に流送作業の拠点であった清水谷に水天宮を建立した。その後上士幌神社境内に移され今日にいたっている。上士幌町の歴史を物語る水天宮は、上士幌町の重要な文化財である。
	拓鉄と河西鉄道の交差橋台跡	鹿追町 H21. 4. 1	河西鉄道と拓殖鉄道が所在地で寄しくも上下構造により交差していた。その擁壁と軌道床跡が現存。
	北海道拓殖鉄道蒸気機関車	鹿追町 H21. 4. 1	昭和3年新得町から鹿追まで総延長54.3kmを開通した拓殖鉄道。昭和43年廃止までの40年間当町の産業・交通・文化の交流に貢献。8620型加熱ダンター(製造ナンバー8622型)
	白蛇姫舞	鹿追町 H21. 4. 1	然別湖にまつわる伝説、白蛇姫物語からヒントを得て昭和47年に保存会の創設。現在に至まで郷土の文化として定着している。
	新内バツタ塚	新得町 H24. 12. 21	明治12年から同18年まで続いたノサマバツタの大発生により、明治政府が多額の費用をかけ駆除したバツタの成虫や卵を埋めた場所であり、高さ1メートル、直径4～5メートルの半円形の塚が、ほぼ原形のまま多数点在しているのは国内でも非常に珍しい。
	旧狩勝線新内トンネルのヒカリゴケ	新得町 H24. 12. 21	1科1属1種の蘇苔類で、2007年版環境省レッドリストにおいても準絶滅危惧種とされている原始的かつ貴重な苔植物であり、昭和41年に新線への移行により廃線となった狩勝線新内トンネル内の入口付近に自生しており、北海道内ですでに確認されているものの中でも比較的規模が大きく、発光状態も大変良好である。
	十勝丸山石灰華群	新得町 H27. 5. 28	国内では第一級の規模を持つ石灰華群であり、初生的な地形・地質が手つかずのまま保存されている点で国内的に稀なものである一方、蘇苔類群集に代表されるように、石灰華及び関連する沈殿物を基礎として発達した植生もまた、人間の手が増えらるることなく保存されており、非常に価値が高いと言える。
	旧狩勝線鉄道遺構群	新得町 R2. 1. 23	旧国鉄根室本線(落合～新得間:狩勝峠)には、石積みアーチ橋、煉瓦積みアーチ橋、煉瓦積み隧道、石積み大築堤など当時の鉄道輸送に貢献した数多くの土木遺産が現存しており、これらは明治期における北海道の鉄道建設事業を知る上で必要不可欠な歴史的遺産である。
	芽室公園一帯カシワ林	芽室町 S48. 11. 1	芽室公園のカシワは、樹齢、大きさなど開拓の歴史が刻まれており、歴史、学術鑑賞の価値が非常に高い。
	旧杉村農場サイロ	中札内村 S59. 10. 25	中札内村酪農の基礎を導入した杉村吉之助氏が建設した昭和初期のサイロ。杉村氏考案のサイロ用L型ブロックが使用されており、現在のサイロとは構造や建築方法が異なる。当時の技術を残す貴重な建造物として村有形文化財に指定された。
	元更別大國神社石見神楽	中札内村 S37. 6. 29	中札内村における石見神楽は、大正6年に島根県から入植した開拓団の有志が、農作業の合間の娯楽として郷土の神楽を上演したことから始まった。昭和59年に保存会が設立され、現在は小学校で年に1回児童とともに披露している。

表 2-13 十勝川流域の文化財等指定一覧 (4)

指定区分	名称	所在地 指定年月日	概 要
町	幕別町蝦夷文化考古館収蔵品	幕別町 H14. 2. 26	白人コタンのアイヌの指導者であった故吉田菊太郎氏(明治29年7月20日生—昭和40年1月8日、68歳で没)は昭和15年1月に北海道アイヌ文化保存協会(会長)を組織して以来、先祖の残した文化財が散逸するのを恐れて、文化財を蒐集してきた。館内に陳列されているのは、刀・矢・矢筒・弓・釜・酒桶・着物等の生活用品、宝物・写真・書類等貴重な物ばかりである。
	糠内獅子舞	幕別町 H14. 2. 26	糠内獅子舞は、明治37年「糠内神社」の前身である「五位神社」の建立にあたり、御神霊の奉迎と慰労を目的に獅子舞を奉納することになった。富山県西砺波郡西五位村宇土屋村御神体尊像と一緒に伝わったもので、娯楽の乏しかった入植時には特に盛大であった。娯楽が増えるに伴い15年ほどで途絶えたが、昭和18年に再開され地域の青年が中心となり代々引き継がれ、昭和43年にこの保存会が発足し地域の秋祭り、公民館まつり等町内の記念行事、各種イベントに参加し、幕別町の郷土芸能をとおして地域のコミュニティ活動の役割を担っている。
	札内N遺跡出土品	幕別町 H20. 3. 27	平成6年(1994年)に札内市依田に所在した札内N遺跡の調査で、縄文時代晩期(約2,800年前～2,600年前)と考えられる土壌墓が多数発見(202箇所)された。このうち、土壌墓20・25と呼称した2基の墓は特異な構造と、副葬品とされた土偶・土器は希少なものである。土壌墓20は墓内壁面に穴の開いた石や軽石を張り付けたもので、なかには石を組み合わせて生物か人間の顔を表現したものがあり、この様なレリーフ(写真 第3段階)を施した墓の報告例は見当たらない。また、副葬品とした船形土器(63番)は丁寧に作られた美品で、他に類例を見ない。土壌墓25は2段掘りの、フラスコ状を呈し、墓の底には赤い焼土を敷設し、死からの再生を強く意図したものと推測される。墓内には多量の石と共に土器・土偶が埋納されていた。2点の土偶(88、89番)は、一般的に知られている人形を表現したものではなく、土偶の最終形態と考えられている具象化されたものであるが、1点は女性を表したものである。(88番)現在まで、道内で発見されている同時期と考えられる土偶の発見例は、道央、道南部にあるが未だ少なく、また、墓からの出土例は千歳市美々4遺跡が知られるのみである。道東部では網走市斜里町に例があるが、墓から発見されたものではない。札内N遺跡で発見された土壌墓20の船形土器、深鉢土器と壁面のレリーフに使用された石、そして土壌墓25の土偶2点と復元土器7点は学術的価値も高く、また希少なものである。
	ヒカリゴケ	幕別町 H21. 6. 26	幕別町忠類地区町民有志の地域づくりサークル「忠類再発見サポートクラブディスカバリー」(加藤茂樹代表)のメンバーが、忠類のチョマナイ山中腹の洞窟で、ヒカリゴケの群生地を発見。ヒカリゴケに限られた稀な環境の下に生息する原始的な極めて貴重なコケであり、ヒカリゴケが忠類チョマナイ山の洞窟内で発見されたことは、この生育地域の環境が人間による乱開発、大気汚染、乾燥化といった悪影響を受けていない恵まれた環境であることを示している。その生体数、群生地は前述のように限られていることから、記念物として指定。
	『どさんこ甚句』・『どさんこ舟唄』	幕別町 H24. 7. 26	幕別町発祥の『どさんこ甚句』は、北海道開拓の初期、厳しい環境の中、未開発の荒野をどさんこ気質と根性で苦境に打ち勝ち今日の産業・文明の伸展を築いた先人達の苦労を讃え、郷土民謡がなかった北海道内陸部に後世に伝える民謡である。また、『どさんこ舟唄』は、蝦夷地北海道の開拓初期の入植者が夢を抱き、かけがえのない通路でもあった河川を通じて各地に入られた苦難を偲ぶ民謡である。いずれも北海道の開拓者魂を込めた郷土民謡であり、小学生から高齢者まで幅広く愛唱され、現在は、北海道の代表的民謡として定着し、文化の高揚に寄与されているものであり、今後も、後世に残すべく民謡であるとともに、歴史上及び芸術上価値の高いものである。
	十日川5遺跡出土遺物	池田町 H8. 5. 10	縄文時代中期・晩期のものである。
	林務署遺跡出土遺物	池田町 H8. 5. 10	縄文時代前期から中期にかけてのものである。
	池田3遺跡出土遺物	池田町 H8. 5. 10	縄文時代早期、続縄文時代前期、擦文時代後期のものである。
	二宮尊親の書「修学習業」	豊頃町 H6. 7. 29	大正8年に書の所有者から、二宮小学校(現二宮報徳館)へ寄贈されたもの。「修学習業」という四字熟語は漢文に造詣深い尊親が考え、創造した語であるといわれている。この語の意味は不明であるが、学を修めたる者には、「人のために、報徳を实践することあるのみ」という尊親の人生訓が見えてくる書である。
	二宮尊徳の紋付羽織	豊頃町 H8. 6. 24	大正12年、福島県中村町大槻吉直氏が、寄贈、奉納したもので、140年以上前のものと推定される。
	二宮尊徳の直筆「道歌」 (罫紙に墨書)	豊頃町 H8. 6. 24	大正9年報徳二宮神社造営の際、二宮尊道氏が寄贈。尊徳直筆の書は報徳記念館(小田原市)のほかには数少なく貴重である。
	二宮尊親の書「遂終」	豊頃町 H15. 11. 27	本書は、井村宗夫氏の祖父である宗吾氏に贈られ、平成15年に宗夫氏から豊頃町に寄贈されたものである。明治40年頃、二宮尊親が二宮地区の開拓を成し終え、当地を離れるときに書かれたものであり、開拓に成功した尊親の感慨を窺い知ることができる貴重な資料である。
	二宮獅子舞神楽	豊頃町 S54. 9. 21	本町に伝わる神楽は、嘉永5年、相馬石神村押釜(現在の福島県南相馬市原町区石神)の彫刻師小沢深治等が、伊勢神宮で神楽を習い、高座神社に奉納した「押釜神楽」がそのルーツとされている。
	旅来Aチャシコツ	豊頃町 S54. 9. 21	道道大津旅来線沿いの海拔40メートルの高台に位置した、壕幅5メートル、深さ2. 5メートルの二重壕で、築造巧緻であり、アイヌ民族の伝説がある。
	旅来Bチャシコツ	豊頃町 S54. 9. 21	Aチャシコツから100メートル程の海拔45メートルの高台に位置した、壕幅1メートル、深さ0. 5メートルの円形壕。
	礼文内第二チャシコツ	豊頃町 S54. 9. 21	JR根室本線を眼下に臨む海岸段丘上に位置し、壕は二重で、内壕は半円形、外壕は角を持った馬蹄形状を呈している。
	はるにれ	豊頃町 S61. 2. 21	十勝川左岸河川敷に位置し、二本の木が一体化したもので、扇形の枝ぶりが見事であり、周囲の環境と調和して、すばらしい景観を造っている。
	はるにれ	豊頃町 S61. 2. 21	二宮地区は、二宮尊親が入植した歴史的土壌柄であり、樹齢約200年のこのはるにれは、地域の風景にとけこむとともに、開拓の歴史を刻むものである。
	湧洞湖畔野生植物群落	豊頃町 H7. 11. 28	植物群には北海道の太平洋沿岸ではめずらしい、ガンコウラン、ハクサンチドリ、コケモモなどの高山植物や、ハマナス、ハマエンドウ、センダイハギなどの海岸草原植物が混生し、訪れる人の目を楽しませている。
	立木・かしわ(7本) 勇足神社のかしわ林	本別町 S55. 2. 18	本別町初期開拓地である利別農場(明治30年開設)の代表的な自然林の一部と認められ、樹齢500年を経てなおその姿を現在にとどめており、歴史上の記念物として指定し保存している。現在は、台風により倒木し7本が現存している。
	立木・かしわ(1本) 上押帯神社立木かしわ	本別町 S59. 7. 2	大正6年上押帯地域に入植、大正9年に神社をたてる。その当時、一帯がかしわ林となっており、形の良いかしわ2本だけを境内に「めおと」として残した。昭和56年の台風で1本が倒木し現在に至る。樹齢330年以上を経ており、歴史上の記念物として指定している。

表 2-14 十勝川流域の文化財等指定一覧 (5)

指定 区分	名称	所在地 指定年月日	概 要
町	ヒカリゴケ	本別町 H2. 11. 28	本別町における「ヒカリゴケ」は、戦時中に軍用物資をかくまうために作られたと言われる洞窟に、わずかであるが発見が確認された。「ヒカリゴケ」は、亜高山帯に多く低地に生える事が珍しいとされることから、町の天然記念物に指定し保護している。
	義経の里本別公園内の マメシジミ個体群と生息地	本別町 H19. 5. 23	昭和43年、当時小学校1年生だった新津和也さんが発見する。シベリアではマンモスの化石と共に発見されることで有名で、氷河期の遺存種(レリック)と言われる「生きた化石」として学術上貴重な存在である。また自然バランスがとれた場所に生息し、人が生きていく環境を考える上での示唆を与えてくれるものであり、後世に伝えながら守り続ける事が必要なものとして指定している。
	シオワツカ	足寄町 H4. 8. 26	ドームの頂上から流れ出る霊冷泉から炭酸カルシウムが沈殿し、ドーム状に成長したもの。炭酸カルシウム鉱物である方解石が主である。
	足寄動物群東柱類化石 アショロア骨格	足寄町 H30. 10. 10	1976年に足寄で最初に発見された化石。東柱類の中では最も古い。 産出層: 茂螺湾層下部硬質頁岩層。
	足寄動物群東柱類化石 ベヘモトス骨格	足寄町 H30. 10. 10	1980年に発見された化石。パレオパラドキシアの祖先。 産出層: 茂螺湾層上部凝灰質シルト岩層。
	網走本線開通記念成功記念碑	陸別町 S54. 8. 8	網走本線(旧ふるさと銀河線)開通の際に建てられた記念碑。
	関寛翁碑	陸別町 S54. 8. 8	陸別町開拓の祖、関寛翁の顕彰碑。
	斗満遺跡出土の石器	陸別町 S58. 2. 28	斗満遺跡より出土の石器で旧石器時代のもと思われる。
	奥羽出張病院日記	陸別町 S58. 2. 28	陸別町開拓の祖、関寛翁が戊辰の役に軍医として参戦し、野戦病院を開設した時の記録である。
	関寛翁自筆漢詩	陸別町 S58. 2. 28	関寛翁が北海道開拓を実行するにあたってその心境を知人に贈った記念品の原稿である。
	関寛翁自筆短冊	陸別町 S58. 2. 28	関寛翁が開拓の時の苦難を短歌に託し、その短冊を遺族に保管されていたもの。
	長崎在学日記	陸別町 H4. 7. 29	関寛翁が30歳の時、佐藤尚中一行と佐倉順天堂から長崎に留学したときの自筆日記。万延元年12月～文久2年1月までの記述である。
	家日誌抄	陸別町 H4. 7. 29	第1巻から第3巻から成り、関寛翁の生い立ちから幕末の上野戦争の治療記載第1巻、第2巻が39歳～奥羽出張病院の模様、第3巻が明治元年から明治4年までの記述となる。
	トラリチャシコツ群	陸別町 S54. 8. 8	陸別村史(昭和13年)にはトラリ地域における古戦場の記述があり、利別川添4km以内の所に点在している。
	浦幌開拓獅子舞	浦幌町 S40. 3. 25	越中獅子舞の流れを組む。明治35年、土田農場に入植した人々により奉納されたのを初めとする。

※1：国指定文化財は、文化庁 HP「国指定文化財等データベース

(<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>)」より

※2：北海道指定文化財は、北海道 HP「北海道指定の文化財一覧

(<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/bun-hogo-do-sitei.html>)」より

※3：市町村指定等文化財は、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

HP(<https://www.harp.lg.jp/opendata/dataset/1046.html>)より

2-4. 河川環境を取り巻く背景

河川の利用については、カヌーや釣りが盛んであり、市街地周辺の高水敷では公園や運動場が整備されており、十勝地方発祥のパークゴルフや野球、サッカー等のスポーツ、散策等多くの人々に利用されている。他方、市街地周辺以外の高水敷では、その多くが採草放牧地等として利用されている。また、イカダ下り、北海道で最大級の花火大会、お祭り等の河川空間を利用したイベントも数多く行われているほか、帯広市に全国で初めての「子どもの水辺」地域拠点センター（通称、北海道エールセンター）が整備され、子どもの水辺への活動支援等が行われている等、市民団体や NPO 等が主体となった環境学習が盛んである。冬期には、十勝中央大橋下流に整備した護岸に数多くの白鳥が飛来し、多くの観光客が訪れているほか、河口部で見られる十勝川を覆い尽くす氷が流れ出し、大津海岸に打ち上げられた氷の塊が太陽の光を受けて輝く自然現象「ジュエリーアイス」は新たな観光資源となっている。

また、十勝川温泉付近には道立広域公園である十勝エコロジーパーク等が整備され、多くの人々に利用されているほか、昭和初期に建設され、十勝川流域の農業の礎でもあり、土木学会選奨土木遺産である千代田堰堤は、堰堤からの壮大な流れとサケの遡上が見られる観光の名所になっている。

また、各河川の上流部には、十勝ダムを始めとして数多くのダム湖があり、豊かな自然植生の山間を縫流する溪流と共に雄大な四季の景観を演出している。近年、ダム周辺の環境整備が進められ、ダム湖の水面及び周辺の利用も盛んになり、多くの温泉地と共に地域の活性化と北海道観光の重要な資源となっている。

このように十勝川では、各地域などの特色を活かし、まちづくりと一体となった水辺が計画・整備され、環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、十勝川の魅力や地域住民や観光客の利便性向上や地域振興の活性化のための取組が積極的に行われている。

また、地域連携を深めるための情報交換と人的交流を促進することを目的として、河川の維持、河川環境の保全等の河川の管理につながる活動を自発的に行っている河川に精通する団体等により、河川清掃活動、教育プログラムの一貫として取り組んでいる環境教育や防災教育の指導のほか、河道掘削等の実施にあたって地域住民と連携して湿地ビオトープの復元、魚道設置や魚類の生息環境の改善について一体的に設計・施工などを実施する川づくりの取組など、様々な住民活動が展開されている。



パークゴルフ場（音更川）



十勝川イカダ下り



十勝川花火大会



十勝エコロジーパーク

写真 2-24 河川利用状況

2-5. 自然公園等の指定状況

流域には数多くの自然環境が残されており、その中でも特に重要なものについては自然公園としての指定を受けて保全されている。流域の北西部には十勝川の源流部がある大雪山国立公園が位置し、南西部には日高山脈襟裳国定公園が位置するほか、北東部には阿寒国立公園が位置し、十勝川源流部は原生自然環境保全地域に指定されている。

これらの自然公園の指定に加え、流域内における国指定の特別天然記念物の大雪山、タンチョウ、国指定の天然記念物のオンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地がある。このほか、道指定の天然記念物として、札内川流域化粧柳自生地、大正のカシワ林、更別湿原のヤチカンバ、大津海岸トイトッキ浜野生植物群落、大津海岸^{ちようぶし}長節湖畔野生植物群落、然別湖オショロコマ生息地、帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主が存在する。

また、鳥獣保護区として指定されている箇所は 26 箇所あり、流域には数多くの貴重な自然環境が保全されている。

表 2-15 各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域					区域	存続期間	備考
保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区域				
道	236	上士幌町	釧平湖		河東郡上士幌町に所在する釧平湖満水時（常時満水位）の水面の区域 〔特保〕道指定釧平湖鳥獣保護区のうち、国有林野十勝西部森林管理署東大雪支署141林班境界樺山21号から国有林野十勝西部森林管理署東大雪支署47林班境界樺山260号を見通して釧平湖満水時（常時満水位）（以下「釧平湖」と省略する。）の水面の区域との交点を起点として、この見通し線を西に進み、釧平湖の水面の区域との交点に至り、この交点から釧平湖の水面の区域を北に進み、国有林野十勝西部森林管理署東大雪支署60林班境界樺山99号から国有林野十勝西部森林管理署東大雪支署162林班境界樺山141号を見通して釧平湖の水面の区域との交点に至り、この見通し線を北東に進み、釧平湖の水面の区域との交点に至り、この交点から釧平湖の水面の区域を南に進み起点に至る区域	平成22年10月1日 ～42年9月30日 (H22. 9. 28 第673号 〔特保第674号〕)	集団渡来地 822ha 〔特保665ha〕
	237	芽室町	伏美		河西郡芽室町に所在する民有林47林班のうち12、14、16から18までの各小班、48林班のうち23から35までの各小班及び49林班並びに美生川の西伏美橋からトムラウシ沢と美生川の合流点までの河川敷の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16. 9. 28 第816号)	森林鳥獣生息地 318ha
	239	本別町	勇足		中川郡本別町に所在する民有林十勝東部地域森林計画区のうち、131、134、135林班の区域	平成17年10月1日 ～平成37年9月30日 (H17. 9. 30 第716号)	森林鳥獣生息地 387ha
	240	浦幌町	常室		十勝郡浦幌町に所在する道有林十勝管理区14林班04、22、55、56、66から74まで、97、99の各小班、36林班、37林班の区域 〔特保〕道指定常室鳥獣保護区のうち、道有林十勝管理区36林班05小班的区域	平成17年10月1日 ～平成37年9月30日 (H17. 9. 30 第716号 〔特保第717号〕)	森林鳥獣生息地 392ha 〔特保31ha〕
	241	新得町	新得山		上川郡新得町に所在する十勝地域森林計画区32林班、33林班、34林班1から14までの各小班、35林班3から8まで、10から12まで、15、16、19から21までの各小班及び35林班に所在する新得山スキー場敷地（敷地内に所在する35林班6小班を除く。）36林班1、2、4から6まで、12、22から24までの各小班及び36林班に所在する上川郡新得町字新得9番1、9番4、9番7、9番20の区域	平成18年10月1日 ～平成38年9月30日 (H18. 9. 29 第802号)	森林鳥獣生息地 574ha
	243	豊頃町	大津		中川郡豊頃町に所在する道有林十勝管理区316林班の区域 〔特保〕道有林十勝管理区316林班04、05、09、11、12、51から57まで、59、70の各小班的区域	平成28年10月1日 ～平成38年9月30日 (H28. 9. 27 第574号 〔特保H28. 9. 27 第573号〕)	森林鳥獣生息地 278ha 〔特保116ha〕
	244	幕別町	依田		中川郡幕別町字依田に所在する町道日新線と町道温泉北通との交点を起点とし、この点から町道温泉北通を東に進み町道札内高台線との交点に至り、この点から町道札内高台線を南に進み町道と十勝西部森林計画区94林班30小班及び50小班界見通し線との交点に至り、この点から同見通し線を西に進み十勝西部森林計画区94林班50小班界との交点に至り、この点から同森林計画区94林班50、30、21及び112小班界を進み同小班界と同森林計画区94林班113小班界との交点に至り、この点から西方見通し線を進み同森林計画区94林班12小班界との交点に至り、この点から同小班界を進み同森林計画区94林班9小班との交点に至り、この点から同森林計画区94林班9、7及び6小班界並びに同小班界見通し線を南に進み同森林計画区94林班34小班界との交点に至り、この点から同小班界並びに同小班界見通し線を南に進み同森林計画区94林班2小班界との交点に至り、この点から同小班界及び1小班を進み町道幕別温泉南通との交点に至り、この点から西に進み同森林計画区94林班2小班界との交点に至り、この点から2、3及び5小班界を進み町道日新線との交点に至り、この点から同町道を北に進み起点に至る線に囲まれる区域	令和元年10月1日 ～令和11年9月30日 (R1. 9. 27 第634号)	身近な鳥獣生息地 24ha
	245	浦幌町	稲穂		十勝郡浦幌町字稲穂1番、2番、3番、4番及び6番の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16. 9. 28 第816号)	集団繁殖地 29ha
	246	帯広市	岩内		帯広市岩内町に所在する民有林49林班、53林班1小班、13小班から20小班、22小班、26小班から35小班、39小班、41小班から43小班、45小班から46小班、48小班から50小班、53小班、60小班、62小班から64小班、54林班1小班から2小班、4小班から7小班、11小班から32小班、35小班から39小班、41小班から57小班、59小班、61小班から72小班、74小班から77小班、81小班、83小班から90小班、92小班から96小班、98小班から118小班、55林班58小班から64小班、66小班から68小班、88小班、90小班、103小班、109小班、119小班、120小班的各小班的区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H22. 9. 28 第673号)	673ha 森林鳥獣生息地
	247	池田町	清見		中川郡池田町字清見144番47の北東端を起点とし、この点から144番47、144番45、144番43、144番54、144番110、144番111、144番57、144番58、144番19、144番1、144番17、144番26、144番42の東側地番界を南に順次進み144番42の南端に至り、この点から144番26、144番34、144番56、144番83、144番91の東側地番界を南に順次進み144番91の南端に至り、この点から144番83、144番69の東側地番界を南へ順次進み144番69の南東端へ至り、この点から144番69、144番75の南側地番界を西に順次進み144番75の南西端に至り、この点から144番75の西側地番界を北東に進み144番77の南端に至り、この点から144番77、144番76、144番78、144番79、144番80の西側地番界を北東に順次進み144番80の北端に至り、この点から144番82の西端とを結ぶ線を直進し144番82の西端に至り、この点から144番82、144番83、144番84の西側地番界を北に進み144番85の南端に至り、この点から144番85、144番34、144番26、144番17、144番18、144番19、144番104、144番103、144番20、144番21、144番22、144番23の西側地番界を北に順次進み144番23の北西端に至り、この点から144番23の北側地番界を東に進み144番23の北東端に至り、この点から144番47の北西端とを結ぶ線を直進し144番47の北西端に至り、この点から144番47の北側地番界を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成30年10月1日 ～平成40年9月30日 (H30. 9. 28 第650号)	身近な鳥獣生息地 73ha
	249	足寄町	九州大学演習林		足寄郡足寄町に所在する九州大学農学部附属演習林北海道演習林1林班から30林班までの区域一円	令和元年10月1日 ～令和11年9月30日 (R1. 9. 27 第634号)号)	森林鳥獣生息地 3,710ha
	250	新得町	広内		上川郡新得町に所在する北海道立畜産試験場用地（民有林21林班3から9小班まで）の区域	令和2年10月1日 ～令和12年9月30日 (R2. 9. 30 第603号)	身近な鳥獣生息地 59ha
	251	芽室町	新嵐山		河西郡芽室町中更生2線42番3、4、7、14、21、23、26、43番1、44番1から3まで、7、8、10、16、45番1、5、7、8、13、46番9、9、16、同3線40番9から15まで、41番1から8番まで、42番1、43番2から7まで、同4線37番21から23まで、25、26、31、33、38、39、44から53まで、57、60、62、同5線34番1、21、23、24、27、28、32から47及び同6線32番1、44番1から5、11の区域	令和2年10月1日 ～令和12年9月30日 (R2. 9. 30 第603号)	森林鳥獣生息地 240ha

表 2-16 各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域				区域	存続期間	備考
保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区域			
	252	浦幌町	留真飛田	十勝郡浦幌町字留真に所在する民有林33林班（2から4、28の各小班を除く。）、34林班（5、6の各小班を除く。）、74林班（6、8、24、27、38の各小班、75林班（2から25の各小班を除く。）、76林班（1から12、107の各小班を除く。）、78林班、79林班（52から58、62の各小班を除く。）、80林班（1、2、30、62、63の各小班を除く。）の区域	令和2年10月1日 ～令和12年9月30日 (R2. 9. 30 第603号)	森林鳥獣生息地 807ha
	253	音更町	国見山	河東郡音更町及び河西郡芽室町に所在する国有林十勝西部森林管理署389林班、390林班の区域	令和3年10月1日 ～令和13年9月30日 (R3. 9. 告示予定)	身近な鳥獣生息地 66ha
	254	新得町	狩勝	上川郡新得町に所在する一般民有林十勝森林計画区新得町53林班13小班的北端を起点とし、この点から同小班、同林班53小班的林班界を順次南東に進み同小班東端に至り、同所から同林班界を南西に進み同小班南端と町道狩勝線との交点に至り、この点から町道狩勝線を南東に進み同林班50小班との交点に至り、この点から同小班東端を見通した線を北東に進み同小班北端に至り、同小班界を南東に進み同小班東端に至り、同所から同林班51小班的北端を見通した線を南西に進み同小班北端に至り、同小班界を南東に進み同小班的東端に至り、同所から同林班58小班的東端を見通した線を南西に進み同小班東端に至り、同小班、同林班59小班、66小班界を順次南西に進み同林班62小班との交点に至り、この点から同小班界を東に進み同小班東端に至り、同所から同小班、同林班64小班界を順次南西に進み同小班南端に至り、同所から同林班界を北西に進み同小班西端に至り、同所から同50林班24小班南東端を見通した線を南西に進み同小班的南東端に至り、同小班界を南西に進み同小班と同林班51小班との交点に至り、この点から同小班界を南東に進み同小班東端に至り、同所から同小班界を南西に進み同小班南端に至り、同所から同林班19小班北端を見通した線を北に進み同小班的北端に至り、同所から同小班、同林173小班、46小班界を順次東に進み同小班東端に至り、同所から同53林班58小班的西端を見通した線を南東に進み同小班西端に至り、同所から起点を見通した線を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	令和3年10月1日 ～令和13年9月30日 (R3. 9. 告示予定)	身近な鳥獣生息地 44ha
	255	陸別町	宮の森	足寄郡陸別町に所在する国有林十勝東部森林管理署1038林班へ、と、ち、り小班、1070林班い、ろ、は、は01、に、ハ小班的区域	令和3年10月1日 ～令和13年9月30日 (R3. 9. 告示予定)	身近な鳥獣生息地 90ha
	256	浦幌町	東山	十勝郡浦幌町に所在する一般民有林十勝森林計画区浦幌町208林班（38小班を除く。）、209林班1から6まで、15から17まで、60、65、66小班的区域	令和3年10月1日 ～令和13年9月30日 (R3. 9. 告示予定)	身近な鳥獣生息地 88ha
	257	上士幌町	糠平	河東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署47林班のうちい、ろ、ろ1、ろ2、は及びいの各小班、54林班のうちい、い1、ろ、ろ1、ろ2、は、に及びいの各小班並びに55林班のうちい、い1、い2、ろ、ろ、は及びいの各小班的区域〔特保〕河東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署47林班い及びはの各小班的区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15. 3. 25 第462号 〔特保第463号〕)	森林鳥獣生息地 433ha 〔特保34ha〕
	258	上士幌町 鹿追町	然別	河東郡上士幌町及び鹿追町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署2162林班のうちい、い1、い2、ろ、ろ、は及びいの各小班、2163林班のうちい、ろ、ろ1、は、は1、にからい、イ、イ1からイ3、ロ、ロ1及びハからルの各小班、2164林班のうちいからに、に1、ほ、ほ1及びいの各小班、2166林班い小班、2167林班のうちいからと及びいの各小班並びに2168林班のうちいからにの各小班並びに然別湖の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15. 3. 25 第462号)	森林鳥獣生息地 1, 803ha
	259	新得町	トムラウシ	上上川郡新得町屈足トムラウシ284番地並びに同町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署1182林班のうちい、い1、ろ、ろ1からろ3、は、は1、に、に1、ほ、へ及びイからへの各小班、1188林班のうちいからは、は1からは4、に、に1、ほ及びイからの各小班、1189林班のうちいからは及びイからの各小班、1221林班のうちは及びいの各小班並びに1222林班のうちは及びいの各小班的区域〔特保〕上川郡新得町屈足トムラウシ284番地及び同町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署1189林班は小班的区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15. 3. 25 第462号 〔特保第463号〕)	森林鳥獣生息地 607ha 〔特保98ha〕
	261	本別町	義経山	中川郡本別町に所在する国有林十勝東部森林管理署205林班のうちい、い1及びい2の各小班、206林班のうちい、い1からい6、ろ、ろ及びロの各小班並びに207林班のうちい、い1からい3、イ及びロの各小班的区域〔特保〕中川郡本別町に所在する国有林十勝東部森林管理署205林班い、い1及びい2の各小班的区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15. 3. 25 第462号 〔特保第463号〕)	森林鳥獣生息地 421ha 〔特保47ha〕
	262	足寄町	雌阿寒	足寄郡足寄町に所在する国有林十勝東部森林管理署55林班タ小班並びに56林班のうちい、い1、ろからへまで、へ1からへ3まで、イから二まで、ニ、ホ、へ、ト、ト1、チからルまで、ワ及びオの各小班的区域〔特保〕道指定雌阿寒鳥獣保護区のうち、足寄郡足寄町に所在する国有林十勝東部森林管理署56林班のうち、に、ほ及びワの各小班的区域	平成15年10月1日 ～平成35年9月30日 (H15. 9. 30 第1724号 〔特保第1725号〕)	森林鳥獣生息地 508ha 〔特保115ha〕
	263	陸別町	鹿山	足寄郡陸別町に所在する国有林十勝東部森林管理署陸別事務所65林班のうちい、い1、い2、ろ、ろ1、は、は1、に、に1、ほ、へ、イ及びロの各小班並びに68林班のうちいからに、に1、に2、ほからり、り1及びイから二の各小班的区域〔特保〕足寄郡陸別町に所在する国有林十勝東部森林管理署陸別事務所68林班のうち、いからはまで、イ及びハの各小班的区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15. 3. 25 第462号 〔特保第463号〕)	森林鳥獣生息地 521ha 〔特保66ha〕
	264	鹿追町	瓜幕	河東郡鹿追町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署2145林班及び2147林班及びこれらの林班に囲まれた道有地の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16. 9. 28 第816号)	森林鳥獣生息地 487ha
	266	音更町	オサルシ	河東郡音更町字長流枝5番1の北東端を起点とし、同所から同5番1の東側地帯界を南に直進し、中川郡池田町との境界線との交点に至り、同所から音更町字長流枝5番1の南側地帯界を西に進み、同5番1と同4番4の地帯界との交点に至り、同所から同4番4の南側地帯界、同4番3の南側地帯界、同4番2の南側地帯界、同4番1の南側及び西側地帯界を順次進み同4番1の北西端に至り、同所から直進し同4番5の南西端に至り、同所から同4番5の西側及び北側地帯界、同4番6の北側地帯界、同4番7の北側地帯界を順次進み同4番7と同4番8の地帯界の北東端に至り、同所から直進し同4番9と同4番10の地帯界との交点に至り、同所から同地帯界を北東に進み同地帯界の北端に至り、同所から直進し同4番11と同4番17の地帯界との交点に至り、同所から同地帯界を進み同地帯界の北端に至り、同所から直進し、同4番11と同4番12の地帯界を垂直に横断して同5番1と同4番12の地帯界との交点に至り、同所から同5番1の西側地帯界を北に進み、同5番1と同4番12の北側地帯界に至り、同所から国有未開地の地帯界を直進し、同5番1に至り、同所から同地帯界を北に進み、同5番1と同5番42の地帯界の北端に至り、同所から同5番1と同5番19の地帯界、同5番11と同5番26の地帯界、同5番1と同5番20の地帯界、同5番1と同5番45の地帯界を順次進み同5番45の東端に至り、同所から同5番45と同5番5の地帯界を北に進み、同5番20と同5番45の交点に至り、同所を東に進み同5番1と同5番21の地帯界との交点に至り、同所から同5番1の北側地帯界を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成29年10月1日 ～平成39年9月30日 (H29. 9. 29 第570号)	身近な鳥獣生息地 340ha

表 2-17 各種保護地域指定一覧

特定猟具使用禁止区域		銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考	使用禁止猟具
整理番号	市町村					
70	浦幌町	十勝太	十勝郡浦幌町字十勝太に所在する国道336号線と新川右岸（新川橋）との交点を起点とし、この点から同国道（道路数を除く。）を東に進み見通し線で字十勝太190番西端との交点に至り、この点から地帯界を南東に進みその延長線を直進して太平洋の汀線との交点に至り、この点から同汀線を南西に進み浦幌十勝川の左岸河口との交点及びこれに対応する同川右岸堤防との交点に至り、この点から同川右岸堤防を西に進み新川右岸を延長とした線と浦幌十勝川右岸堤防との交点に至り、この点から新川右岸の延長線を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成30年10月1日 ～平成40年9月30日 (H30. 9. 28 第651号)	35ha	銃器
71	幕別町 音更町	十勝川水系	河東郡音更町に所在する国道241号（十勝大橋）と十勝川左岸堤防との交点を起点とし、この点から同堤防を東に進み音更川右岸堤防に至り、同堤防を北に進み道道帯広浦幌橋（至米大橋）との交点に至り、この点から同道道を東に進み音更川左岸堤防との交点に至り、この点から同堤防を南に進み十勝川左岸堤防に至り、この点から同堤防を東に進み同堤防の終点に至り、この点から北進沢川と十勝川との合流点を見通し線を進み、同合流点に至り、この点から十勝川左岸を東に進み、十勝川左岸堤防の延長線との交点に至り、この点から同延長線を東に進み、同堤防に至り、この点から同堤防を東に進み土幌川右岸堤防に至り、同堤防を北西に進み道道帯広浦幌橋（旭橋）との交点に至り、この点から同道道を東に進み中川郡池田町に所在する千代田堰堤下流管理橋の延長線との交点に至り、この点から同延長線及び同橋を南に進み、更に同橋の延長線を南に進み、中川郡幕別町に所在する十勝川右岸堤防との交点に至り、この点から同堤防を西に進み道別川右岸堤防に至り、同堤防を南西に進み国道35号（千住橋）との交点に至り、この点から同国道を西に進み道別川左岸堤防との交点に至り、この点から同堤防を北東に進み十勝川右岸堤防に至り、同堤防を西に進み国道39号（札内大橋）との交点に至り、この点から同国道を西に進み帯広市に所在する札内川左岸堤防との交点に至り、この点から同堤防を北東に進み帯広川右岸堤防に至り、この点から同堤防を西に進み帯里橋との交点に至り、この点から同橋を北に進み十勝川右岸堤防との交点に至り、この点から同堤防を西に進み国道241号（十勝大橋）との交点に至り、この点から同国道を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成27年10月1日 ～平成37年9月30日 (H27. 9. 29 第649号)	1338ha	銃器
72	池田町	利別	中川郡池田町に所在する道道帯広浦幌線と町道川合東36号との交点を起点とし、この点から同町道を南に進み町道川合東36号支線との交点に至り、この点から同町道支線を西に進み道道利別牛首別線との交点に至り、この点から同道道を北に進み町道南5線を西に延長した線との交点に至り、この点から同線を西に進み町道東33号との交点に至り、この点から同町道を北に進み国道242号との交点に至り、この点から同国道及び道道帯広浦幌線を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成27年10月1日 ～平成37年9月30日 (H27. 9. 29 第649号)	191ha	銃器
73	池田町	昭栄	中川郡池田町字昭栄に所在する町道北9号と北海道旅客鉄道株式会社根室本線との交点を起点とし、この点から同町道（道路数を除く。）を南西に進み町道川合東39号との交点に至り、この点から同町道（道路数を除く。）を西に進み町道川合南14線との交点に至り、この点から同町道（道路数を除く。）を北西に進み道道利別牛首別線との交点に至り、この点から同町道（道路数を除く。）を北西に進み町道道別栄北11号を南西に進み延長線との交点（利別川左岸堤防）に至り、この点から同町道（道路数を除く。）の延長線を北東に進み北海道旅客鉄道株式会社根室本線との交点に至り、この点から同根室本線（鉄道を除く。）沿いに南東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成30年10月1日 ～平成40年9月30日 (H30. 9. 28 第651号)	97ha	銃器
74	幕別町	猿別	中川郡幕別町字相川の町道南6線と国道38号の交点を起点として、同国道を南東に進み猿別川堤防との交点に至り、この点から同堤防を北東に進み町道南4線との交点に至り、この点から町道東25号と河川敷地界との交点に至り、この点から猿別川河川敷地界を南西に進み同河川敷地と幕別町字軍国4番10との交点に至り、この点から北西に進み道道明倫幕別停車場線と町道東20号の交点に至り、この点を西に進み町道東17号との交点に至り、この点から同町道を北に進み町道南6線との交点に至り、この点から同町道を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成25年10月1日 ～平成35年9月30日 (H25. 9. 27 第628号)	351ha	銃器
75	上士幌町	十勝三股	河東郡上士幌町字三股に所在する中の川と三の沢川との合流点を起点として、この点から三の沢川（河川敷を除く。）を東に進み沢界との交点に至り、この点から同沢界を南に進み十勝西部森林管理署大雪支署176林班北側境界線との交点に至り、この点から同境界線を東に進み標高78mと標高770mの鞍部（コル）に至り、この点から見通し線で南南東に進み十四の沢林道と沢界との交点に至り、この点から同沢界を南西に進み十四の沢川との交点に至り、この点から同川（河川敷を除く。）を南西に進み音更川との合流点に至り、この点から音更川（河川敷を除く。）を北に進み中の川との合流点に至り、この点から中の川（河川敷を除く。）を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成30年10月1日 ～平成40年9月30日 (H30. 9. 28 第651号)	254ha	銃器
76	浦幌町	浦幌豊北	十勝郡浦幌町字トイトッキに所在する町道豊北線と町道豊北学校線との交点を起点とし、この点から同豊北小学校線（道路数を除く。）を南に進み国道336号線との交点に至り、この点から同国道（道路数を除く。）を西に進み町道字トイトッキ95番11の南端に至り、この点から同国道（道路数を除く。）を北に進み町道豊北線との交点に至り、この点から同町道（道路数を除く。）を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	令和2年10月1日 ～令和12年9月30日 (R2. 9. 30 第605号)	156ha	銃器
77	陸別町	陸別銀河の森	足寄郡陸別町字陸別に所在する一般民有林十勝森林計画区陸別町有林129林班、151林班及び国有林十勝東部陸別21林班との林境界の交点を基点とし、この点から151林班と国有林の境界を南に進み同町有林130林班界との交点に至り、この点から130林班と151林班の林境界を北に進み130林班33小班界との交点に至り、この点から同林班32小班界を見通して同見通し線を北に進み129林班と130林班の林境界との交点に至り、この点から同林境界を西に進み129林班27小班西側小班界との交点に至り、同小班界を北に進み陸別町字陸別52号線との交点に至り、この点から同号線を東に進み同林班135小班と34小班の小班界との交点に至り、この点から同林班32小班の西側小班界を見通して同見通し線を北に進み同小班と54小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界を東に進み陸別町字陸別東2線との交点に至り、この点から同小班界を東に進み同林班119小班と127小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界を東に進み同林班127小班と132小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界と127小班と133小班の小班界を北に進み陸別町字陸別53号線との交点に至り、この点から同号線を西に進み陸別町字陸別東2線との交点に至り、この点から陸別町字陸別54号線と129林班93小班の西側小班界との交点を見通して同見通し線を進み同点に至り、この点から同号線を西に進み清水川河川敷界との交点に至り、この点から同河川敷界を東に進み129林班107小班西側小班界との交点に至り、この点から陸別町字陸別東2線と129林班85小班の北側小班界との交点を見通して同見通し線を東に進み同交点に至り、この点から129林班153及び1111小班の南側小班界を東に進み151林班界との交点に至り、この点から同林境界を北に進み起点に至る線に囲まれる区域	平成24年10月1日 ～平成34年9月30日 (H24. 9. 28 第585号)	163ha	銃器
78	上士幌町	糠平	河東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署大雪支署60林班の11小班の北端を起点とし、この点から国有林境界を南東に進み、56林班11小班と55林班11小班との交点に至り、この点から同小班界を西に進み国道273号との交点に至り、この点から同国道を北に進み61林班との交点に至り、この点から見通し線で起点に至る線によって囲まれた区域	平成25年10月1日 ～平成35年9月30日 (H25. 9. 27 第628号)	88ha	銃器
79	新得町	新得町立富村牛小中学校市街地	上川郡新得町に所在する国有林十勝西部森林管理署大雪支署1260林班は小班の北端を起点とし、この点から林境界を南に進み同町字トムラウシ283番地との交点に至り、この点から地帯界を南に進み1301林班へ小班との交点に至り、この点から林境界を東に進み1301林班へ小班との交点に至り、この点から地帯界を北に進み337番地1との交点に至り、この点から地帯界を北に進み道道忠別清水線と1301林へ小班の北西端との交点に至り、この点から道路境界を北に進み1260林班は小班の北西端に至り、この点から東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成30年10月1日 ～平成40年9月30日 (H30. 9. 28 第651号)	31ha	銃器

出典：北海道「令和3年度鳥獣保護区等位置図（別冊編）」

表 2-18 自然公園等の指定状況

種別	名 称	指定日	面積(ha)
国立公園	大雪山国立公園	昭和9 年12 月4 日	226,764
	阿寒摩周国立公園	昭和9 年12 月4 日	91,413
国定公園	日高山脈襟裳国定公園	昭和56 年10 月1 日	103,447
原生自然環境保全地域	十勝川源流部	昭和52 年12 月 28 日	1,035
都市公園(道立公園区域)	十勝エコロジーパーク	平成15 年 7 月 20 日	141

表 2-19 天然記念物等指定状況

区 分	指定	名 称	所 在 地
特別天然記念物	国	タンチョウ	北海道
		大雪山	新得町
天然記念物	国	オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地	足寄郡足寄町
	道	札内川流域化粧柳自生地	帯広市大正町基線9号・10号地先
		大正のカシワ林	帯広市大正町445、446
		帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主	帯広市川西町西4線17
		然別湖オショロコマ生息地	上士幌町・鹿追町の十勝西部森林管理署内
		更別温原のヤチカンバ	更別村上更別33
		大津海岸トイトツキ浜野生植物群落	豊頃町打内
	町	十勝坊主	河東郡音更町字東音更東6線41番地2
		三股永久凍土	河東郡上士幌町字三股国有林内
		丸山噴泉塔群	河東郡上士幌町字幌加国有林内
		大通公園一帯カシワ林	芽室町本通9丁目1
		ハルニレ(名勝地に変更)	豊頃町二宮780-2
		ハルニレ(名勝地に変更)	豊頃町幌岡南9号地先
		立木カシワ(7本)(勇足神社のカシワ林)	本別町勇足元町151
		立木カシワ(1本)(上押帯神社立木カシワ)	中川郡本別町押帯424番地8
		ヒカリゴケ	中川郡本別町東町53番地
		シオワッカ(足寄石灰華半ドーム)	足寄町上螺湾394番地

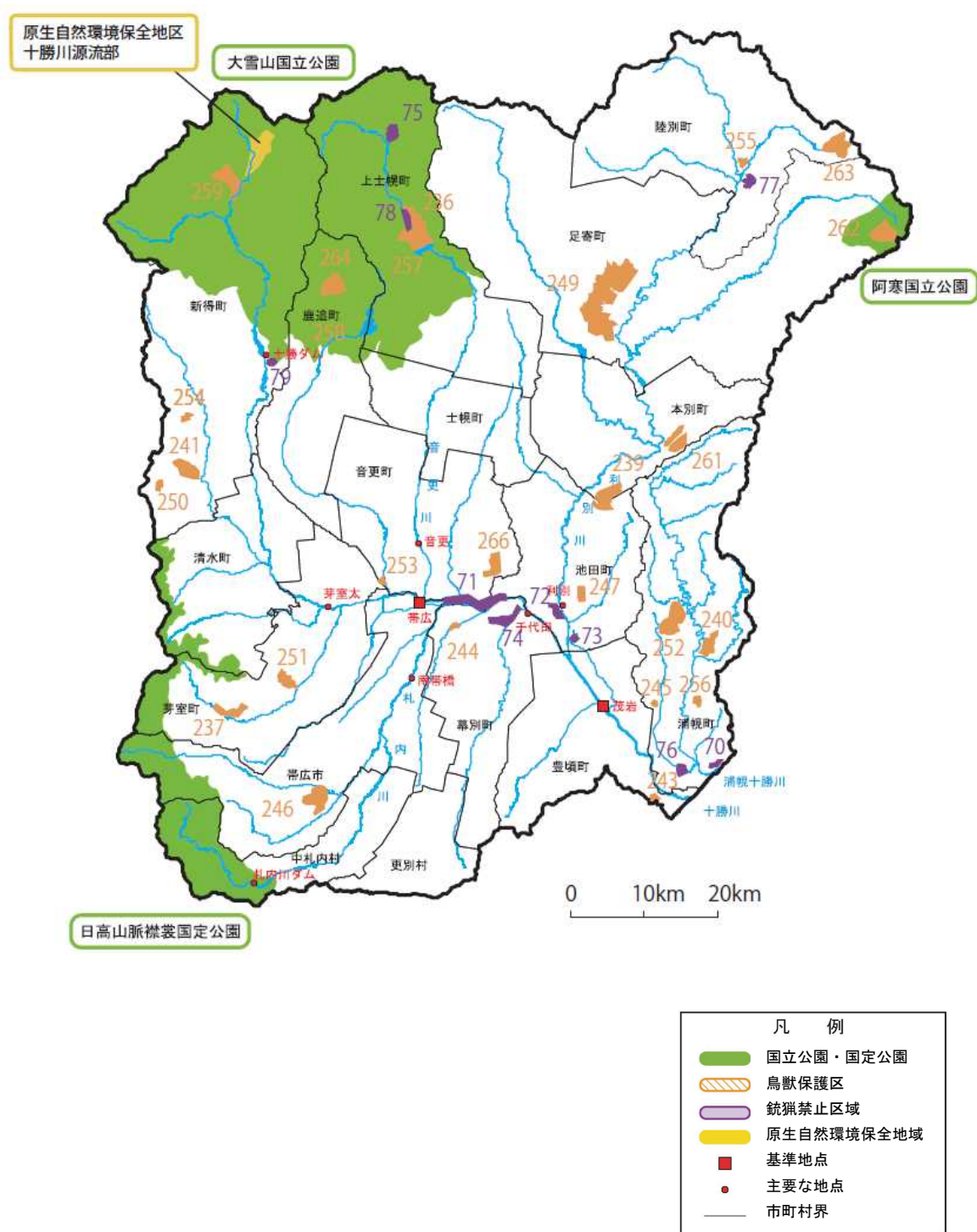


図 2-3 十勝川流域における自然環境概要図

3. 流域の社会状況

3-1. 人口

十勝川流域は、北海道内 14 支庁で最も広い十勝支庁の大部分を占め、北海道東部の主要都市帯広市をはじめとする 1 市 14 町 2 村から構成される。

流域関係市町村の総人口は 320,841 人(令和 2 年(2020 年)国勢調査)で、このうち帯広圏(帯広市・音更町・芽室町・幕別町)人口は 253,926 人となっており、流域人口に対して約 8 割を占める。

また、人口の年度別推移を見てみると、帯広圏人口の流域人口に対する割合は、昭和 35 年(1960 年)の国勢調査では 50%、昭和 55 年(1980 年)の国勢調査では 67%、平成 2 年(1990 年)の国勢調査では 71%となっている。昭和 55 年(1980 年)から令和 2 年(2020 年)までの 40 年間の人口増加率は、流域人口の-3.2%に対し、帯広圏では 14.6%となっており、帯広圏への人口集中が年々高まっている。

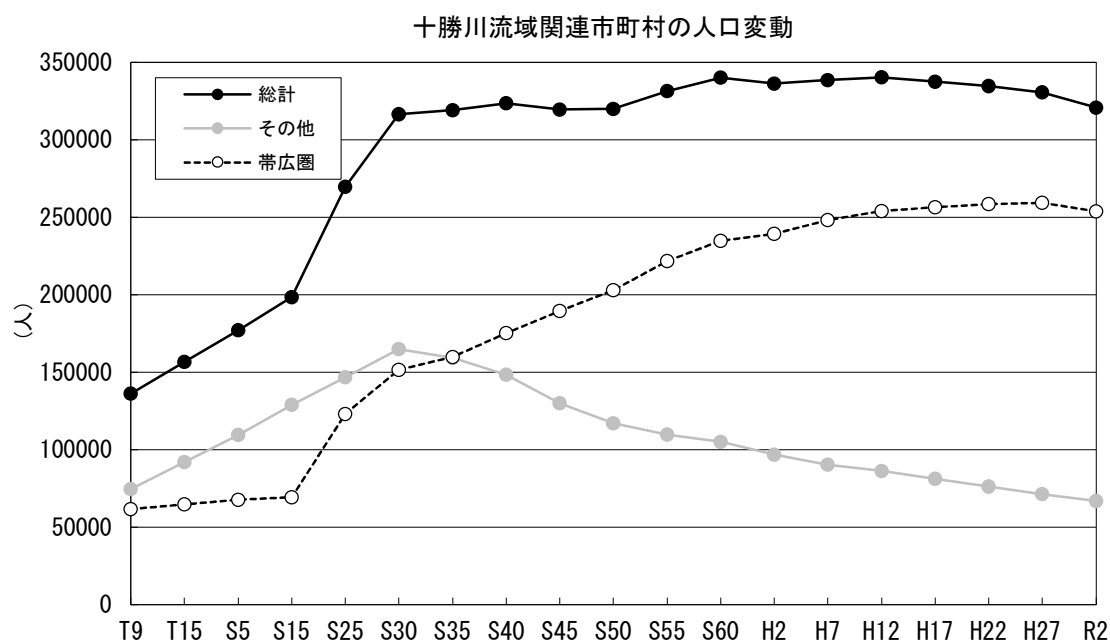


図 3-1 十勝川流域関係市町村の人口変動

※T15 の値は T9 と S5 の平均値

表 3-1 流域関係市町村人口に対する帯広圏人口の割合の推移

	昭和 35 年 (1960 年)	昭和 55 年 (1980 年)	平成 12 年 (2000 年)	令和 2 年 (2020 年)
帯広圏人口(人)	159,846	221,659	254,092	253,926
流域関係市町村人口(人)	318,411	331,512	340,369	320,841
流域関係市町村人口に対する帯広圏人口の割合	50.2%	66.9%	74.7%	79.1%

(国勢調査結果より)

3-2. 土地利用

流域の土地利用は、古くは明治期の開拓に始まり、当初流域の下流部の低平地には湿地が広がっていたが、治水事業や農地開発により低平地は徐々に農地として利用されるようになり、昭和中期から後期にかけてはほとんどの低平地が農地として利用されるに至っている。現在の土地利用は、山林が約63%、農地が約29%、市街地が約1%となっている。

近年においては、帯広市をはじめ都市化が進む地域を抱えるとともに、約26万haの耕地が広がり、小麦・甜菜・馬鈴薯・小豆・いんげん等の畑作や畜産が行われ、日本有数の食糧基地として位置づけられている。

表 3-2 地目別土地利用の割合

	山林	農地	市街地	河川	その他
昭和51年	65.9%	26.6%	0.4%	2.3%	4.8%
平成9年	61.7%	30.1%	1.3%	2.4%	4.5%
平成21年	62.6%	28.9%	1.4%	2.2%	4.8%
平成28年	63.2%	29.3%	1.4%	2.5%	3.7%

※図 3-3～図 3-6を読み取り

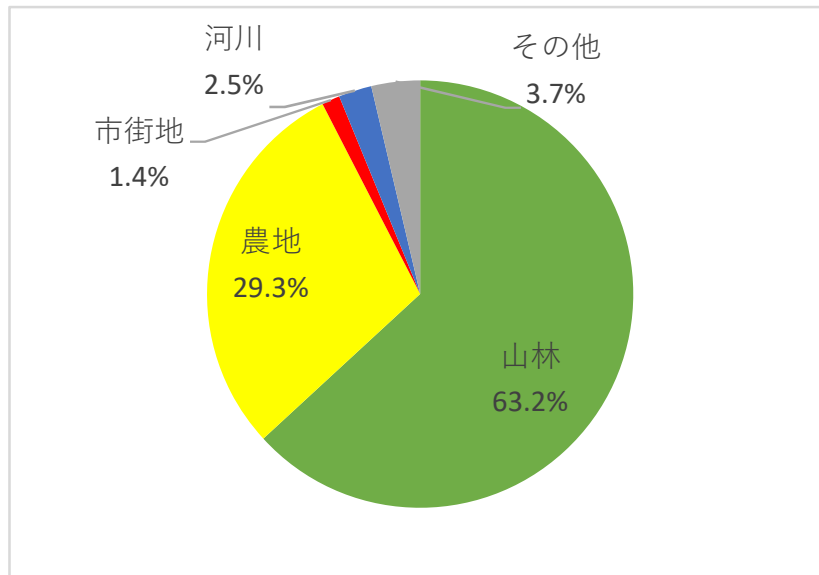
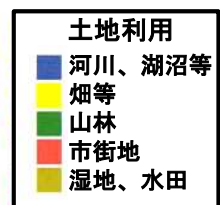
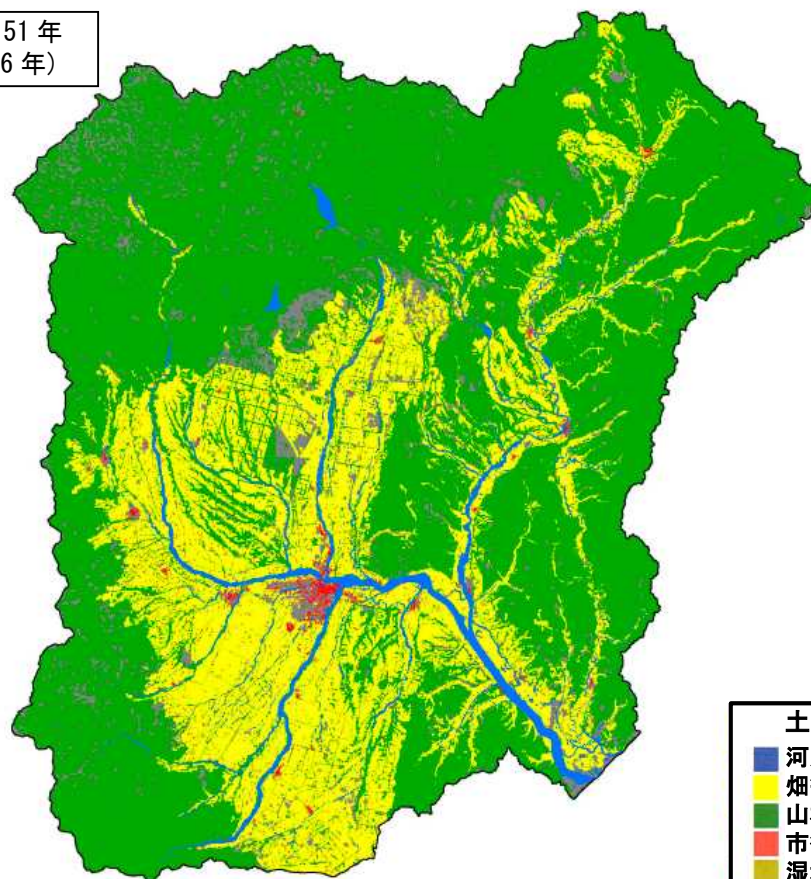


図 3-2 地目別土地利用の割合

※図 3-3～図 3-6を読み取り

昭和 51 年
(1976 年)



昭和 62 年
(1987 年)

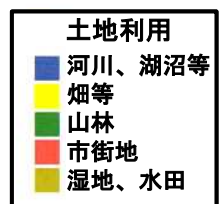
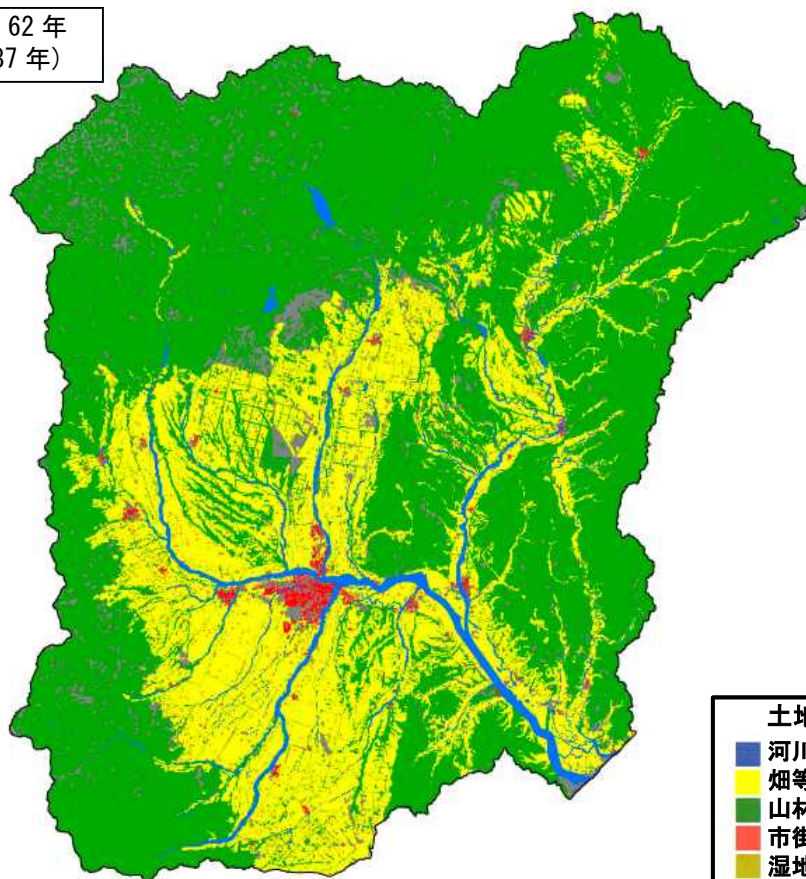


図 3-3 十勝川流域の土地利用の変遷

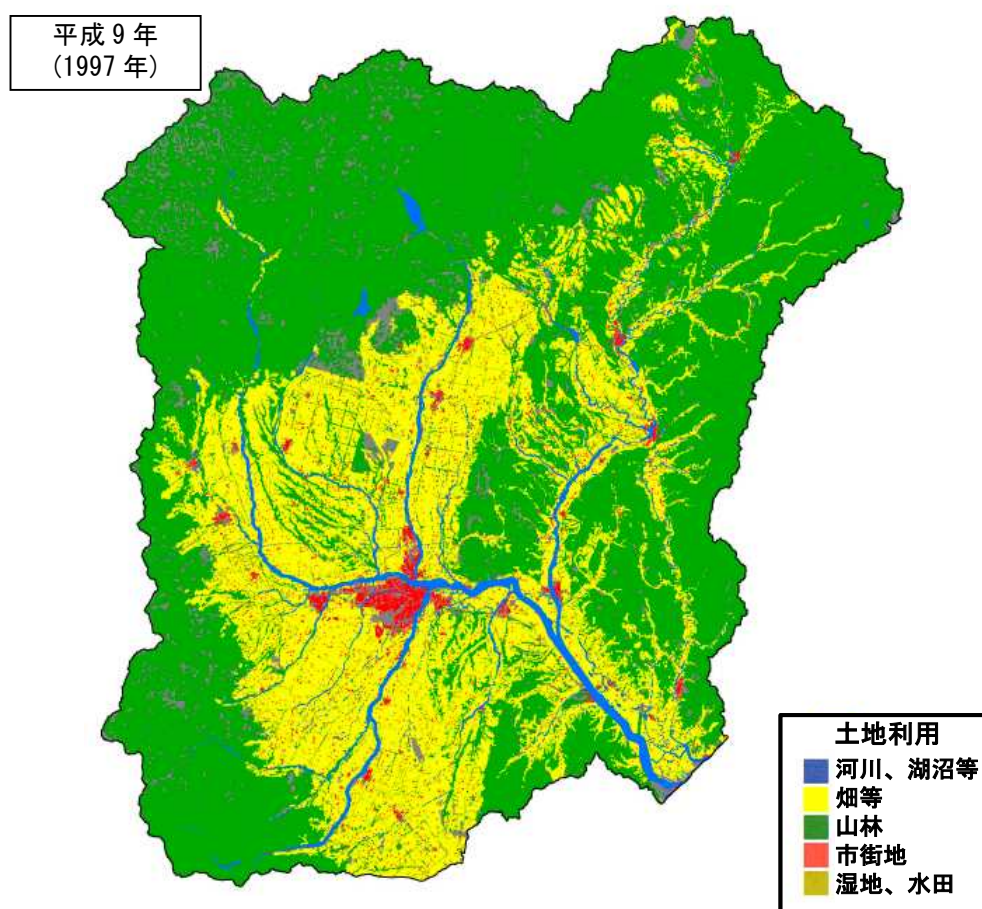
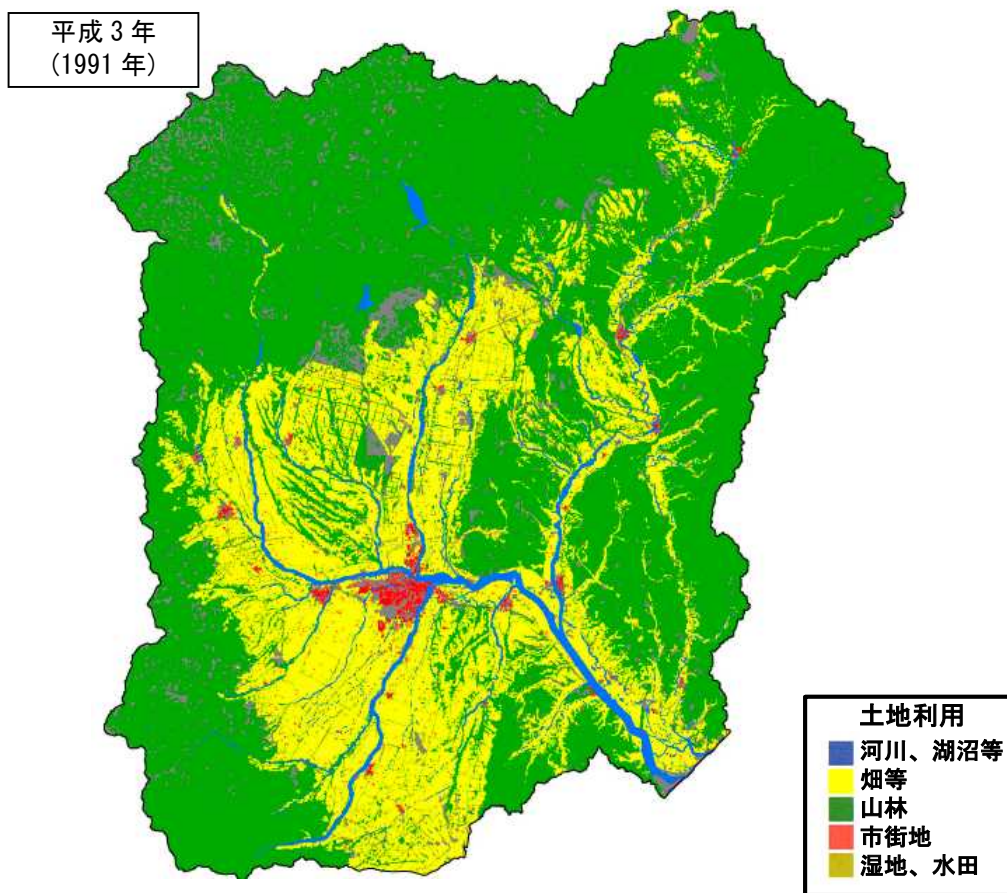


図 3-4 十勝川流域の土地利用の変遷

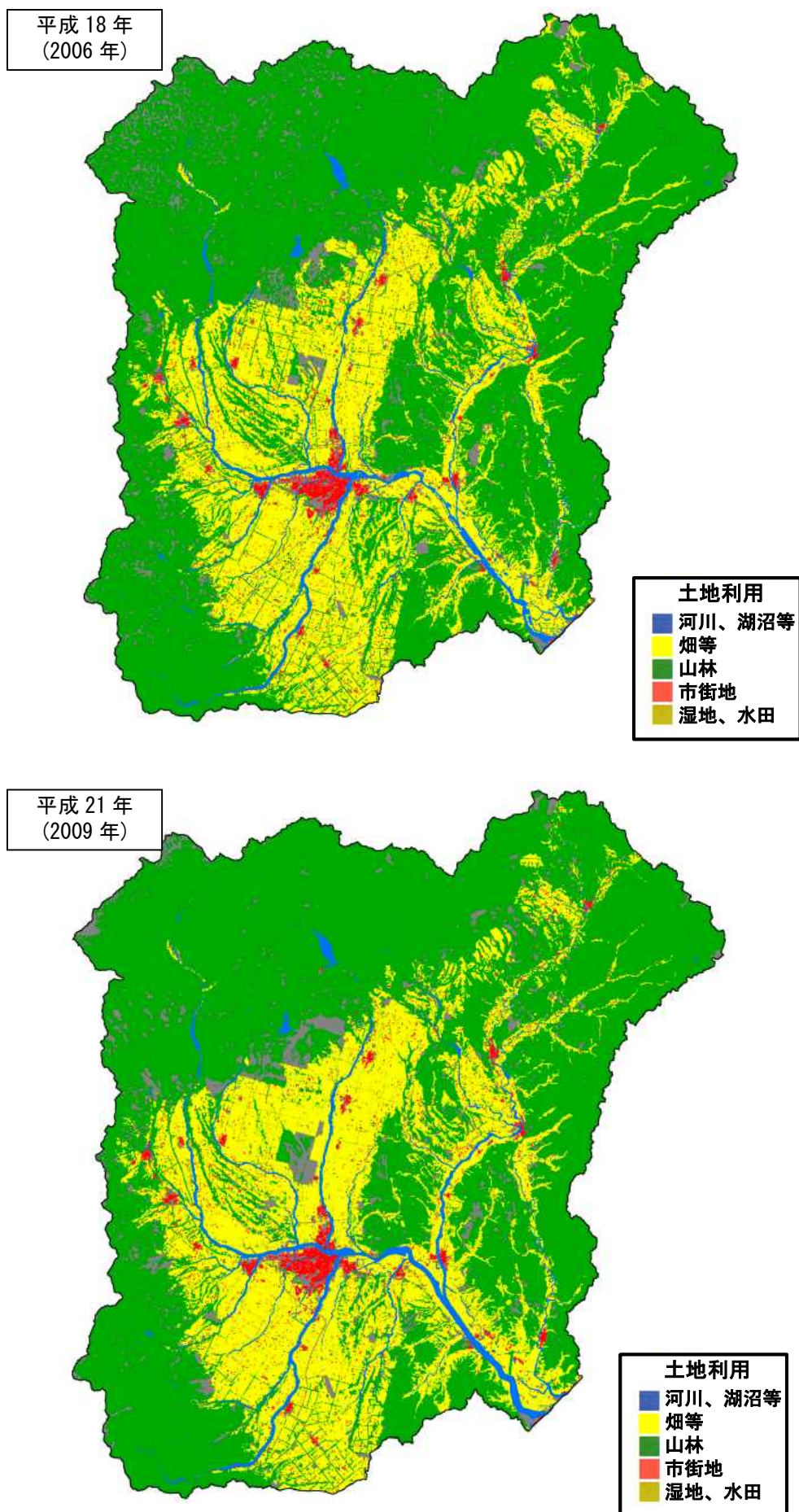


図 3-5 十勝川流域の土地利用の変遷

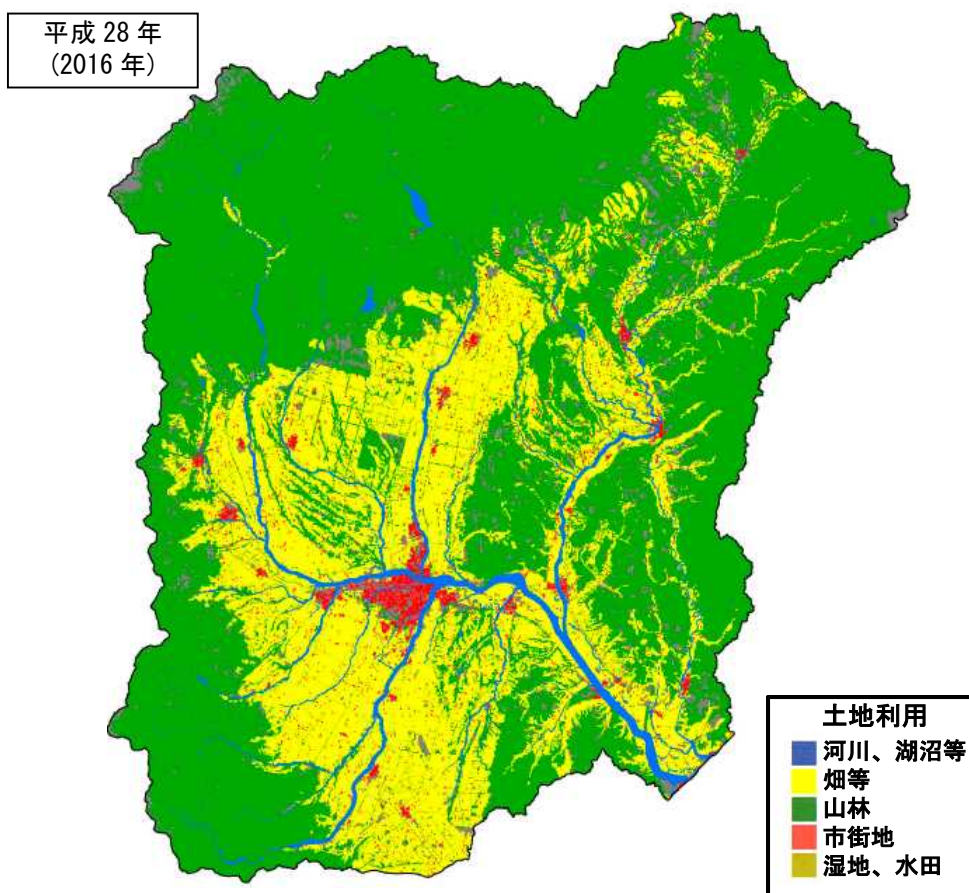
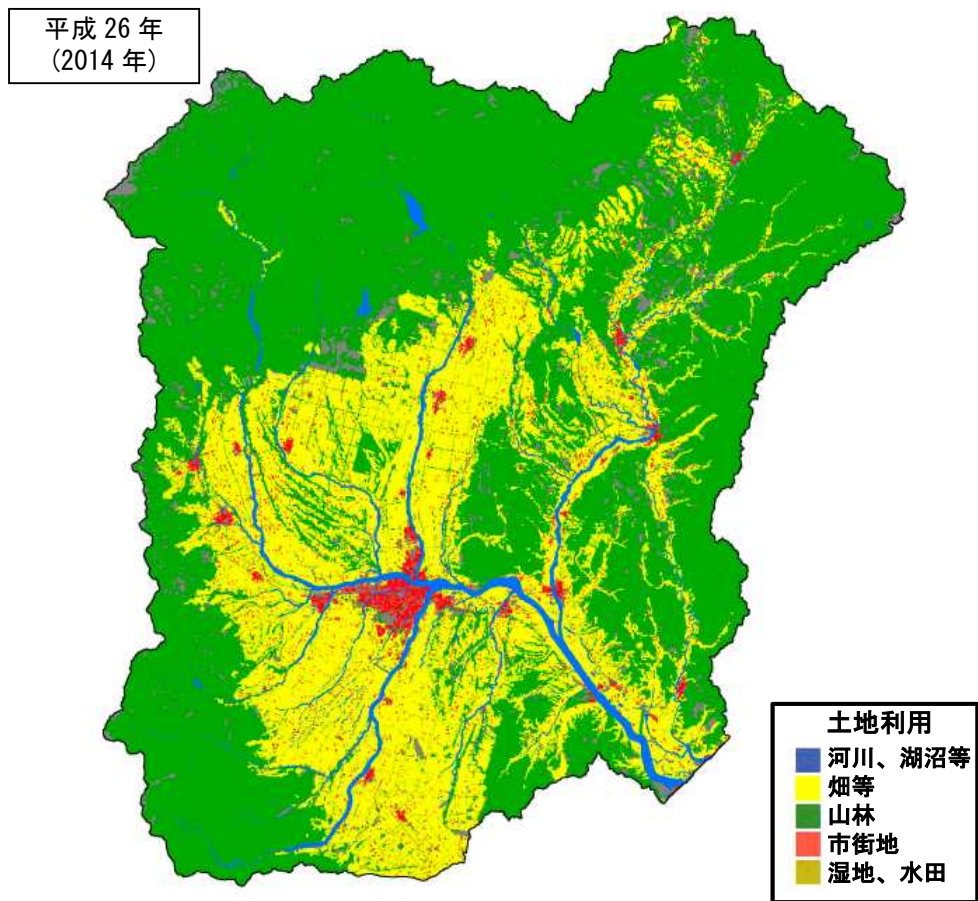


図 3-6 十勝川流域の土地利用の変遷

3-3. 産業・経済

十勝川流域の第1次産業について、農業は十勝平野における畑作・酪農を中心とした農業地帯が形成され、流域の基幹産業であり、日本有数の食料基地となっている。農業生産額の全道に占める割合は26%（道内1位）、食料自給率が約1,340%となっている。水産業については、寒暖2海流が接した好漁場の道東太平洋に臨み、サケ・スケトウダラ・シシャモ・タコ類・ツブ類・毛ガニ等を主体とした沿岸・沖合漁業が行われている。また、千代田堰堤ではサケの捕獲も行われており、季節の風物詩として多くの観光客も訪れている。サケは全道の河川で最も捕獲数が多い。シシャモは十勝・釧路管内の漁獲量が全道の漁獲量の大半を占め、主要な産地となっている。さらに、流域では豊富な森林資源を活用し、カラマツを代表樹種とした林業が営まれている。

また、第2次産業については農業、林業等の第1次産業を背景とした食品製造、木材・木製品製造などの資源型工業が行われていることが特徴となっている。

第3次産業は、帯広圏を中心に卸売業・小売業、サービス業などの産業が充実している。大規模小売店舗については、近年、地場企業による新規出店が相次いでおり、年々増加傾向にある。

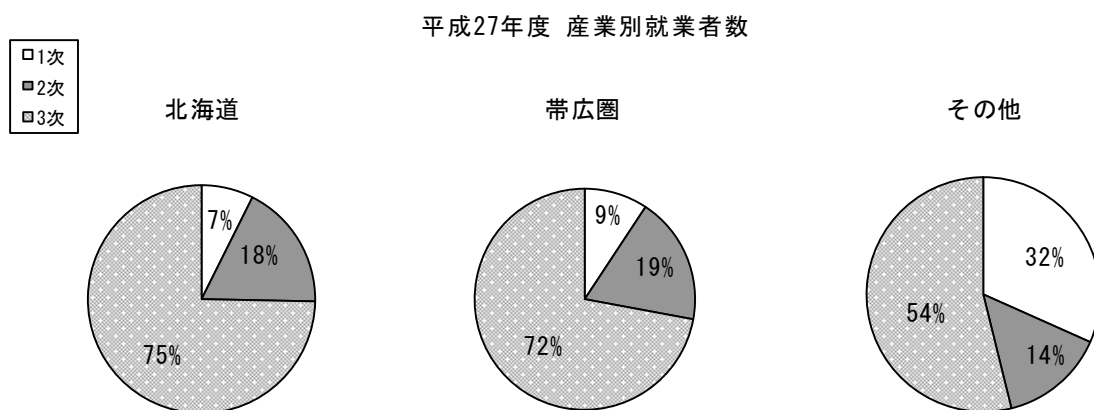


図 3-7 産業別就業者数の割合(平成 27 年(2015 年)度国勢調査)

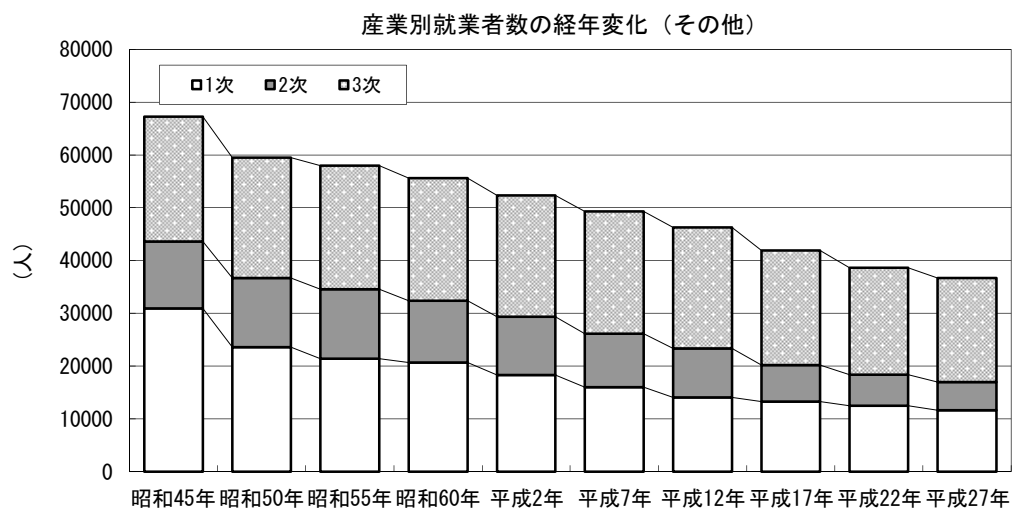
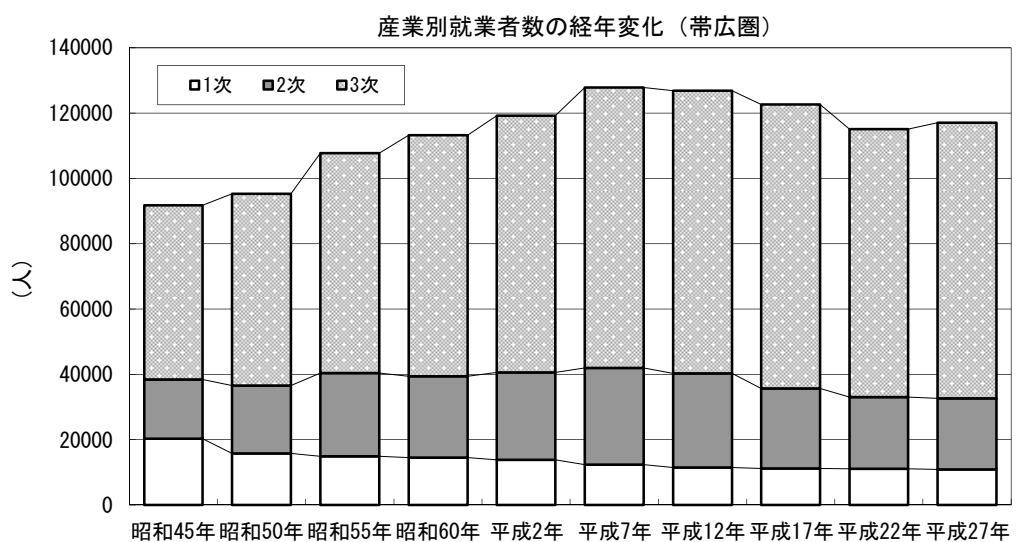


図 3-8 産業別就業者数の経年変化(平成 27 年(2015 年)度国勢調査)

3-4. 交通

広大な面積を有する管内では自動車交通への依存度が高く、道路網は圏域内外の物的・人的交流に重要な役割を果たしている。他圏域と結ぶ主要幹線道路としては、道央・釧路圏^{くしろ}を結ぶ国道 38 号、北網圏^{ほくもう}を結ぶ国道 242 号、釧路圏を結ぶ国道 241 号、道北・上川中部圏^{かみかわ}を結ぶ国道 273 号、道央・日高圏^{うらかわ}を結ぶ国道 336 号、274 号があり、さらに広尾～浦河間を結ぶ国道 236 号が平成 9 年(1997 年)9 月に開通し、十勝・日高間の時間が従来より短縮され、人の行き来が盛んになっている。

高規格幹線道路については、平成 7 年(1995 年)10 月に、北海道横断自動車道の十勝清水～池田間が、平成 15 年(2003 年)3 月に帯広川西～帯広間、平成 15 年(2003 年)6 月に池田～足寄・本別間が開通した。平成 21 年(2009 年)11 月に本別～浦幌間、平成 27 年(2015 年)3 月には浦幌～白糠間が開通した。また、平成 23 年(2011 年)10 月に道東自動車道が開通し、札幌圏と接続された。現在は足寄～北見間の整備が進められている。

今後、空港・港湾とのアクセス強化や中核都市等とのネットワーク強化に向けた道路網の一層の整備が望まれている。

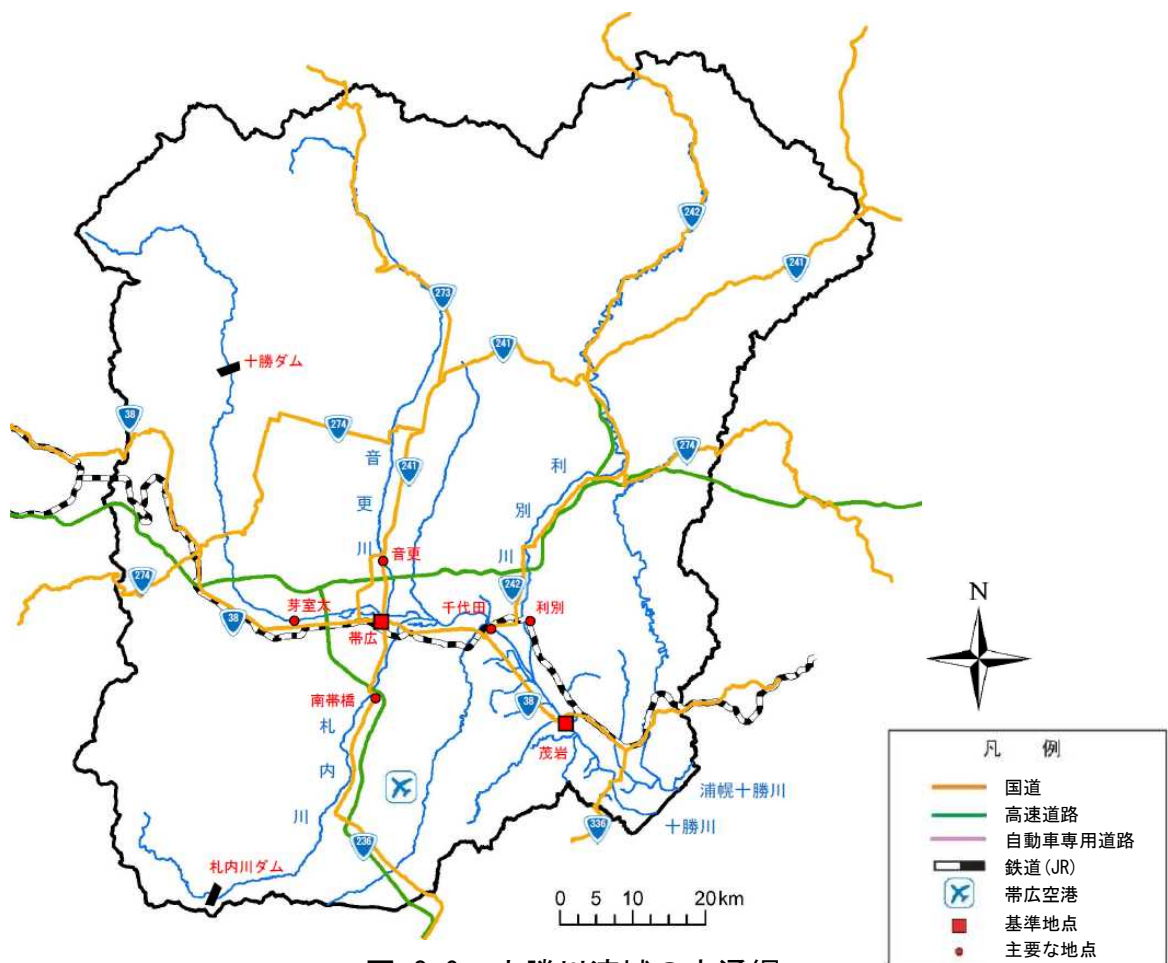


図 3-9 十勝川流域の交通網

「国土数値情報（道路データ・高速道路時系列データ）」（国土交通省）

(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gmlold/datalist/gmlold_KsjTmplt-N01.html) を加工して作成

3-5. 関係ある法令の指定状況

① 第8期北海道総合開発計画

第8期北海道総合開発計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道が持つポテンシャルを最大限に活用することにより、2050年の長期を見据え、「世界の北海道」を目指す。

計画期間においては、「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワーク強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上及び世界水準の魅力ある観光地域づくり、地域づくり人材の発掘・育成を重点的な取組としている。



図 3-10 計画のキャッチフレーズと3つの目標

北海道総合開発計画の概要

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

- ・国全体の安定と発展に寄与するため、特別な開発政策の下、北海道開発を推進。
- ・第7期計画策定後、食料品等の輸出額倍増、外国人観光客数100万人突破等、成長期待産業の萌芽が見られた一方、経済・人口は縮小傾向。加えて、低炭素社会の形成に向けた取組強化、ネットワーク未整備区間の解消、地域コミュニティ維持が課題。

第2節 我が国を取り巻く時代の潮流

- (1)本格的な人口減少時代の到来
- (2)グローバル化の更なる進展と国際環境の変化
- (3)大規模災害等の切迫

第3節 新たな北海道総合開発計画の意義

- ・北海道開発の基本的意義：北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献。
- ・人口減少・高齢化の急速な進展等により、食や自然環境など北海道の強みを提供し、我が国全体に貢献している「生産空間」の維持が困難となるおそれ。
- ・今後10年間で「生産空間のサバイバル」、「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間と認識。
- ・北海道新幹線開業、高速道路網の道東延伸、2020年オリパラ等は、北海道の魅力発信の契機。
- ・これらの機会を捉え、地域が一体となって戦略的に取組を進めることにより、本格的な人口減少時代にあっても活力を失うことなく人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の先駆的形成を図る。

第2章 計画の目標

- キャッチフレーズ：「世界の北海道」
 - ビジョン：2050年を見据え、「世界水準の価値創造空間」の形成
- 《3つの目標》
- (1)人が輝く地域社会
 - (2)世界に目を向けた産業
 - (3)強靱で持続可能な国土

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間 2016(平成28)～2025(令和7)年度の10年間

第2節 施策の基本的な考え方

- 北海道型地域構造の保持・形成
 - ・重層的な機能分担、ネットワークによる連携を通じ、日常生活に支障のない都市機能・生活機能が提供される「基礎圏域」を形成。基礎圏域内外の人々の活発な対流を促進する中で人口の自然減・社会減を抑制。
- 北海道の価値創造力の強化
 - ・人口減少時代にあっても、「人」こそが資源。
 - ・地域づくり人材の支援・協働を図る「プラットフォーム」を構築し、多様で柔軟な取組を展開。

第3節 計画の推進方策

- (1)産学官民金連携による重層的なプラットフォームの形成
 - ・産学官民金が連携するプラットフォームを北海道全体又は地域ごとに展開し、人材育成、地域づくり等の取組を持続的にマネジメント。
- (2)イノベーションの先導的・積極的導入～「北海道イニシアティブ」の推進
 - ・技術の力で人口減をカバーし、地域の課題を旧弊にとらわれずイノベティブに解決。
- (3)戦略的な社会資本整備
 - ・社会資本のストック効果を最大限に発揮。戦略的なインフラメンテナンスの徹底、技術開発も活用した「賢く使う」取組の充実強化。
- (4)計画のマネジメント
 - ・「企画立案→実施→評価→改善」のマネジメントサイクル。おおむね5年後に総合的な点検。

第4章 計画の主要施策

第1節 人が輝く地域社会の形成

(1) 北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

- ①基礎圏域の形成 ③地方部の市街地 ⑤札幌都市圏
- ②地方部の生産空間 ④基礎圏域中心都市 ⑥国境周辺地域の振興

(2) 北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

- ・ 共助社会づくり、「活動人口」の確保 ・ 地域づくり人材の発掘・育成
- ・ 北日本や海外との「人の対流」

(3) 北方領土隣接地域の安定振興

(4) アイヌ文化の振興等

第2節 世界に目を向けた産業の振興

(1) 農林水産業・食関連産業の振興

- ①イノベーションによる農林水産業の振興 ③「食」の海外展開
- ②「食」の高付加価値化と総合拠点づくり ④地域資源を活用した農山漁村の活性化

(2) 世界水準の観光地の形成

- ・ 世界に通用する魅力ある観光地域づくり、観光旅行消費の一層の拡大
- ・ 外国人旅行者の受入環境整備 ・ インバウンド新時代に向けた戦略的取組
- ・ MICEの誘致・開催促進と外国人ビジネス客等の積極的な取り込み

(3) 地域の強みを活かした産業の育成

- ・ 北の優位性の活用 ・ 地域消費型産業を始めとする地域経済の活性化
- ・ 産業集積の更なる発展 ・ 域内投資等の促進
- ・ 産業を支える人流・物流ネットワークの整備等

第3節 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

① 環境と経済・社会の持続可能性の確保

- ・ 自然共生社会の形成 ・ 循環型社会の形成 ・ 低炭素社会の形成

② 環境負荷の少ないエネルギー需給構造の実現

- ・ 再生可能エネルギーの更なる導入に向けた取組
- ・ 暖房用熱源や自動車燃料等北海道の地域特性を踏まえた取組

(2) 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

① 激甚化・多様化する災害への対応

- ・ 「人命を守る」ための体制づくり ・ 冬期災害への対応
- ・ 地震・津波災害、火山噴火等の大規模自然災害への対応
- ・ 気候変動等による水害・土砂災害リスクへの対応

② 我が国全体の国土強靱化への貢献

- ・ 国家的規模の災害時におけるバックアップ拠点機能の確保
- ・ 災害時における食料の安定供給の確保

③ 安全・安心な社会基盤の利活用

- ・ インフラ老朽化対策の推進 ・ 交通安全対策の推進
- ・ 強靱な国土づくりを支える人材の育成

② 地域プロジェクトおよび都市計画

十勝川流域に関連する主な地域プロジェクトとして、「十勝エコロジーパーク事業」「帯広の森造成計画」が実施されている。

十勝川流域においては、帯広市、音更町、芽室町、幕別町において帯広圏都市計画区域が設定され、広域都市圏において市街化区域および市街化調整区域が指定されている。また、新得町、清水町、浦幌町、足寄町、本別町、浦幌町で都市計画区域が指定されている。

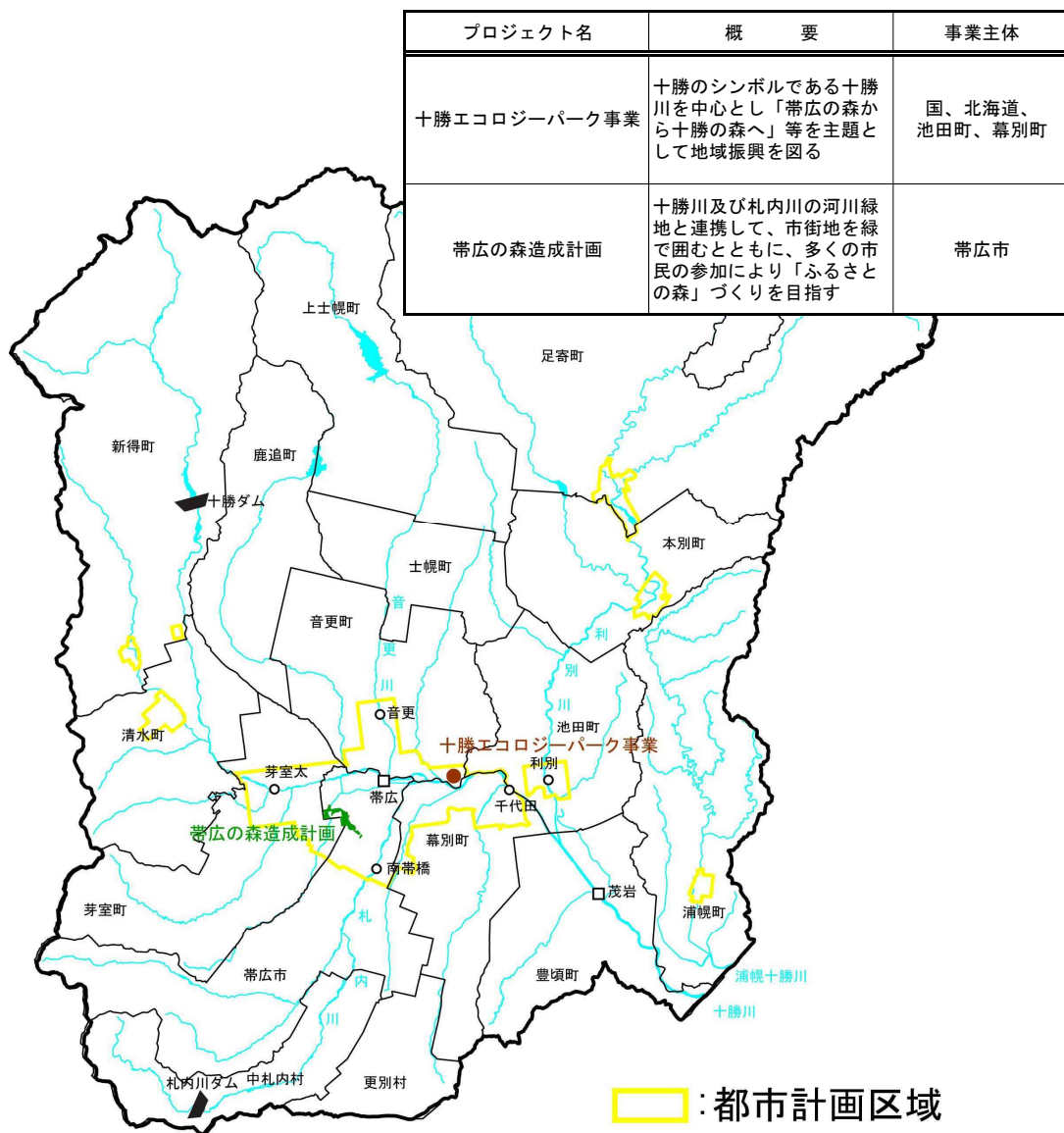


図 3-11 十勝川流域の地域プロジェクトおよび都市計画区域

4. 水害と治水事業の沿革

4-1. 既往洪水の概要

十勝川流域では、過去に以下に示す洪水が発生している。

表 4-1 十勝川水系における既往の主要な洪水の概要

洪水発生年月	気象原因	茂岩地点		帯広地点		被害等
		流域平均雨量 (mm/3 日)	流量 (m ³ /s)	流域平均雨量 (mm/3 日)	流量 (m ³ /s)	
大正 11 年 (1922 年) 8 月	台風	204.3	9,390	223.9	3,208	被害家屋 : 4,478 戸 ※1 はん濫面積 : 5,243ha ※1 内水はん濫面積 : 不明 外水はん濫面積 : 不明
昭和 37 年 (1962 年) 8 月	台風	135.0	8,839	166.6	4,204	被害家屋 : 3,793 戸 ※1 はん濫面積 : 40,768ha ※1 内水はん濫面積 : 不明 外水はん濫面積 : 不明
昭和 47 年 (1972 年) 9 月	台風	177.1	7,787	193.1	2,880	被害家屋 : 3,013 戸 ※1 はん濫面積 : 30,729ha ※1 内水はん濫面積 : 765ha 外水はん濫面積 : 29,964ha
昭和 50 年 (1975 年) 5 月	低気圧	106.1	4,167	91.1	986	被害家屋 : 186 戸 ※1 はん濫面積 : 2,698ha ※1 内水はん濫面積 : 2,698ha 外水はん濫面積 : 0ha
昭和 56 年 (1981 年) 8 月	台風	209.1	7,671	283.8	4,952	被害家屋 : 355 戸 ※1 はん濫面積 : 7,017ha ※2 内水はん濫面積 : 4,673ha 外水はん濫面積 : 2,344ha
昭和 63 年 (1988 年) 11 月	低気圧	123.1	3,065	103.3	843	被害家屋 : 279 戸 ※1 はん濫面積 : 366ha ※3 内水はん濫面積 : 114ha 外水はん濫面積 : 252ha
平成元年 (1989 年) 6 月	低気圧	133.7	2,823	111.0	833	被害家屋 : 34 戸 ※1 はん濫面積 : 3,940ha ※1 内水はん濫面積 : 3,331ha 外水はん濫面積 : 609ha
平成 10 年 (1998 年) 9 月	台風	112.0	4,814	106.0	1,699	被害家屋 : 286 戸 ※4 はん濫面積 : 1,907ha ※4 内水はん濫面積 : 1,907ha 外水はん濫面積 : 0ha
平成 13 年 (2001 年) 9 月	台風	163.5	7,227	157.9	2,595	被害家屋 : 11 戸 ※5 はん濫面積 : 298ha ※5 内水はん濫面積 : 298ha 外水はん濫面積 : 0ha
平成 15 年 (2003 年) 8 月	台風	177.8	6,700	171.4	2,189	被害家屋 : 51 戸 ※1 はん濫面積 : 369ha ※4 内水はん濫面積 : 369ha 外水はん濫面積 : 0ha
平成 23 年 (2011 年) 9 月	前線	129.9	4,211	167.1	2,540	被害家屋 : 2 戸 ※6 はん濫面積 : 38ha ※6 内水はん濫面積 : 38ha 外水はん濫面積 : 0ha
平成 28 年 (2016 年) 8 月	台風	167.1	12,388	198.6	6,649	被害家屋 : 356 戸 ※7 はん濫面積 : 1412ha ※7 内水はん濫面積 : 768ha 外水はん濫面積 : 644ha

※1 水害 (平成 17 年・北海道開発局)

※2 十勝川洪水報告書 (昭和 58 年・帯広開発建設部)

※3 水害統計 (平成 2 年・国土交通省河川局)

※4 洪水記録 (平成 10 年、平成 15 年・帯広開発建設部)

※5 十勝川下流のあゆみ (平成 15 年・北海道開発局)

※6 洪水記録 (平成 23 年、平成 24 年・帯広開発建設部)

※7 洪水記録 (平成 28 年・帯広開発建設部)

4-2. 主な洪水の概要

① 大正 11 年(1922 年)8 月 21 日～25 日

伊豆半島から北北東進し根室付近を通過した台風による豪雨により、降雨量は帯広で 213.7mm を記録した。その結果、千代田下流～大津河口まで一面冠水、十勝支庁管内死者 9 名、家屋流失 240 戸、同浸水 4,238 戸、田畑流失 1,749ha、同浸水 3,494ha の被害を記録した。

② 昭和 37 年(1962 年)8 月 2 日～4 日

4 日未明、^{おしま}渡島半島を通過東進した台風第 9 号による大豪雨により、降雨量は帯広で 131.5mm、新内 216.2mm、上札内 189mm を記録した。その結果、十勝支庁管内全域死者 2 名、負傷者 2 名、行方不明 2 名、家屋全壊 10 戸、同半壊 40 戸、同流出 19 戸、床上浸水 1,435 戸、床下同 2,289 戸、非住家同 889 戸、田畑流失埋没 657ha、同冠水 40,111ha、農業施設 342 ヶ所、河川決壊 309 ヶ所、道路決壊 215 ヶ所、橋梁損壊 230 ヶ所、崖崩れ 10 ヶ所の被害を記録した。

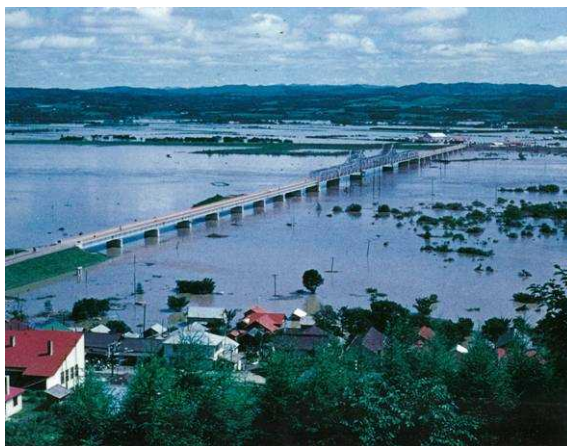


写真 4-1 十勝川 茂岩橋

③ 昭和 47 年(1972 年)9 月 15 日～19 日

秋雨前線が北上し台風第 20 号が渡島半島付近まで北上し回転したため、糠平で 188mm、帯広 197mm、上札内 382mm の降雨量を記録した。その結果、十勝支庁管内全域死者 5 名、負傷者 4 名、家屋全壊 46 戸、同半壊 1,080 戸、同浸水 1,887 戸、河川決壊 442 ヶ所、道路損壊 572 ヶ所、橋梁同 110 ヶ所、崖崩れ 24 ヶ所、田畑流失埋没 187ha、同冠水浸水 30,542ha の被害を記録した。芽室川で氾濫があったため、芽室町の被害が特に大きかった。

④ 昭和 50 年(1975 年)5 月 17 日～18 日

本州東岸沿いに北上し釧路沖から東南東進した低気圧による大雨により、帯広で 73mm、上札内 142mm の降雨量を記録した。その結果、十勝支庁管内全域家屋床上浸水 20 戸、床下同 166 戸、道路損壊 497 ケ所、橋梁同 77 ケ所、堤防同 428 ケ所、田畑流失浸水 2,698ha の被害を記録した。



写真 4-2 十勝川右岸 大津築堤の内水氾濫（豊頃町）



写真 4-3 帯広川の溢水氾濫状況（帯広市西 4 条南 2 丁目）

⑤ 昭和 56 年(1981 年)8 月 3 日～6 日

低気圧からのびる停滞前線のため、ニペソツで 354mm、上美生^{かみ び せい}305mm、上札内^{かみさつない}337mm の降雨量を記録した。その結果、床上床下浸水 355 戸、農地流失 99ha、農作物被害 49,406ha、河川決壊 407 ケ所、道路損壊 519 ケ所、橋梁破損 61 ケ所、総被害額 548 億円の被害を記録した。



写真 4-4 十勝川の溢水氾濫による農地の被害状況（新得町屈足地区^{くつたり}）



写真 4-5 然別川 西瓜幕橋^{にしょうりまく}付近の被災状況（鹿追町）

⑥ 平成 13 年(2001 年)9 月 9 日～12 日

秋雨前線および台風第 15 号の接近のため、上札内 235mm、更別 223mm の降雨量を記録した。その結果、床上床下浸水 11 戸、農業被害 1,616ha、土木被害は河川 22 ケ所、道路 2 ケ所、橋梁 1 ケ所等であった。

⑦ 平成 23 年(2011 年)9 月 2 日～6 日

9 月 1 日に日本の南方海上から北上した台風第 12 号や、熱帯低気圧周辺の暖湿気が北日本へ流入し、大気的不安定を増大させ、前線の活動を活発化し、道内各地に記録的な大雨を降らせた。

1 日 17 時から 7 日 3 時までの総雨量は、開発局所管の観測所では、記念沢 647mm、ピリガペタヌで 490mm、七の沢で 459mm を始め、総雨量が 400mm を超える観測所が 5 箇所、300mm を超える観測所が 16 箇所に上がった。

また気象庁所管観測所では、糠平で 432.5mm、上札内で 285.5mm、三股^{みつまた}で 256.5mm を観測し、その他の観測所でも 60～255mm を記録した。

その結果、床下浸水 2 戸に加え、音更川の直轄管理区間 KP18.2 左岸付近では堤防の一部が流出した。

⑧ 平成 28 年(2016 年)8 月 17 日～31 日

8 月 16 日から 24 日の 1 週間の間に台風第 7・11・9 号が北海道に上陸するというかつてない気象状況となった。このため北海道内は広い範囲で 300mm を超える雨量となり、昭和 56 年(1981 年)の通称“56 豪雨”以来の大規模な降雨災害が発生した。また、8 月 29 日から 31 日にかけて台風第 10 号が北海道に接近、各地で大雨による河川の氾濫や土砂災害をもたらした。

【8 月 17 日からの台風第 7 号】

台風は東北地方にあって、北海道内の雨は停滞前線によるものである。停滞前線に沿うように、渡島半島からオホーツク海に向かって降雨域が広がり、台風の北上に伴って、北海道には台風本体の降雨域がかかるようになった。

【8 月 19 日からの台風第 11 号】

停滞前線の降雨は、どの時間帯も南西から北東にかけて雨雲が伸びている。文字通り停滞しているので、降雨域もあまり変化が無く、同じ場所に雨を降らせるので大雨となって災害に結びつく。停滞前線による降雨と、北上してくる台風本体の降雨によって、二山型の降雨パターンとなることが多い。しかし、本体の雨域は台風を中心より東側にあり、道東を除いて停滞前線による一山型の降雨パターンとなった。

【8 月 22 日からの台風第 9 号】

台風第 9 号も停滞前線による降雨が先行し、台風本体の北上で再び降雨が強まる二山型の降雨パターンとなった。この台風の本体周辺の雨域は北西側にあって、8 月 23 日 6 時頃に新ひだか町付近へ上陸したが、鵒川^{むかわ}流域や静内川^{しずない}流域に大雨を降らせた。

8 月 16 日から 24 日の 1 週間の総雨量は、美里別上流^{びりべつ} 400mm、二股^{ふたまた} 375mm、丸山^{まるやま} 363mm、ナイタイ 433mm、日勝^{にっしょう} 375mm、戸蔭別^{とったべつ} 341mm、札内二股 387mm とまさに記録的な大雨となった。

これらの大雨により、各地で土砂災害や河川の氾濫、道路の冠水や流失などが発生した。北海道の調べによると 8 月 24 日現在、死者 1 名、重軽傷者 8 名、床上浸水 73 軒、床下浸水 278 軒、避難指示は 10 市町村に出された。

交通網にも大きな影響が出て、通行止めは国道が最大 9 路線、11 区間、道道は 113 路線、161 区間に及んだ。JR も各地で寸断され、農業被害は 17,000ha を超えた。

また、足寄町では利別川と足寄川の水があふれ、40～50 世帯が床上・床下浸水した。

【8 月 29 日からの台風第 10 号】

台風第 10 号は、8 月 30 日朝には関東の東海上から北上し、18 時前に岩手県大船渡市付近に上陸した。その後、東北北部を北西に進み日本海に抜けて、31 日 0 時には渡島半島の西海上で温帯低気圧に変わった。

十勝地方では、29 日には千島の東に中心をもつ高気圧の縁をまわる湿った東よりの風の流入による雨が続き、台風第 10 号の北上に伴って次第に雨が強まった。台風第 10 号が最も接近した 30 日夜から 31 日未明には雨や風がピークとなり、30 日 23 時 30 分に新得町南部付近では約 90mm の猛烈な雨（解析雨量による速報値）を観測した。29 日から 31 日にかけての総降水量は解析雨量によると日高山脈沿いの広い範囲とぬかびら源泉郷周辺で 300mm を超える大雨となった。

8 月 29 日から 31 日の 3 日間の総雨量は、日勝 363mm、伏見 409mm、戸蔭別 574mm、上札内 378mm、札内二股 388mm、札内川ダム 501mm とまさに記録的な大雨となった。これらの大雨により、各地で土砂災害や河川のはん濫、道路の冠水や流失などが発生した。北海道の調べによると 10 月 11 日現在、死者 3 名、重軽傷者 7 名、床上浸水 200 軒、床下浸水 711 軒、避難指示は 10 市町村に出された。

交通網にも大きな影響が出て、通行止めは国道が最大 24 路線、58 区間、道道は 113 路線、248 区間に及んだ。JR も各地で寸断され、農業被害は 19,000ha を超えた。また、札内川の KP20.6 付近と KP40.8 付近の 2 箇所と音更川の KP20.9 付近の 1 箇所で堤防が決壊した。日勝峠では橋の崩落で通行止となった。



写真 4-6 札内川 戸蔭別川合流付近の決壊後の状況（帯広市）

4-3. 治水事業の沿革

① 改修事業の沿革

十勝川水系の治水事業は、十勝平野への開拓を定着させるため、頻発する洪水の防御、下流部湿地帯の解消により、農地や可住地の創出を図ることを目的として進められた。

十勝川の治水は、明治 31 年(1898 年)の大洪水を契機として、大正 7 年(1918 年)に十勝川治水計画の大綱がたてられた。また、大正 11 年(1922 年)8 月に未曾有の大洪水に遭遇したことから、同 12 年(1923 年)に悲願の改修工事がスタートした。

この年十勝川治水事務所が創設され、測量調査、用地処理、家屋移転等を行い、大正 15 年(1926 年)池田市街裏左岸新水路掘削及び築堤並びに鉄道橋上流の築堤工事をはじめ、昭和 6 年(1931 年)には統内新水路掘削に着手、昭和 12 年(1937 年)に至って暫定通水を見た。そのほか売買川、途別川、帯広川、牛首別川等支川の切り替えが昭和 25 年(1950 年)までに完成している。

また、この時期の主な工作物として、千代田堰堤が昭和 10 年(1935 年)に完成したのをはじめ、同 16 年(1941 年)には十勝大橋が流水の阻害となっていた木橋から、永久橋に架換えられた。

戦中・戦後にかけて物資不足が甚だしく、また、戦費の調達により工事の中止や縮小を余儀なくされ、治水事業は応急措置程度であったが、昭和 26 年(1951 年)北海道開発局の発足で一段と公共事業に力を入れることになり、築堤工事、浚渫工事が進められ、治水事業は一層の発展をみた。

戦後の治水事業は、下流部の掘削及び浚渫と愛牛地点での締切、無堤地区の解消に重点がおかれ、流下能力増進のための浚渫、工作物強化のための護岸等を実施してきている。昭和 34 年(1959 年)には利別川新水路が通水した。

昭和 41 年(1966 年)には、十勝川水系工事実施基本計画において流域の治水安全度を 1/100 と設定し、基準地点「茂岩」、「帯広」において、基本高水のピーク流量をそれぞれ 10,200 m^3/s 、4,800 m^3/s と定め、洪水調節施設で 500 m^3/s 、800 m^3/s を調節し、計画高水流量を 9,700 m^3/s 、4,000 m^3/s とした。昭和 55 年(1980 年)には、既定計画策定以降の洪水発生状況及び帯広市周辺の人口・資産の状況等を考慮し、十勝川中下流部（帯広地点、茂岩地点を含む）及び帯広市周辺支川の計画規模を 1/150 と設定し、基準地点「茂岩」、「帯広」において、基本高水のピーク流量をそれぞれ 15,200 m^3/s 、6,800 m^3/s と定め、洪水調節施設で 1,500 m^3/s 、700 m^3/s を調節し、計画高水流量を 13,700 m^3/s 、6,100 m^3/s とした。なお、平成 19 年(2007 年)策定の河川整備基本方針においても、既定計画の計画高水流量を踏襲している。

その後、昭和 57 年(1982 年)には浦幌十勝導水路完成、平成 10 年(1998 年)には音更地区の木野引堤が完成した。洪水調節などを行う多目的ダムとしては、昭和 59 年(1984 年)に十勝ダムが、平成 10 年(1998 年)に札内川ダムがそれぞれ完成している。また、中流部の流下能力不足の解消を目的として、千代田新

水路が平成 19 年(2007 年)に完成した。新水路は上流部に分流堰を設け、千代田堰堤がある現水路側で通常時の水流を確保する一方、洪水時にはゲートを開けて新水路に水を流すものである。

平成 28 年(2016 年)6 月に、「水防災意識社会」の再構築を目的に十勝川外減災対策協議会を組織したが、その直後の 8 月に基準地点茂岩などにおいて観測史上最高水位を観測した洪水に見舞われ、夜間の避難勧告の発令や住民の避難率の低さ等の課題が浮き彫りとなった。これらの課題も踏まえ、国、道、市町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、更なる「水防災意識社会」の再構築に向けて、堤防整備や河道掘削、避難指示・避難判断基準に着目した防災行動計画(タイムライン)の作成、防災行政無線改良など、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

具体的には、流域の人口・資産等が集積している帯広圏(帯広市、音更町、芽室町、幕別町)では、急勾配で流下する音更川及び札内川の主要支川が相次いで合流するため洪水流が集中しやすく、比較的短時間に水位が上昇しやすいことから、氾濫により甚大な被害を防止・軽減するため、道東の拠点である帯広市では社会情勢の変化を踏まえ令和 2 年に「第 2 次帯広市都市計画マスタープラン」を策定し、「洪水による被害を防止・軽減するため、関係機関と連携し、施設整備や市民周知など、総合的な治水対策を図る」「都市住民の潤いと安らぎをもたらす空間の創出に努める」とし、避難行動に必要な防災情報の提供等の環境整備に取り組んでいる。

さらに、芽室町では人口減少化においても、持続可能な都市の形成を図るため、「居住誘導区域」と「都市機能誘導区域」を設定する立地適正化計画を作成し、災害告知用戸別端末の設置や雨水排水施設の整備促進などの防災対策を盛り込み洪水や土砂災害に対する防災力の向上が図られている。

平成 28 年(2016 年)8 月洪水は、1 週間に 3 個の台風が北海道に上陸し、その後の台風 10 号の接近により、十勝川では既往最大となる洪水が発生し、十勝川上流部や支川音更川、札内川などの河岸侵食等により複数個所で堤防が決壊し、十勝川の下流部では長時間にわたって計画高水位を超過した。特に、日高山脈東部等の降雨量が多い範囲で山地崩壊が発生し、河川と合流する位置で新しい土石流扇状地が形成され、流木の発生や、護床ブロックの流出被害等が確認された。また、ペケレベツ川など本川上流域や支川札内川上流支川において落橋や住宅の流出等の被害が発生するなど、土砂洪水氾濫により被害が拡大した。さらに、農作物の加工工場の被災や農作物自体の被害も甚大で、特に、十勝川流域などの道東の畑作地帯での被害が甚大となったことから同地域からの農作物供給量も落ち込み、東京市場などで農作物の価格高騰が発生するなど、全国の市場にも影響が及んだ。このため、関係機関が連携した「北海道緊急治水対策プロジェクト」を策定し、ハード対策として、堤防、河道掘削等の整備(河川等災害復旧事業・河川等災害関連事業・河川災害復旧等関連緊急事業)を概ね 4 年間で実施した。また、河道掘削で発生した土砂については、農業関係者と連携・調整し被災した農地に活用し農地の早期復旧を図るとともに、

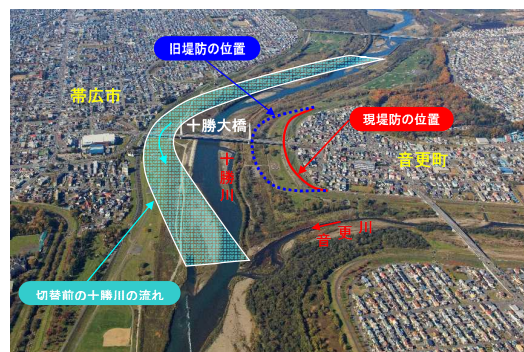
北海道においては、ペケレベツ川等で護岸整備、落橋した橋梁の架替等を実施した。また、住民避難を促すソフト対策や中小河川も含めた減災対策を推進し、ハード・ソフト一体となった緊急的な治水対策を実施した。

さらに、河川管理者、ダム管理者及び関係利水者により、令和 2 年（2020 年）5 月に十勝川水系治水協定が締結され、流域内にある 13 基の既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用すべく、施設管理者等の協力の下に洪水調節機能の強化を推進している。

また、気候変動の影響による水害の頻発化・激甚化を踏まえ治水対策の抜本的な強化として、令和 3 年（2021 年）3 月に「十勝川水系流域治水プロジェクト」を策定し、河川整備に加え、あらゆる関係者が協働して、流域の貯留機能の向上等を組み合わせた流域全体で水害を軽減させる治水対策を推進している。



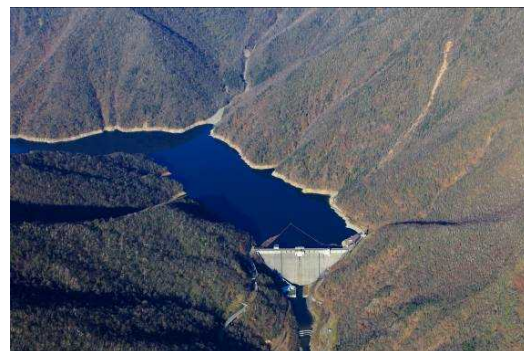
千代田新水路



木野引堤



十勝ダム



札内川ダム

(※：令和 2 年(2020 年)9～10 月撮影)

写真 4-7 改修事業の沿革

② 砂防事業の沿革

十勝川水系札内川流域では、昭和 29 年(1954 年)、昭和 30 年(1955 年)の豪雨で山容が一変するほどの崩壊が発生し、多量の土砂流出により発電ダムの埋没など多大の被害が発生した。この災害を契機として、昭和 36 年(1961 年)より札内川流域は直轄砂防区域に指定され、また昭和 46 年(1971 年)に砂防基本計画の策定がなされた。その後、直轄指定区間の編入(拡大)および計画土砂量の見直しを受けて、昭和 56 年(1981 年)4 月に「十勝川 札内川砂防基本計画書」が再度策定された。

平成 28 年(2016 年)8 月 17 日～21 日の相次ぐ 3 つの台風による断続的な降雨に加えて、台風第 10 号の接近に伴い、8 月 28 日～31 日にかけて支川の札内川上流など日高山脈東麓及び音更川上流の糠平湖を中心に大雨がもたらされた。戸蔦別観測所や札内川ダム観測所で既往の主要洪水を上回る雨量を記録したほか、十勝川の茂岩観測所等 12 箇所の水位は、観測史上最も高い水位を記録した。人家や線路の流出など甚大な被害をもたらした。戸蔦別川では多量の土砂生産が生じ、施設の損壊、下流域での氾濫等の被害が生じたため、砂防基本計画の改定を行った。



砂防ダム（戸蔦別川）

写真 4-8 砂防事業の沿革

表 4-2 十勝川水系治水事業年表 (1/2)

年 月 日	記 事
明治 16 年	依田 勉三 十勝に入植
明治 30 年	十勝川流木等浚渫
明治 34 年	河西土木派出所創設
明治 36 年	十勝川平面測量着手、水文観測所設置、観測開始
明治 39 年	水準測量開始
明治 43 年	第 1 期拓殖計画樹立
大正 3 年	本別市街、利別市街、大津市街附近に治水堤防費による護岸施工
大正 7 年	十勝川治水計画大綱確立
大正 8 年	拓殖計画改訂、9 ヶ年計画樹立
大正 11 年	未曾有の大洪水遭遇、計画改訂
大正 12 年	十勝川治水事務所創設、西帯広～茂岩間改修工事着手
大正 15 年	本工事着手、千代田橋上流左岸池田市街裏左岸新水路掘削および築堤
昭和 2 年	第 2 期拓殖計画樹立、池田治水工場設置、千代田治水工場を幕別に移転
昭和 3 年	帯広治水事務所創設（十勝川、常呂川、釧路川事務所統合） 帯広川切替完了
昭和 4 年	利別鉄橋～池田市街裏切替完了、途別川切替着手
昭和 5 年	千代田附近切替（798m）完了、売買川切替着手
昭和 6 年	統内原野キモント沼頭迄掘削（統内新水路）計画決定（11 月）、売買川切替完了
昭和 7 年	千代田堰堤着手
昭和 8 年	途別川切替完了
昭和 9 年	キモント沼頭迄通水、茂岩事業所設置
昭和 10 年	千代田堰堤完了（床固工）、茂岩橋、十勝大橋着工
昭和 11 年	帯広川切替完了
昭和 12 年	キモント沼尻より茂岩間暫定通水（統内新水路）
昭和 14 年	帯広土木現業所創設（治水事務所廃止）
昭和 16 年	十勝大橋完了、猿別川改修工事着手
昭和 18 年	建設機械等軍事施設に徴用される
昭和 21 年	第 2 期拓殖計画最終年度（計画の約 55%施工）
昭和 22 年	札内川調査着手（11 月）、牛首別川工事着手
昭和 23 年	売買川合流点附近工事着手
昭和 24 年	川西事業所設置、茂岩橋下流新水路掘削着手
昭和 25 年	帯広土木現業所治水課設置
昭和 26 年	北海道開発局創設、茂岩橋架設第 1 期工事着手
昭和 27 年	十勝沖地震津波
昭和 28 年	ポンプ浚渫船茂岩橋下流浚渫、茂岩橋第 1 期工事完了
昭和 30 年	芽室事業所設置
昭和 31 年	川西事業所移転大正事業所となる、利別川河合新水路通水
昭和 32 年	エキスカ機関車組合せ施工廃止、トラック運搬切替、芽室事業所設置、台風第 22 号来襲
昭和 33 年	パンケチン川改修工事着手
昭和 34 年	大津分室設置
昭和 36 年	茂岩橋完成、静内川改修着手、直轄砂防調査開始
昭和 38 年	十勝川愛牛地区締切
昭和 39 年	台風第 14 号来襲

表 4-3 十勝川水系治水事業年表 (2/2)

年 月 日	記 事
昭和 40 年	トイトッキ浚渫着手
昭和 43 年	茂岩浚渫着手
昭和 44 年	北帯広掘削完了
昭和 45 年	静内川改修完了、旧帯広川内水排除に着手
昭和 46 年	千代田掘削着手、パンケチン川改修完了
昭和 47 年	都市環境整備事業札内地区着手、十勝太特殊堤着手、直轄砂防事業着手、台風第 20 号来襲
昭和 48 年	帯広河川事務所発足、十勝ダム建設着手
昭和 49 年	トイトッキ浚渫暫定完了
昭和 50 年	下牛首別排水機場、浦幌十勝導水路着手
昭和 51 年	全道的に降雨量少なく十勝地方も異常渇水が発生した
昭和 52 年	愛牛導水門着手(S56 完了)
昭和 53 年	下牛首別排水機場暫定完了
昭和 55 年	十勝川河口処理千代田築堤の背割堤着手
昭和 56 年	前線および台風第 12 号の影響により各所で被害発生(8 月)し、池田排水機場着手、帯広川低水護岸に着手
昭和 57 年	トイトッキ築堤高水敷掘削着手、浦幌十勝導水路竣工
昭和 58 年	池田排水機場竣工、新川水門着手
昭和 59 年	新川水門竣工、猿別水門着手、十勝ダム完成、
昭和 60 年	木野引堤(用地処理)着手、札内川ダム建設着手
昭和 61 年	育素多排水機場着手
昭和 62 年	猿別水門竣工
平成元年	十勝川下流の丘陵堤に着手
平成 2 年	救急内水対策事業(大津地区)着手、育素多排水機場竣工
平成 3 年	信取築堤着手
平成 3 年	木野引堤事業 十勝大橋架け換えに着手
平成 4 年	救急内水対策事業大津地区完了、桜づつみ(池田町)、緑の回廊(帯広市)着手
平成 5 年	釧路沖地震により統内築堤をはじめ、大きな被害が発生し、大規模な復旧工事を行う
	救急内水対策事業(茂岩地区)に着手、桜づつみ(幕別町)に着手
平成 6 年	桜づつみ(本別町)に着手、釧路沖地震復旧工事完了
平成 7 年	千代田新水路事業、高島頭首工改築に着手
平成 8 年	救急内水対策事業(茂岩地区)完了
平成 10 年	木野引堤事業完了
平成 10 年	札内川ダム完成
平成 11 年	治水の杜事業着手(幕別町)
平成 12 年	光ファイバによる遠隔操作(下牛首別排水機場)
平成 13 年	高島頭首工本体完了
平成 15 年	十勝沖地震が発生し、緊急災害復旧工事・災害復旧工事を実施
平成 19 年	相生中島地区河道掘削工事着手(H23 完了)、十勝川水系河川整備基本方針策定
平成 22 年	十勝川水系河川整備計画策定
平成 23 年	台風第 12 号の影響により音更川の堤防一部流出
平成 28 年	台風第 7・11・9 号の北海道上陸、台風第 10 号の接近により戦後最大規模の洪水が発生し、札内川 2 箇所、音更川 1 箇所です堤防決壊

5. 河川空間の現状

5-1. 河川敷等の利用の現状

① 河川敷地の利用状況

近年、生活の質向上の追求に伴い、河川は、都市域において自然と触れ合うことのできる重要な空間、憩いの場であるという考えが広く普及してきている。また、河川空間の持つ豊かな自然を保全し、自然と人が共生することによって真に豊かな生活や人間性を形成できるとして、水辺に親しめる空間が人々に求められている。

帯広市付近における環境整備事業は、札内川では昭和53年(1978年)より始まり、親水・運動施設の要望が多かった札内川・売買川合流点の親水公園は平成3年(1991年)に完成し、平成6年(1994年)には札内川・帯広川の合流点でカヌー発着場などを伴う親水広場が完成して住民の憩いの場となった。また、木野引堤事業に伴い、十勝大橋付近では高水敷の整正が行われ、パークゴルフ場、イベント広場、散策路などが整備されている。

最近では「かわまちづくり」の取組が進められており、「十勝川中流域かわまちづくり」では音更町、池田町、幕別町からなる地域において、十勝川温泉、十勝エコロジーパーク、千代田堰堤などの観光施設を結ぶサイクリングコースを整備し、周遊観光ルートの創出を目指して取り組んでいる。また、帯広市では河川空間において、花火大会やイカダ下り、各種スポーツ大会等の様々なイベントが開催されており、「帯広市かわまちづくり」では、こうした好適な立地環境を活かして、誰もが利用しやすく賑わいのある河川空間の創出と、地域活性化を目指した取組を進めている。

表 5-1 河川利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		H26	R 元	平成 26 年度	令和元年度
利用形態別	スポーツ	1,318	624		
	釣 り	57	25		
	水遊び	14	14		
	散策等	475	402		
	合 計	1,864	1,065		
利用場所別	水 面	11	10		
	水 際	60	29		
	高水敷	1,621	878		
	堤 防	172	148		
	合 計	1,864	1,065		

平成 31 (令和元) 年度 十勝川河川空間利用実態調査業務報告書(令和2年2月)より

② 高水敷の利用状況

十勝川水系における河川敷地の使用状況をみると、令和3年(2021年)11月現在で2,316haの利用が行われており、この内1,402haが採草放牧地に、畑利用を含めると1,509haが生産活動に利用されている。また、市街地周辺では公園、緑地、運動場に利用されており、75件、594haを占めている。

表 5-2 河川敷地の占有状況

占用目的 (大項目)	占用目的 (小項目)	件数	面積 (m ²)
公園・緑地		64	5,163,149
運動場	地方公共団体	11	777,859
	一般	0	0
	学校	0	0
採草地		387	14,017,031
田畑	水田	0	0
	畑	81	1,070,064
ゴルフ場		0	0
自動車練習場		0	0
船舶係留施設		0	0
その他の敷地		25	341,640
住居・倉庫		13	7,350
樋門・樋管		4	1,003
橋梁		105	407,350
埋設物		311	28,949
その他の工作物		1,206	1,343,410
合計		2,207	23,157,802

出典：帯広開発建設部

5-2. 河川の利用状況

① 上流部

十勝川上流部における河川利用については、十勝ダム湖（東大雪湖）付近では、釣りやキャンプ場に利用されている。新清橋、共栄橋付近ではカヌー下りを楽しむことができる。支川佐幌川さほろの佐幌ダム湖（サホロ湖）においては、カヌーなどに利用されている。



写真 5-1 上流部の河川利用

② 中流部、札内川、音更川

十勝川中流における河川利用については、十勝大橋～十勝中央大橋付近までイカダ下りが行われる。河川敷では、十勝大橋下流の運動公園において夏の花火大会やパークゴルフ場などに利用されている。また、サケの捕獲場となっている千代田堰堤では多くの観光客で賑わう。

音更川の上士幌町、士幌町、音更町区間の河川敷はパークゴルフ場に利用されている。また、上士幌町では航空公園として利用され、熱気球の競技会が行われている。

札内川の河川敷では中札内村や帯広市で運動公園として利用されているほか、帯広市や中札内村の区間でパークゴルフ場に利用されている。



写真 5-2 中流部、札内川、音更川の河川利用

③ 下流部、利別川

十勝川下流における河川利用については、豊頃町区間において河川敷は運動公園として利用されており、豊頃町夏祭りの花火大会会場となっている。

利別川の本別町や本別町区間における河川敷はグラウンドとして利用されている。



写真 5-3 下流部、利別川の河川利用

6. 河道特性

十勝川の特徴について日本全国の河川と比較してみると、①流域面積で6位の大きさである、②幹川流路延長で17位の長さである、③河床勾配が極めて急である、④流域の形状は扇状（輻射状流域）をし、流域形状係数（流域面積/河川延長）は6位で、幹川流路延長の長い河川では群を抜いて高いといった特徴をもつ。また、中流部の帯広周辺で急流河川の札内川・音更川等の主要支川が集中して合流するため、洪水のピーク流量が大きく水位も比較的短時間に急変する。

河床勾配が急な十勝川上流部、音更川及び札内川の築堤整備では、洪水時に開口部からの逆流により洪水流の勢いを弱め、上流で氾濫した場合における堤内地側の氾濫水を河川に速やかに戻す機能や遊水機能を有する霞堤方式が採用されている。

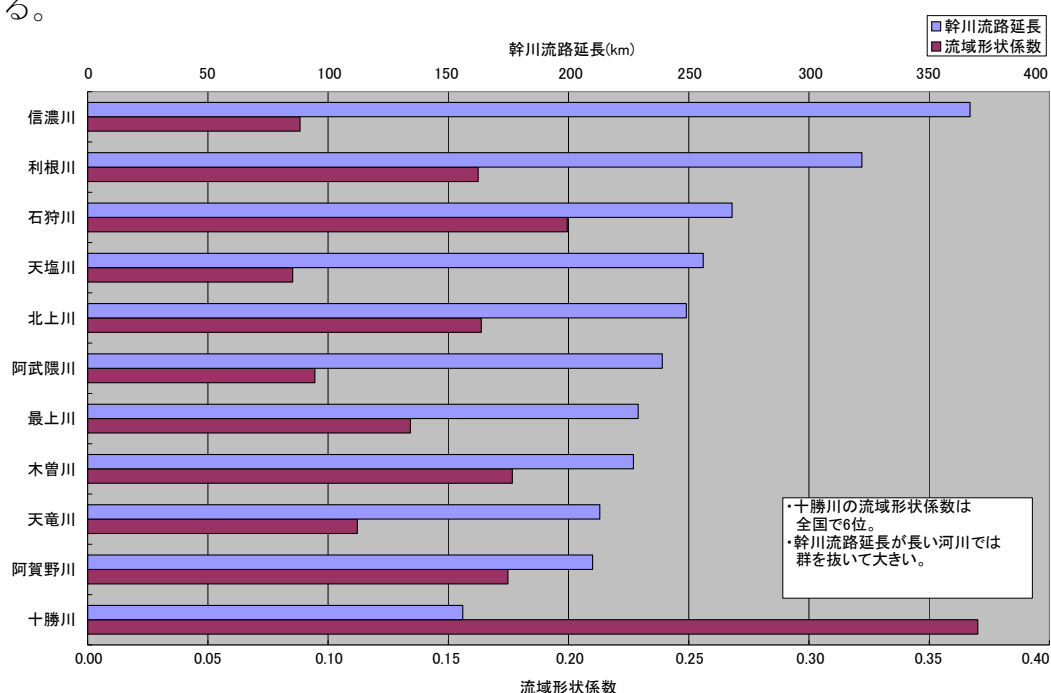


図 6-1 流域形状係数の比較

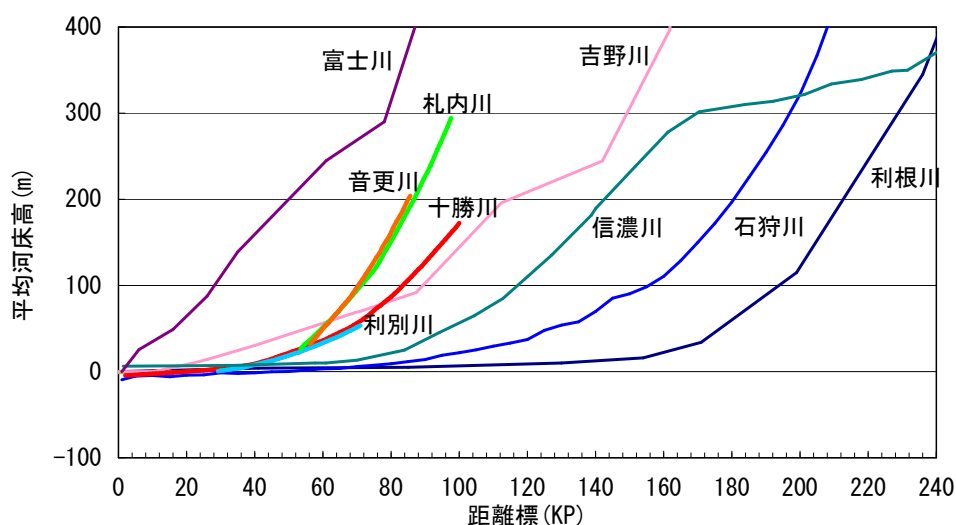


図 6-2 主要河川縦断面図

6-1. 十勝川の河道特性

十勝川は、その源を大雪山系の十勝岳(標高 2,077m)に発し、山間峡谷を流れて十勝平野に入り、佐幌川、芽室川、美生川、然別川等の多くの支川を合わせて帯広市に入り、音更川、札内川、利別川等を合わせ、豊頃町において太平洋に注ぐ、幹川流路延長 156km、流域面積 9,010km²の一級河川である。流域は、かつて十勝川本川の河口部であった浦幌十勝川及びその支川流域を含んでいる。

① 上流域 (KP62.0~100.0)

札内川合流点付近までの上流部は、河床勾配が約 1/200~1/600 であり、河道は砂礫の複列砂州を形成している。高水敷等には、オノエヤナギ、ハルニレのほか、氷河期の遺存種のケショウヤナギが広く分布しており、国内最大の淡水魚であるイトウをはじめ、エゾウグイ、サクラマス、ハナカジカ等が生息している。さらに、河畔林には、アオジやコアカゲラ、センダイムシクイ等、砂礫の河原には、イカルチドリ、コチドリ、イソシギ等が生息している。



写真 6-1 十勝川上流域

(令和2年(2020年)10月撮影)

② 中流域 (KP33.6~62.0)

札内川合流点から利別川合流点に至る中流部は、河床勾配が約 1/800~1/1,200 であり、やや大きく蛇行しながら流れる。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林、草原、池等多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。ヤナギ高木林やハルニレ林を中心とした河畔林が見られる。



写真 6-2 十勝川中流域

(令和2年(2020年)10月撮影)

河原にはオクエゾトラカミキリ等の昆虫類も確認されている。鳥類はヒシクイや、マガンなどの渡り鳥の越冬地及び中継地となっている。また、魚類では、エゾウグイやフクドジョウ、イトヨ、ハナカジカ、カワヤツメ等が生息しているほか、千代田堰堤ではサケの遡上が見られる。

③ 下流域 (KP2.4～33.6)

利別川合流点から河口までの下流部では、河床勾配が約 1/3,000～1/4,500 であり、沖積平野を緩やかに蛇行して河口に至っている。広い高水敷は、その多くが採草牧草地として利用されている。河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が分布している。ヨシ群落等の湿生草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡地は、ホソバドジョウツナギ、ヒシモドキ等の貴重な植物の生育地であるとともに、国指定の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、穏やかな水辺はマガン等のカモ類、ウミネコ、オオセグロカモメ等のカモメ類、渡り鳥の越冬地及び中継地になっているほか、オジロワシ、オオワシの採餌場になっている。また、シラウオやヌマガレイ等の汽水性の魚類が生息しているほか、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシヤモが遡上、産卵している。



写真 6-3 十勝川下流域

(令和2年(2020年)9月撮影)

6-2. 利別川の河道特性

十勝川水系最大の支川である利別川は、支川の足寄川の上流部に阿寒国立公園があり、陸別町から足寄町、本別町を通過し、ワインの製造が盛んな池田町を経て、十勝平野の東部で十勝川に合流する。高水敷等は市街地周辺を除き採草放牧地等に利用されているほか、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモなどの大径木の多い河畔林が残り、シジュウカラ、アカゲラ、エゾヤチネズミ、エゾリス等樹林性の動物の生息地となっている。また、河岸の土の崖では、ショウドウツバメの集団営巣地が多く見られる。

魚類では、カワヤツメ、エゾウグイ、イトヨ、エゾハナカジカ等が生息している。



写真 6-4 利別川

(令和2年(2020年)9月撮影)

6-3. 札内川の河道特性

支川の札内川は、上流部に日高山脈襟裳国定公園があり、札内川ダムを經由して、中札内村を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。河川は蛇行し、砂礫の複列砂州が多く見られ、河畔等には、ケショウヤナギ林が広がり、札内川特有の河川景観を呈している。なお、これらのケショウヤナギ林の一部は、北海道指定の天然記念物となっている。哺乳類ではカラフトアカネズミ等、両生類ではエゾサンショウウオ等の生息が確認されている。魚類ではエゾウグイ、サクラマス（ヤマメ）、ハナカジカ等が生息している。



写真 6-5 札内川

(令和2年(2020年)10月撮影)

6-4. 音更川の河道特性

支川の音更川は、上士幌町、士幌町、音更町を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。高水敷には砂礫地を好むケショウヤナギの群落が見られる。哺乳類ではエゾシマリス、カラフトアカネズミ等、両生類ではエゾサンショウウオ、エゾアカガエル等、昆虫類ではカワラバタ、ギンイチモンジセセリ等が確認されている。鳥類では、樹林性のコアカゲラや、草地性のオオジシギなどが確認されている。魚類ではエゾホトケドジョウ、ハナカジカ等が生息している。



写真 6-6 音更川

(令和2年(2020年)10月撮影)

6-5. 浦幌十勝川の河道特性

浦幌十勝川は、旧十勝川の河口にあたり、トイトッキ締切によって浦幌十勝川となった。河床勾配が約 $1/6,000$ 程度と非常に緩勾配であり、比較的上流まで感潮区間が続く。浦幌十勝川の上流で合流している下頃辺川は、河床勾配が約 $1/300 \sim 1/2,000$ であり、交互砂州で礫径は小さく、砂礫堆は主に裸地である。また、下頃辺川下流部では平成4年(1992年)から8年(1996年)にかけて多自然型川づくりが行われている。

支川の浦幌川は、河床勾配が約 $1/2,000$ 程度と緩勾配であり、白糠丘陵をほぼ南北に流下する河川である。西側が丘陵地、東側が山地の様相を呈する。魚類ではヌマガレイ等の汽水性の種が見られるほか、ジュウサンウグイやイトヨ、エゾハナカジカ等の回遊魚が生息している。



写真 6-7 浦幌十勝川

(令和2年(2020年)9月撮影)

7. 河川管理

7-1. 河川管理区間

十勝川は、幹川流路延長 156km の一級河川であり、以下の区間を国が管理している。

表 7-1 十勝川水系の直轄管理区間

河川名	区 間		
	上流端（目標物）	下流端	延長（km）
十勝川	左岸 北海道十勝郡清水町字熊牛 38 番の 5 地先 右岸 同道同郡新得町字屈足東 2 線 25 番地先（森渡船場）	海	99.6
	右岸 北海道十勝郡新得町字屈足 55 番の 2 地先 右岸 同町字新得国有林 102 林班い小班地先	左岸 北海道十勝郡新得町字新得国有林 314 林班り小班地先 右岸 同町同字国有林 78 林班は小班地先	13.5
浦幌十勝川	左岸 北海道十勝郡浦幌町字愛牛 9 番地先 右岸 同町字下浦幌 347 番地先	海	10.6
浦幌川	左岸 北海道十勝郡浦幌町字生剛 136 番地先 右岸 同町同字 6 番地先	浦幌十勝川への合流点	1.5
下頃辺川	左岸 北海道十勝郡浦幌町字稲穂 362 番の 1 地先 右岸 同町同字 372 番地先	浦幌十勝川への合流点	13.2
浦幌十勝導水路	十勝川からの分派点	下頃辺川への合流点	1.2
牛首別川	左岸 北海道中川郡豊頃町豊頃字牛首別 45 番の 6 地先 右岸 同町豊頃同字 46 番の 3 地先（石神排水路の合流点）	十勝川への合流点	7.8
利別川	左岸 北海道中川郡本別町本別 100 番の 1 地先 右岸 同町本別 11 番の 2 地先	十勝川への合流点	42.8
干笥川	左岸 北海道中川郡池田町字東台 54 番地先 右岸 同町同字 55 番地先	利別川への合流点	2.3
猿別川	北海道中川郡幕別町字猿別 129 番地先の日本国有鉄道根室本線鉄道橋下流端	十勝川への合流点	4.7
途別川	北海道中川郡幕別町字千住 409 番地先の日本国有鉄道根室本線鉄道橋下流端	十勝川への合流点	3.2
土幌川	北海道河東郡音更町字下土幌北 3 線 60 番地先の道道旭橋下流端	十勝川への合流点	1.5
札内川	ヌウナイ沢の合流点	十勝川への合流点	45.7
	北海道河西郡中札内村国有林 158 林班イ小班地先の札内川堰堤 1 号ダム下流端	トムラウシ沢への合流点	7.2

河川名	区 間		
	上流端（目標物）	下流端	延長（km）
戸蔦別川	左岸 帯広市清川町東2線82番地先 右岸 同市中島町東3線84番の1地先	札内川への合流点	1.0
帯広川	帯広市東2条南1丁目2番地先の国道鎮橋下流端	十勝川への合流点	2.5
音更川	左岸 北海道河東郡士幌町字士幌幹西3線187番地先 右岸 同町字上音更基線204番地先	十勝川への合流点	29.9
然別川	北海道河東郡音更町字下音更北5線52番地先の道道国見橋下流端	十勝川への合流点	0.9
合計			289.1

7-2. 河川管理施設

堤防完成率は現在約86.7%の整備となっており、暫定築堤の完成化を進めているところである。樋門樋管の施設数も多く定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕・応急対策等の維持管理を行っている。

表 7-2 直轄管理区間堤防整備状況(令和2年(2020年)3月末現在)

	延長(km)
完成断面	351.4(86.7%)
暫定断面	49.4(12.2%)
無堤	4.4(1.1%)
計	405.1

※出典：「河川データブック 2021」

(https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen_db/pdf/2021/4-2-2.pdf)

※延長は、直轄管理区間(ダム管理区間を除く)の左右岸の計である。

※四捨五入の関係で、合計値が合わない。

表 7-3 直轄管理区間水閘門等河川管理施設整備状況

水門	排水機場	樋門樋管
4	4	120

※北海道直轄河川樋門樋管水門排水機場実態表

令和3年3月現在

7-3. 砂利採取

十勝川の砂利採取は戦前から行われており、経済の高度成長に伴う開発事業の進展により骨材の需要が激増し、河川砂利の資源不足が目立ってきた。

このため、昭和41年(1966年)に定められた「河川砂利対策基本要綱」に基づき、昭和43年(1968年)には「砂利等の採取に関する基本計画および規制計画」を策定し、さらに昭和47年(1972年)を初年度とする治水事業第4次5カ年計画を基本に昭和43年(1968年)の計画に検討を加え、昭和47年(1972年)以降の河川砂利の採取に対応している。

現在は、中州の発達等、河道内堆積土砂により流下能力が不足している区間等において、民間での有効活用による砂利採取を促進し、土砂掘削のコスト縮減を検討するため、河川管理上支障のない掘削基準河床及び掘削基準断面を定め、砂利採取規制計画の方針、禁止区域、採取可能量等を記載した「砂利採取規制計画」を策定し、5年毎に更新を行っている。

7-4. 水防体制

(1) 河川情報の概要

十勝川では、流域内に雨量観測所(61箇所)、水位・流量観測所(36箇所)を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い水防活動に活用している。また、近年では光ケーブル網により接続された遠隔監視カメラを用いた管理も行い、迅速な水防活動の一助となっている。

(2) 水防警報の概要

十勝川では、洪水による災害の恐れがある場合に、帯広などの基準となる水位観測所の水位をもとに市町村を含む水防関係機関に対し、河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

(3) 洪水予報

十勝川では、水防法および気象業務法に基づき、「洪水予報」を気象台と共同で発表している。流域の雨量や水位の状況、水位予測等を一般住民にわかりやすく迅速に伝えるべく整備を進めている。



図 7-1 洪水予報区間及び雨量観測所、水位・流量観測所

7-5. 危機管理への取組

(1) 水防連絡協議会との連携

洪水・高潮等による被害発生の防止または軽減を行うため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難、水防活動等を迅速かつ円滑に行うために水防連絡協議会が結成されている。この協議会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握、定期的な水防訓練等を行っている。

平成28年（2016年）6月に十勝川外減災対策協議会を組織し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国、道、市町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

(2) 水質事故対策の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故は、流域内に生息する魚類や生態系のみならず、水利用者にも多大な被害を与えている。水質事故が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、迅速で適切な対応が必要になっている。このため、環境保全連絡協議会により、連絡体制を強化するとともに、水質事故訓練等を行い迅速な対応を行うことが大切であり、また、水質事故に備え、常時から資機材の備蓄を行っている。

(3) 洪水危機管理の取組

洪水危機管理において、平常時から危機管理に対する意識の形成を図るとともに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水想定区域図を公表するとともに水防計画・避難計画の策定の支援、土地利用計画との調整を関係機関や地域住民等と連携して推進している。

8. 地域との連携

十勝川水系では、多くのNPOや市民団体の活動が盛んに行われるようになってきている。こうした状況を背景として、市街地近傍に良好な環境が残されている相生中島地区あいおいなかじまの川づくり、親水施設の現地改善活動など、良好な川づくりに向けての取組が行われている。

また、地域連携を深めるための情報交換と人的交流を促進することを目的として、河川の維持、河川環境の保全等の河川の管理につながる活動を自発的に行っている河川に精通する団体等により、河川清掃活動、教育プログラムの一貫として取り組んでいる環境教育や防災教育の指導のほか、河道掘削等の実施にあたって地域住民と連携して湿地ビオトープの復元、魚道設置や魚類の生息環境の改善について一体的に設計・施工などを実施する川づくりの取組など、様々な住民活動が展開されている。

このように十勝川では、各地域などの特色を活かし、まちづくりと一体となった水辺が計画・整備され、環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、十勝川の魅力や地域住民や観光客の利便性向上や地域振興の活性化のための取組が積極的に行われている。



川の自然観察会



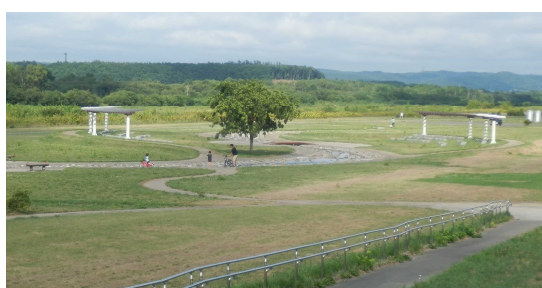
親水施設の現地改善活動



相生中島地区川づくり



河川清掃



十勝大橋付近の親水施設

写真 8-1 市民活動等の状況